異世界転移してゼ[redacted]力と特濃めちゃハメ♥♥♥

下（妊娠編）

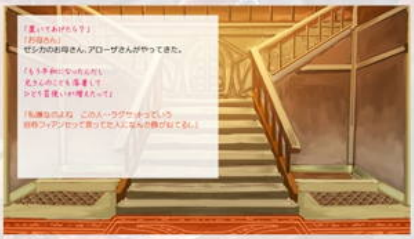
基本CG20枚、本編209枚、文章なし、効果音なしの差分合計446枚

ゲームの憧れのヒロインとついに種付け孕ませSEX！それも複数回の子作り！

前回のあらすじ 1

主人公の男は身寄りもなく、リストラされ絶望している。
ド○クエ８が好きでゼシカでオナニーするだけが生きがい。
ある日繁華街で謎の老婆の店に入るとそこで異世界転移を申し込むことに。
転移した先はド○クエ８の世界だった。

真っ先にゼシカに会いに行くが、本物に感動したのもつかの間、
顔がラグサットというゼシカがすごく嫌っている男に
似ているという理由だけで軽蔑されてしまう。



前回のあらすじ 2

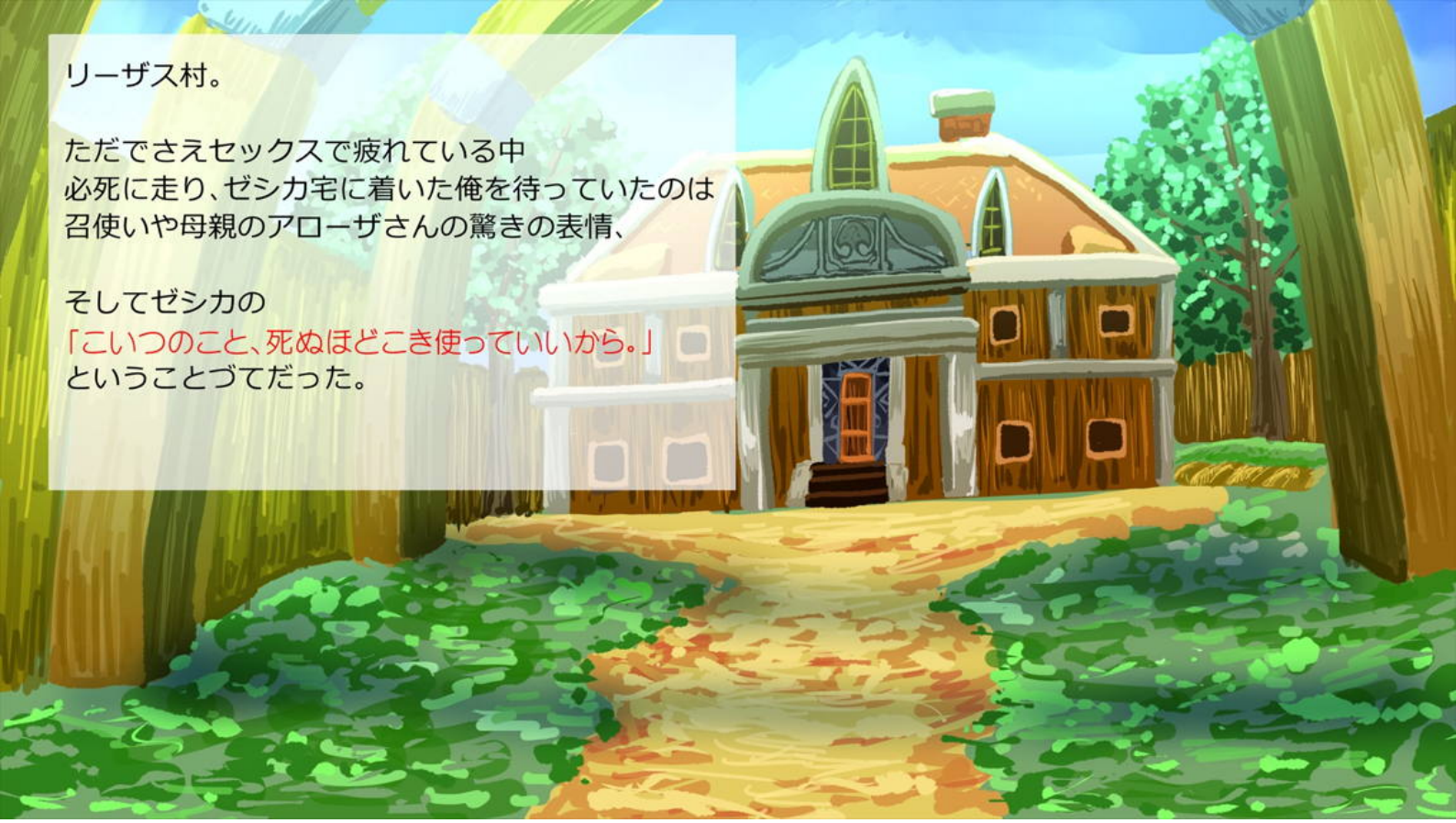
なんとか召使いとして潜り込むが、侮蔑される日々。
そんなある日。ゼシカの部屋の前を通りかかった時、
男はゼシカのオナニー声を聞いてしまう。

ゼシカは性欲だけが暴走してオナニーばかりしていた。
男はオナニーを見てしまい激怒したゼシカに魔法で怪我を負わされる。
男は怪我をいいことに、加害したゼシカにエッチなお願いを始める。

前回のあらすじ 3

お願いはエスカレートし、ゼシカも嫌悪感に包まれながらも性欲に抗えない。
ある日ついに全快した男が屋敷を去ることに。
だがゼシカのムラムラも頂点に達す。ゼシカは盗賊と偽って男を襲う。

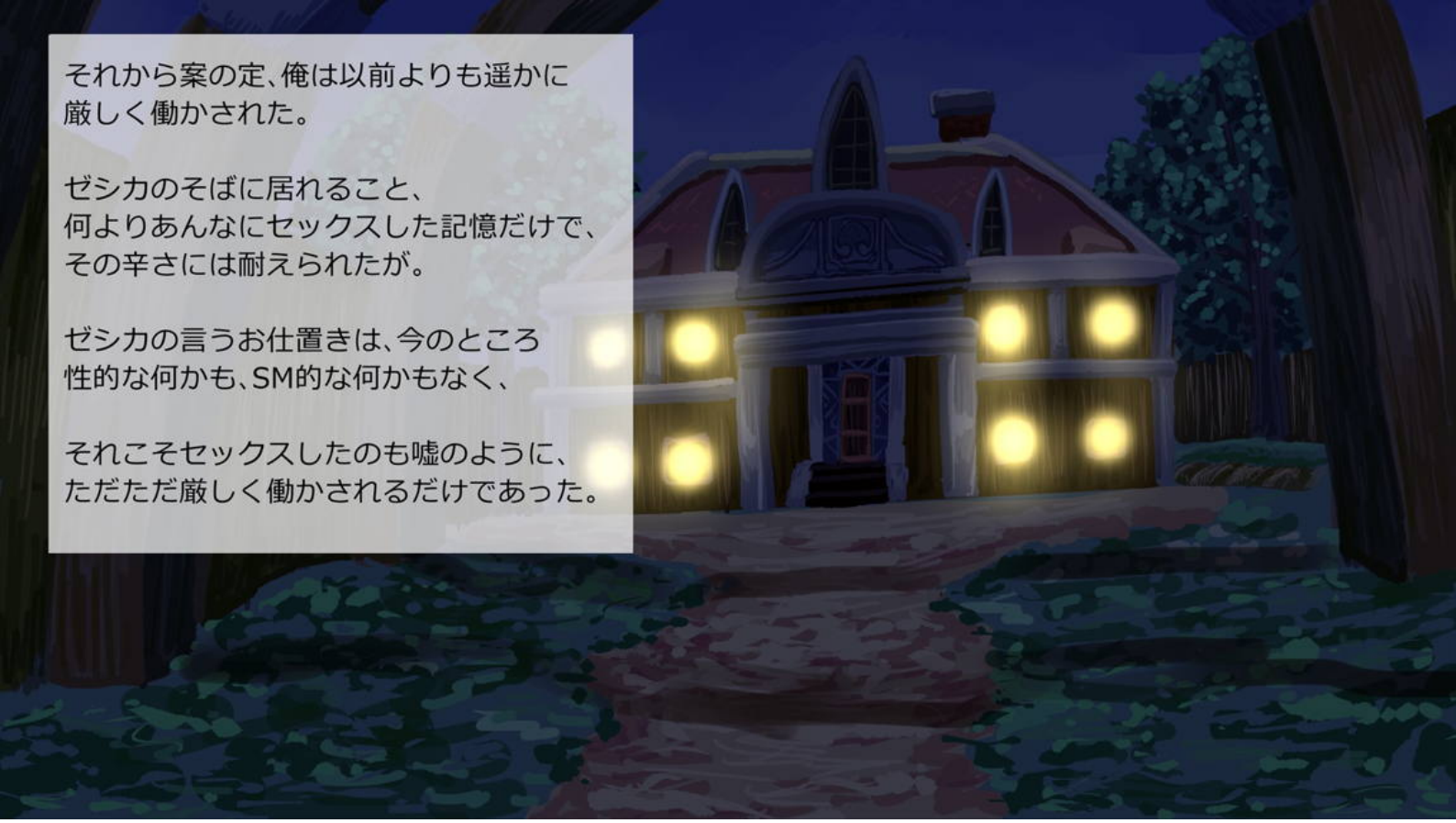
ゼシカから、1回だけという条件でのセックスが始まるが、男はペニスを抜かず、
挿入したまま32回も交尾をするのだった。(避妊具使用)



リーザス村。

ただでさえセックスで疲れている中
必死に走り、ゼシカ宅に着いた俺を待っていたのは
召使いや母親のアローザさんの驚きの表情、

そしてゼシカの
「こいつのこと、死ぬほどこき使っていいから。」
ということづてだった。



それから案の定、俺は以前よりも遥かに
厳しく働かされた。

ゼシカのそばに居れること、
何よりあんなにセックスした記憶だけで、
その辛さには耐えられたが。

ゼシカの言うお仕置きは、今のところ
性的な何かも、SM的な何かもなく、

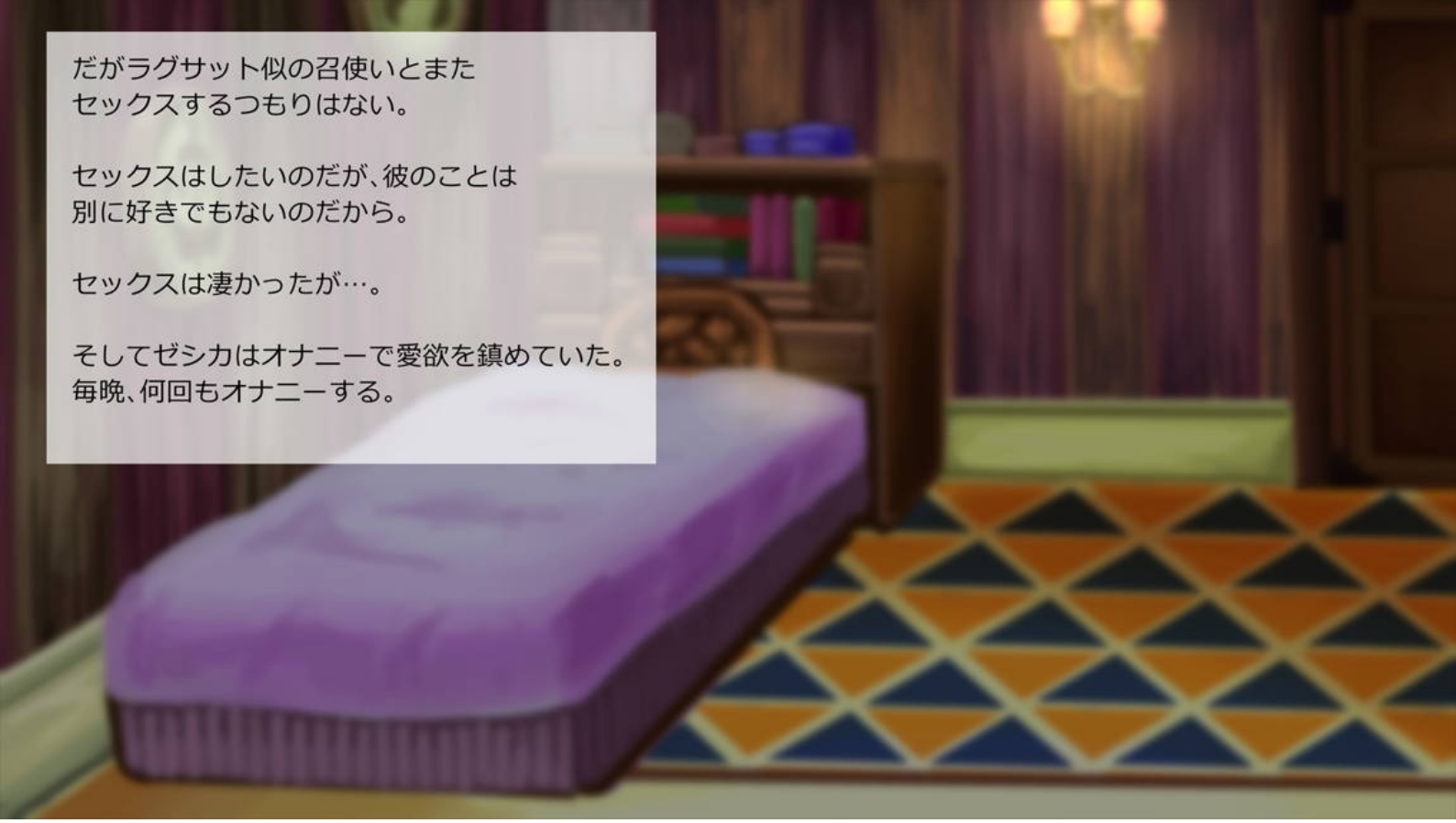
それこそセックスしたのも嘘のように、
ただただ厳しく働かされるだけであった。

だが、そんな中でもゼシカはやはり快感を
押さえられずに居た。

したことのない未知の快楽への渇望による
溢れる性欲は、セックスをしたことにより、

今度は明確にセックスへの渇望を
喚起してしまった。

おさまると思った性欲は、ほぼ変わらず、
湧き上がるばかりだ…。



だがラグサット似の召使いとまた
セックスするつもりはない。

セックスはしたいのだが、彼のことは
別に好きでもないのだから。

セックスは凄かったが…。

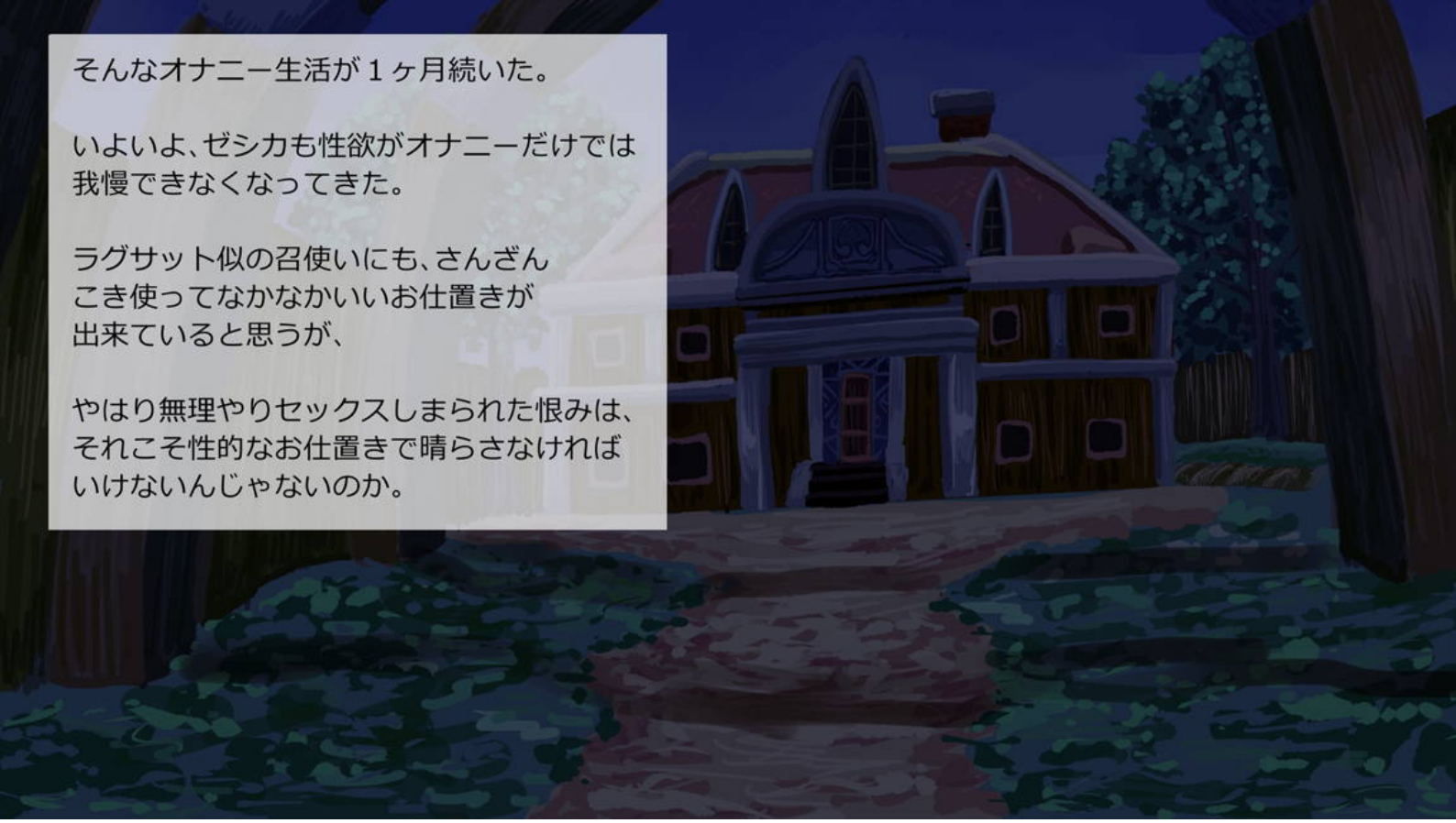
そしてゼシカはオナニーで愛欲を鎮めていた。
毎晩、何回もオナニーする。

「あぁっ…あ…！ん…！これっ…
こ…オナニーしないと…あん…！」
不本意ながら、もう処女膜を守る必要は
なくなってしまったので熱い愛液で
煮えたぎっているまんこに指を挿入する。
「指じゃちょっと物足りないけど…
中に違うものが入ってくる感触っ…♡」
ぐちゅ
ぐちゅ
ちゅぷ
ちゅぷ
じゅぽ
じゅぽ
「はうぅ…いやらしい音…熱い…！いやらしい匂い…！」
「あぁあ…！気持ちいいっ…ひっ…！
あぁあはあぁっ…！！あんっ、あっ、あっあっ！」
思い出すのはあの夜の光景。そのイメージ、
感触を必死に打ち消すがそれは快感を助長するばかり。

「はうぅうん…っ！んっ！あぁ！はぁ…あ！」
「あっ！あぁあ！んうっ！あ！はあっ、は！
気持ちいいっ…あふぁっ、ふあぁああうっ！」
「はあぁあああぁっ…ひいいぃいあぁっ…あ…！」
「はうっ！はうぅう！気持ちいいっ…！
あ…！あ…あうあぁあっ！
あ！んうぅうぅうっ！出っ…出ちゃぁ…」
ビク
ビク
ビク
クチュクチュ
ジュボ
ジュボ
ジュパ
ジュパ
ムズムズ
ガク
ガク
激しくなる指使い。指を出し入れする度に体が跳ね、
巨乳、腰、巨尻が揺れる。指の動きが激しくなる。
クリトリスも激しくこすりながらゼシカは絶頂してゆく…！
「はあぁっあ！気持ちいいっ…もっとっ…あっ…あ…！あ！
んあぁああっぁあはあぁあ！」

「ひあぁああぁっ！はあぁああ！
あっ！ああふうぅうあぁああぁっ！
出っ…出ちゃう…！あぁ！」
「んんんんっ！あぁああ！はあ！
はあ！はあ！あぁあん！」
プシャッ!!
ドポッ♡
ブルブルッ
あぁっ…!!
あぁあぁ…!!
女の愛欲の匂いがいやらしい水音と共に
深夜の部屋を満たしていく。
膣口から溢れるドロリと熱い愛液、愛液以外の
液体も少し漏れる。汗と愛液にまみれた女体…。

「は…！は…は…！はあ…！」
「あうっ…！あ…あぁあぁんっ…あ…
気持ちよかった……！
はあ…はあ…は…！！」
ピュッ♡
ピュッ♡
あっ♡
あっ♡
ビクッ♡
ガク
ガク…
ドロー…
まだ絶頂でゼシカはガクガク震えている。
口の端からよだれが垂れる。
はち切れそうな巨大な胸がたぷんと跳ねる。
愛液がベッドを湿らす。染みが拡がっていく。
生っぽく、甘い匂いが部屋に漂い続ける。

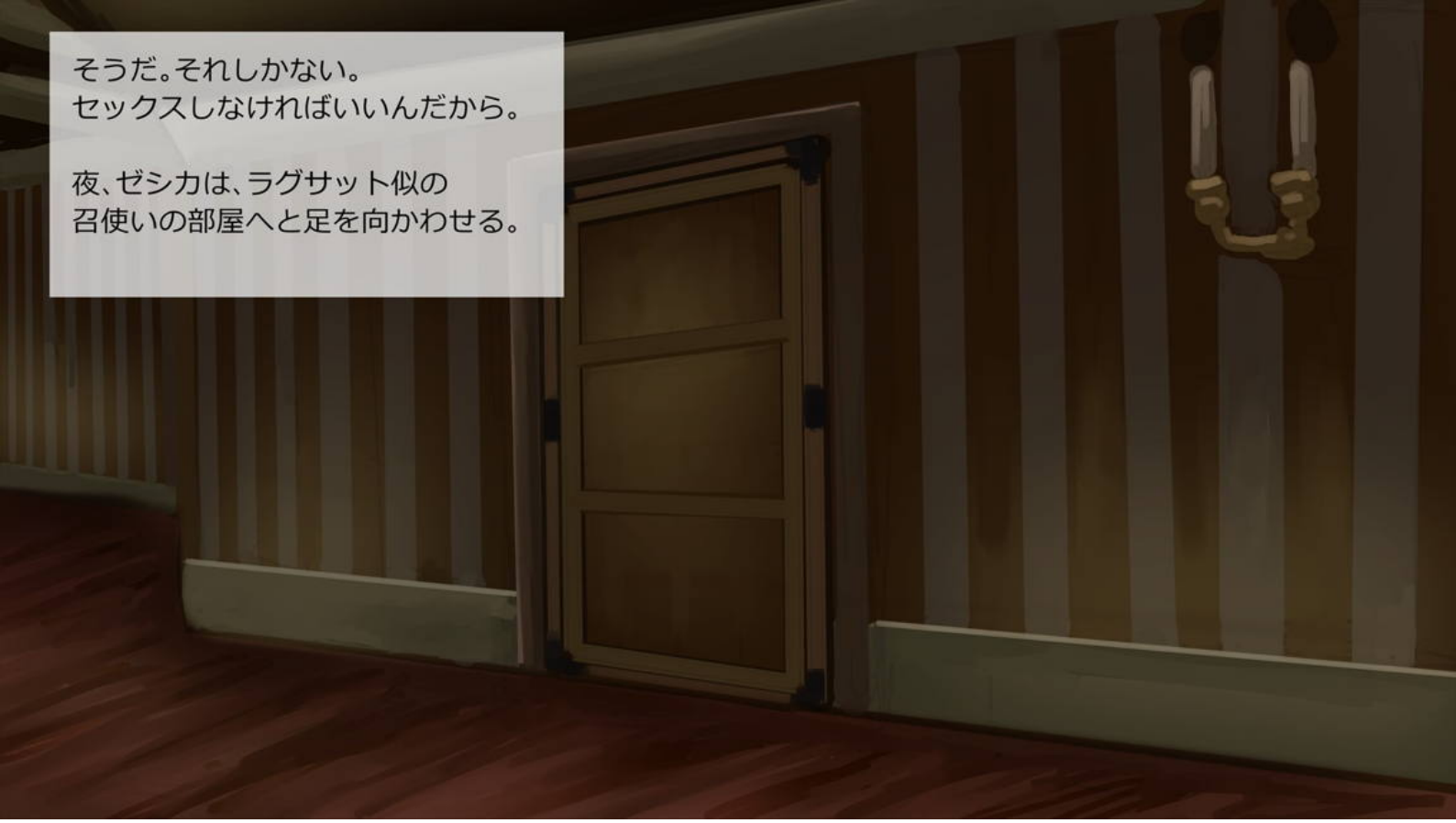


そんなオナニー生活が１ヶ月続いた。

いよいよ、ゼシカも性欲がオナニーだけでは
我慢できなくなってきた。

ラグサット似の召使いにも、さんざん
こき使ってなかなかいいお仕置きが
出来ていると思うが、

やはり無理やりセックスしまられた恨みは、
それこそ性的なお仕置きで晴らさなければ
いけないんじゃないのか。


そうだ。それしかない。
セックスしなければいいんだから。
夜、ゼシカは、ラグサット似の
召使いの部屋へと足を向かわせる。

「はっ！！ゼシカ様！！！」
ドアを開けたその姿に胸は高鳴り、
チ○ポは勃起する。

いつか来ないかと思っていたが一向に来ず、
もう諦めかけていたところだったが…。

「なによその にやけた顔は
言っとくけど何かいいことしに
来たんじゃないから。
お仕置きに来たのよ」

「ありがとうございます！！」

「……多分本気でつらいやつよ？」

と、ゼシカはゴムのような
リングを取り出す。

「これは私のムチのスキルと
魔法を使って加工した特殊な
ゴムのリングよ

これをあんたの汚いおちんちんの
根本につけてあげるわ」

「ありがとうございます！」

「そんなこと言ってられるのも今のうちよ
私　あんたが結局毎日オナニーばっかり
しまくってる事
他の召使いから聞いたんだから

そんなオナニー大好きなあなたに
プレゼントよ
はやく装着しなさい」

「はっはい！」

俺は大急ぎでそのリングを
チ○ポの根本につける。

「勃起してないときでも大きさに合わせて
固定されるようになってるから
魔法を解除できるのは私だけよ」
「えっ…え…えぇ！？？」

「じゃあドスケベなあんたにきっつ～い
お仕置きをしてあげる
お仕置きはここからが本番なのよ！」

そう言うとゼシカは服を脱ぎ始めた。
一枚脱いだ姿は踊り子の服である。

だがおっぱいは露出され、
あろうことか局部も布地が無い。

「ぜっ…ゼシカ様…！一体！？」
俺はチ○ポギンギンでゼシカに問う。
「あんたの大好きなハッスルダンスよ」

なんとゼシカは愛液に濡れたまんこを
むき出しにしたまま、
チ○ポの上にまたがり…！

が、挿入されることはなく、
マンズリの形になった…！

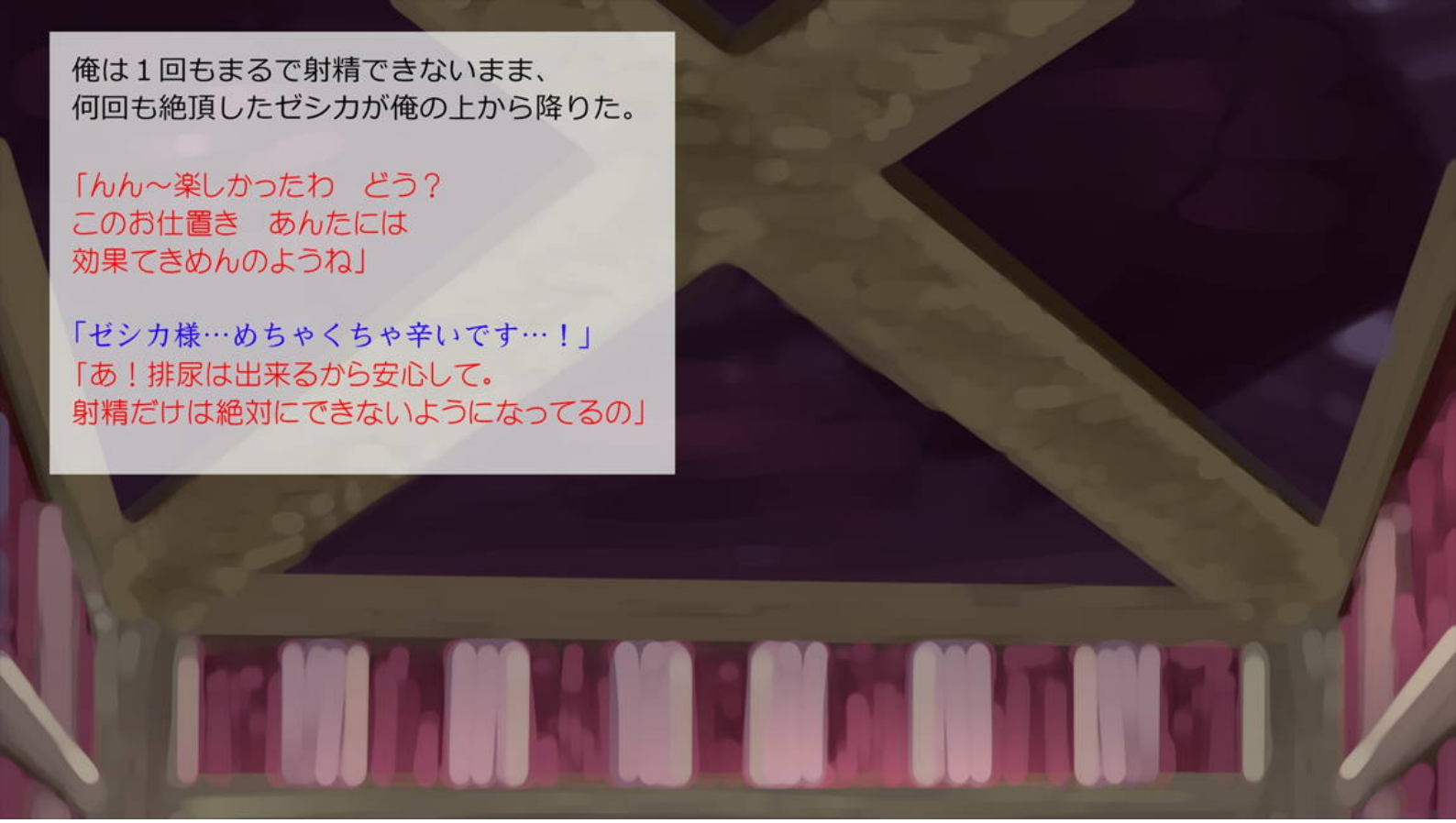
だが、生のゼシカまんこに生チ○ポが
触れているだけで射精モノだ。

「ゼシカ様これはご褒美では！？」
「ご褒美？違うわよ！まあすぐに理解るって！
あっそ～れ！ハッスルハッスル！」
おぉ…リアルハッスルダンス…！
だがマンズリしているので…
「はっ♡ほっ♡はっ♡あんっ♡私が気持ちよくっ…♡」
「あ…あぁあ…ゼシカ様…！」
いや、無理だ。こんなのもう。興奮しすぎる。
射精しよう。ただでさえまたゼシカと
エッチなことが出来る興奮で限界なんだ。
シャカ
シャカ
ズリッ♡
ズリ♡
ヌチュッ♡
ヌチュ♡
ぷるん
ぷるんっ♡
生のゼシカのおまんこに
精液をぶっかけよう。あわよくば膣内に
何匹か精子が入り込んで妊娠するかも…！
と思い、即射精しようとしたその時。

根本がギチッ、と強く締まり、俺が射精していた
尿道、精管が完全に締め付けられてしまった。
「ううっ！？？？」
「そういうこと…んっ♡
あんたもう射精出来ないのよ…　二度とね」
「えっ…！？ええっ！！？？」
「んひぃいっ♡あ…♡あ…♡」
ゼシカは軽く絶頂している。
俺はまた射精しようとする。
シャカ
シャカ
ビクッ!
ビグ!
ギチッ!
ビグッ!!
あっ♡
ぱあ♡
あひっ♡
びくん♡
びく♡
ゼシカはクリトリスを俺のチ○ポに
強く押し付けてオナニーするように
グイグイといやらしく動かしている。
「あっそ～れ♡ハッスルハッスル～♪
んんっ♡あ…♡んっ！♡」

また射精しても…無理。
「やっぱり射精出来ない！」
ゼシカだけは絶頂している。
「あふっ…あうぅうん！♡
あっ♡あ♡あ…♡」
愛液がドロンと漏れ、ペニスに愛液がつたう。
しかしそんな物凄い状況でも射精だけは出来ない。
ドクン！
ドクン！
ドクッ！
ぎゅ！
びくっ♡
はぁあぁあぁ♡
びくっ♡
びくっ♡
「ゼシカ様！はうぅうう！…ぐっ！！」
「あぁ♡あっ♡あ～っ！♡んん…っ♡！」

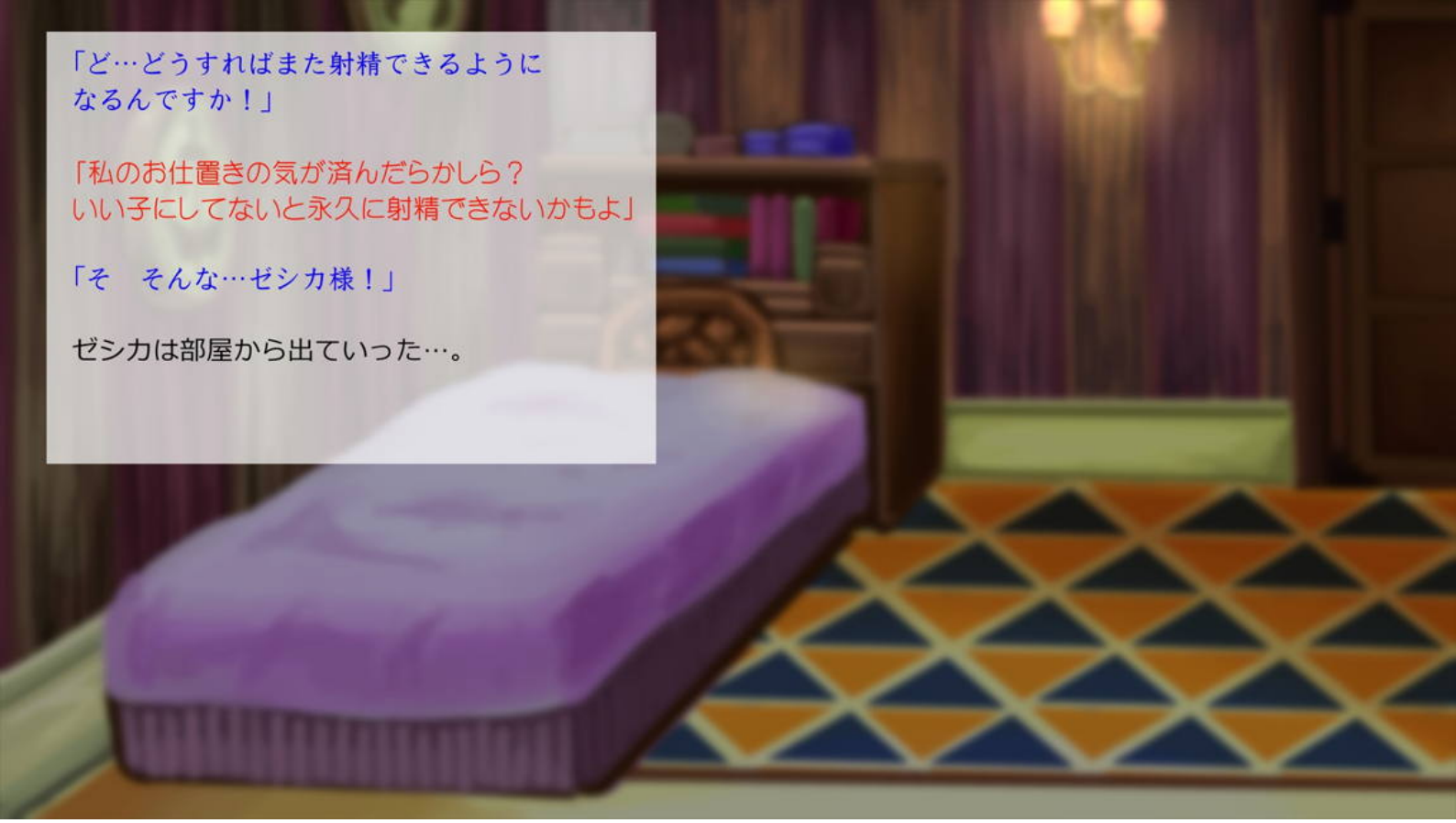
ゼシカが絶頂を繰り返し、
こちらがどんなに射精しようとしても
どうしても射精することができなかった。
「あっ！あぁ！出したい！射精したいのに！」
「はっ♡あ♡は～♡…あははっ！
すごぉい悔しそうね！良いお仕置きでしょ？」
「あぁ…なんてことだ…
オナニー出来ない時も辛かったけど…
ビクン！
ビク！
ギチッ
びくんっ
あっ♡ あひっ♡
あ～♡
ビクビク
こんなエロエロな状況なのに…
射精できないなんて…辛いっ！」
「はうぅ♡あぁ♡いいでしょ…あっ♡あん…♡」



俺は１回もまるで射精できないまま、
何回も絶頂したゼシカが俺の上から降りた。

「んん～楽しかったわ　どう？
このお仕置き　あんたには
効果てきめんのようね」

「ゼシカ様…めちゃくちゃ辛いです…！」
「あ！排尿は出来るから安心して。
射精だけは絶対にできないようになってるの」

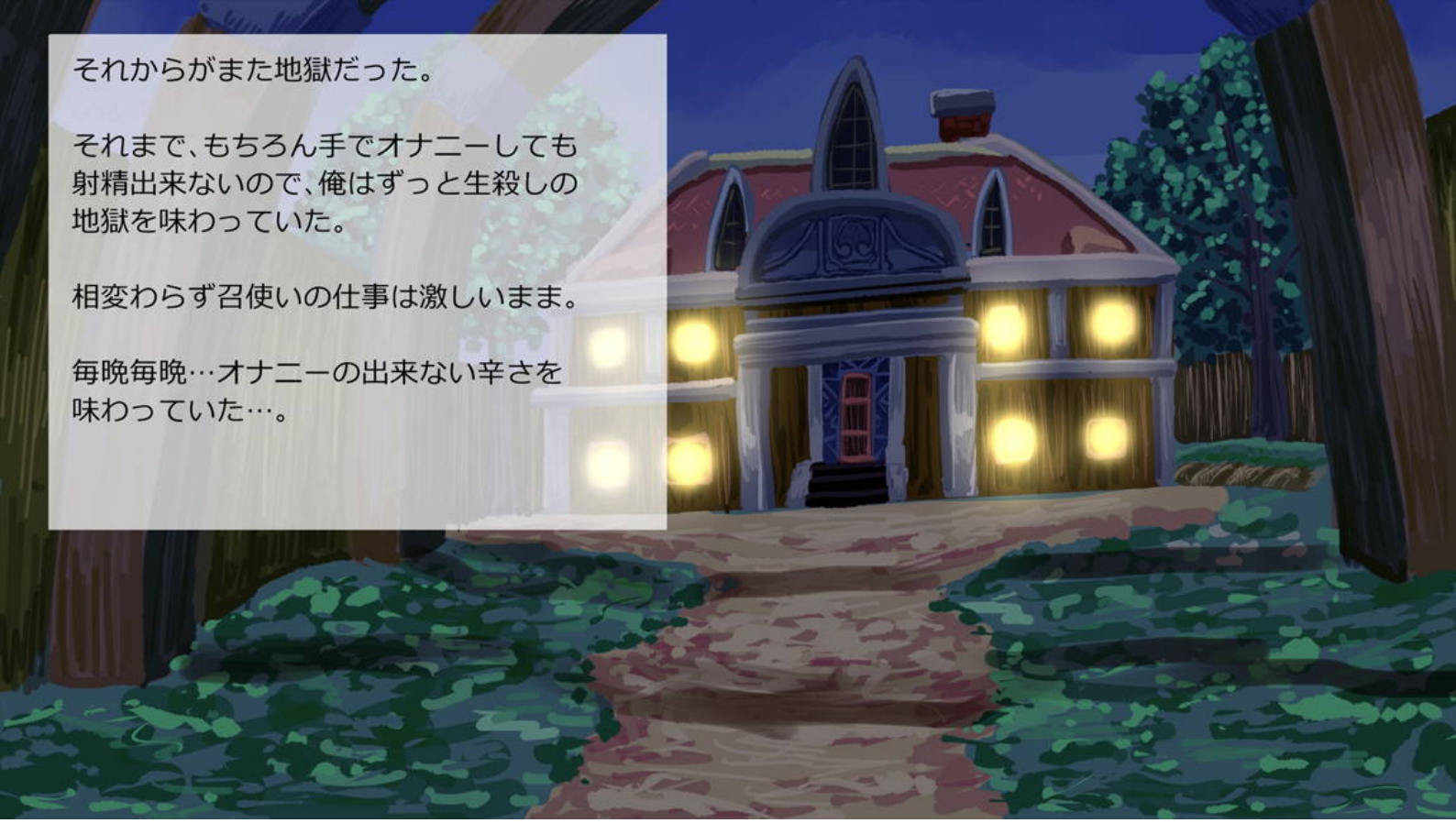


「ど…どうすればまた射精できるように
なるんですか！」

「私のお仕置きの気が済んだらかしら？
いい子にしてないと永久に射精できないかもよ」

「そ　そんな…ゼシカ様！」

ゼシカは部屋から出ていった…。



それからがまた地獄だった。

それまで、もちろん手でオナニーしても
射精出来ないので、俺はずっと生殺しの
地獄を味わっていた。

相変わらず召使いの仕事は激しいまま。

毎晩毎晩…オナニーの出来ない辛さを
味わっていた…。

ゼシカはゼシカでオナニーしまくっていた…。
そして効果てきめんのお仕置きで勝ち誇って、
気分が高揚していた。

ラグサット似の召使いは、
ゼシカと対照でオナニー出来なくて
辛い生活が続いた…。

そんな生活が2週間経って、
ゼシカがまた部屋に入ってきた。

だがそれはお仕置きで、
俺はまた射精できないのだ。

ゼシカの顔が見れてエッチなことが
出来るのは嬉しいが、
射精出来ないのがとにかくつらい…！！

「良い顔してるわね」
「ゼシカ様…射精したいです…！」

「うふふっ　だ～め♡」

ゼシカは、いやらしく腰を振りながら
扇情的に服を脱ぎ始めた…。

平常時ならそれだけでも射精出来るのに！

ゼシカが身につけていたのは
あのあぶない水着だ。

しかも本当にあそこに穴が
空いていてあぶない。

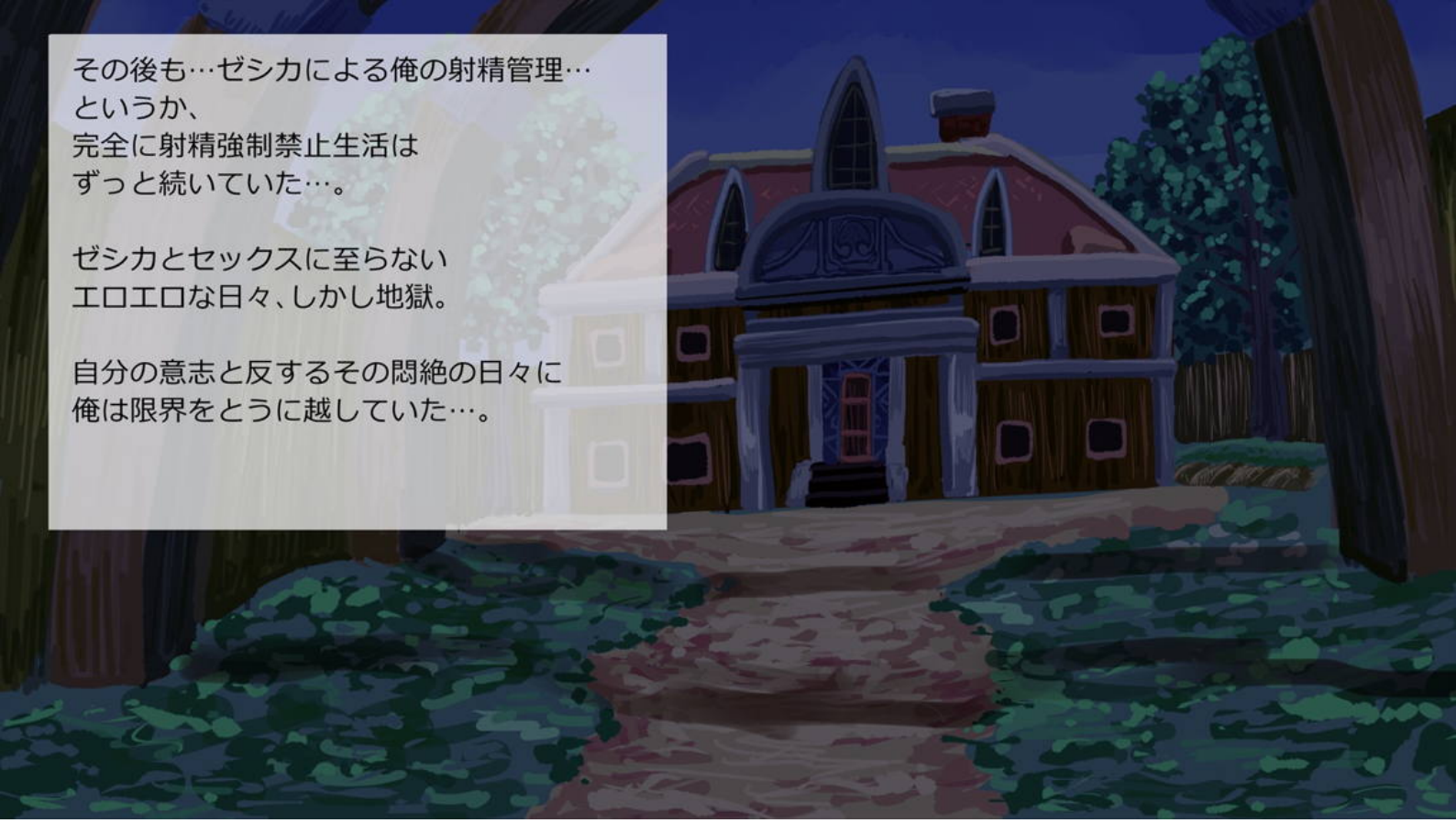
「くっ…！悔しい！抜きたい！！」
「だ～め♡」

「はっ♡あ♡あ♡あんたに
舐められるなんて嫌だけど…
れろっ…お仕置きのためだから…♡」
ギチィ
ゲゲゲ…
「ゼシカ様ぁああ！パイズリいぃい！おっぱい柔らかい！
んぶ！んうっ！むぐ！ゼシカ様のお尻とまんこぉ…！」
ゆしっ
ムヴヴヴ…
ぺちょ
ゆしっ
やはりご褒美じゃないかと思ったのもつかの間、ゼシカは
足を締め付けて…天国のような地獄のような。
「顔に感じるゼシカ様のお尻！呼吸よりも舐めてたいまんこっ！
爆乳でしてもらえるパイズリっ！あぁあああ！♡」
「あんたに舐められるなんてイヤだけど…♡じゅぽっ♡
でも気持ちよくてもあんたは射精出来ないのよ…！」

「あぁあゼシカ様！気持ちいい！
こんなバイズリクンニっ！出したい！
出したいです！出したいのに！」
「あぁあ！私が…あっ…気持ちよくなっちゃって…♡
出っ…潮…噴いちゃう…♡れろっ…あぁ！あぁ…ん！♡」
ズリッ
ズリッ
ゲゲゲ…!!
むちゅ
むちゅ
ゆしっ
ゆしっ
しぐ
んぷっ
「はあぁあ！ゼシカ様！限界です！もう限界！
出させてください！出したい！射精したい！」
「だめよぉ♡もっと苦しみなさい！あんっ♡べろべろっ…♡
まだお仕置きが足りないわ！はうぅうん♡あぁあ！
♡潮っ♡出るっ…あぁああ！」

「はあぁあぁああ♡あぁ♡きもっ…ちいいっ…！♡」
「あぁあ！ゼシカ様！ゼシカ様の潮！あぁあ！
俺の顔がゼシカ様の液体まみれで…！
気持ちいいいいい！」
ゼシカは潮を吹くが、こちらは全く射精できない。
「れろれろっ♡んあぁあ♡んふふぅ♡きもちいいでしょぉ…♡
びくびくしてつらそう…♡」
ビクッ
ビクッ
ビクンッ!!
プシャッ!!
「はうっ♡はあ！はあ♡れろぉ♡んうぅもっとぉ…
もっと気持ちよく…なるのよ…」
「最高なのに！地獄！温かい！温かくて甘い！
最高に気持ちいいです！でも出せないっ！ああ！」

ゼシカのパイズリと足締め付けはまだまだ続く。
「あぁ♡ん♡いくっ♡あ♡べろっ！♡
気持ちいい♡あぁ～！♡」
「あぁあ…ゼシカ様…あ…辛いです…苦しい…
でも…まんこ舐められて幸せ…でもつらい…」
「はっ♡はぁ♡れろぉ…どお？苦しい？
あぁあ…♡いっちゃう…！」
ぶちゅ
ぬちゅ
ぐぐぐ…
ブルブル…
ビクン
ビクン！
「はあ…♡びくんびくんして本当につらそう…!!
じゅぼっ♡じゅぼっ♡」
「あぁ…おっぱい柔らかい…
これだけでも射精できるのに！」
めちゃぁ…
俺は、その最高に幸せで最高に辛い地獄を
そのまま何時間も味わった…。



その後も…ゼシカによる俺の射精管理…
というか、
完全に射精強制禁止生活は
ずっと続いていた…。

ゼシカとセックスに至らない
エロエロな日々、しかし地獄。

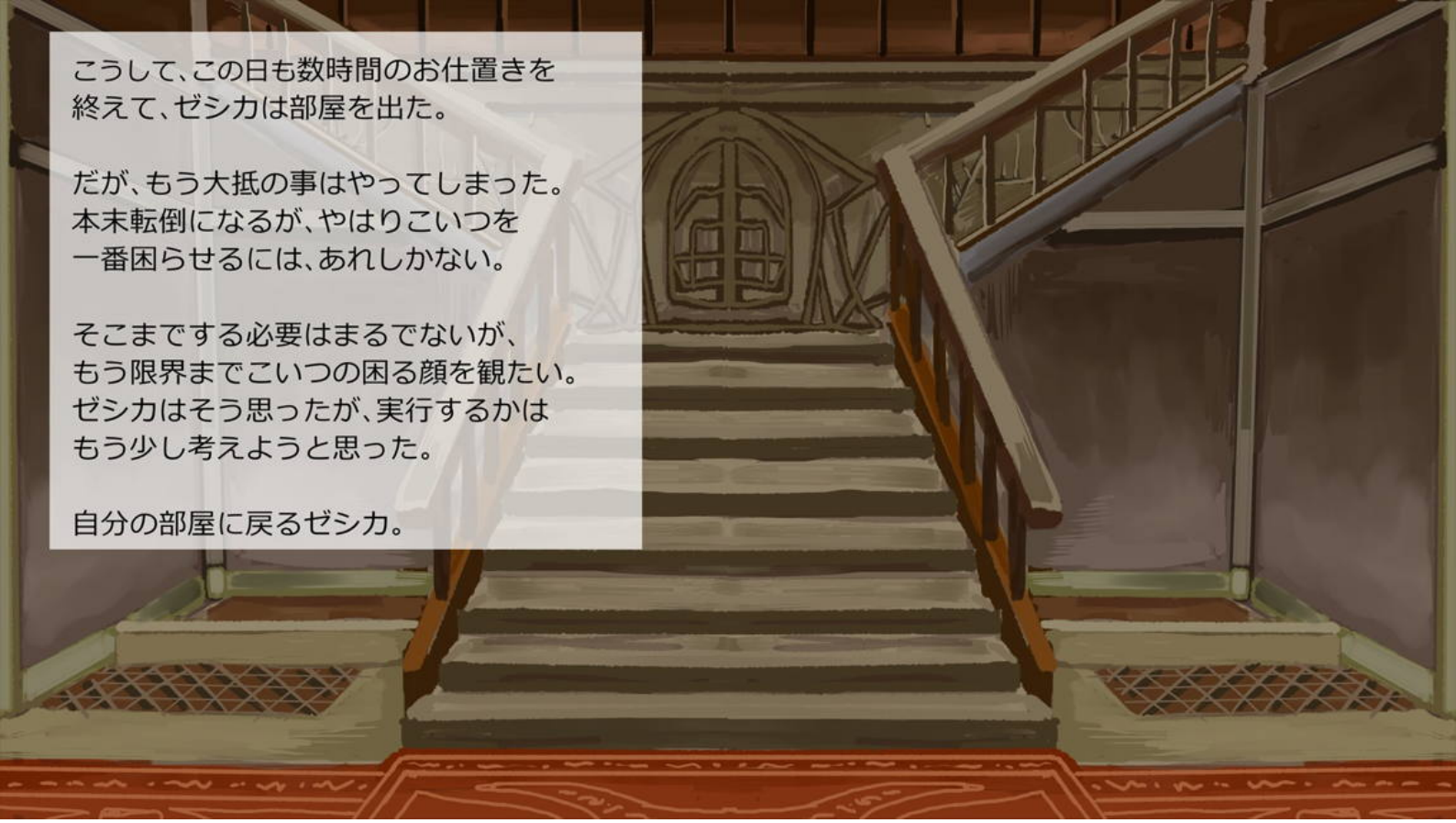
自分の意志と反するその悶絶の日々に
俺は限界をとうに越していた…。

「はあぁ…ゼシカ様…もう…まんこ最高です…
足コキされているだけで…んぶっ」
「…ほら…射精できない苦しみを味わいなさい」
「あぁあ♡ゼシカ様！まんこ美味すぎて射精…
もっと射精したくなるのに！！じゅるっ！」
ぐしっ
ぐちゃ
ぐちゃ
じゅる
じゅる♡
ズシッ
ビクッ
ビク…！
ぐりゅっ
ビキ
ビキ…！
ぐりゅっ♡
「足コキも好きよねえ？気持ちいい？
ねえ？もっとおまんこ舐めなさいよぉ♡
ほらぁ♡もっと舐めて私を気持ちよくしてぇ♡
私の気持ちいい顔見るの好きでしょ♡あぁ…
また漏れちゃいそう…出ちゃうよぉ…♡」

「だぁ～め♡舐めさせてあげて足コキも
してあげてるんだから我慢しなさい♡」
俺はゼシカの膣のつぶつぶ、ヌルヌル、
隆起、やわらかさ、天井部分などの良さを舌で感じて
その気持ちよさで射精したいのに！
「はあぁあ…♡あ…おまんこ…
気持ちいい…あぁっ…！あ…！
出るっ…潮…噴いちゃう…♡あ…！」
「あぁ！出したい！出させて
ください！僕も！あぁあ！」
ぐりゅ
くりゅ
ぐち
ぐち
ぐり
ぴくっ
ぴくっ♡
レチョッ♡
じゅぷ
じゅぷ
じゅぷ♡
んちゅ♡
あっ♡
あっ♡
はぁあ～♡
ズシッ♡
ズシ♡
「んっ♡あ…すごっ…！気持ち良っ…♡
あ…♡出ちゃうぅ！♡」
「うあっ…あぁああ！」

「あぁあ！ゼシカ様！ゼシカ様あぁ！
あったかい！あぁあ！」
「ひあうっ♡！あぁああぁあ♡
気持ち良いっ…！♡あぁ♡」
「おおぉおお！ゼシカ様のスケベ潮おぉおお！
あったかいですぅう！じゅるじゅるっ！」
「あぁっ♡はあ♡おちんちん
ビクビクしてるぅう♡」
ビクン！
ビク！
ビクッ!!♡
プシャッ!!♡
びくっ♡
びくっ♡
べちょっ♡
あっ♡
あぁ♡
あぁ～～♡

「はあはあ…ふふん　気持ちいいのね…
もっと気持ちよくなる…？」
「はあ…はあ…ゼシカ様…
もう無理です…本当に…出したいんです…！
限界なんてもうとっくに過ぎていて…！」
じゅるっ！
じゅるっちゅちゅ♡
はぁ♡
はぁ♡
ぐりゅっ♡
ぐりゅ♡
ビクン♡
ビクン！
じゅぶぶぶ♡
ぢゅちゅっ
ちゅ～っ！♡
ぬちっ♡
ぐち
「だったら尚さら　やめない…♡」
「ああ…ゼシカ様ぁああ！」
地獄…やはり天国だけど地獄だ…

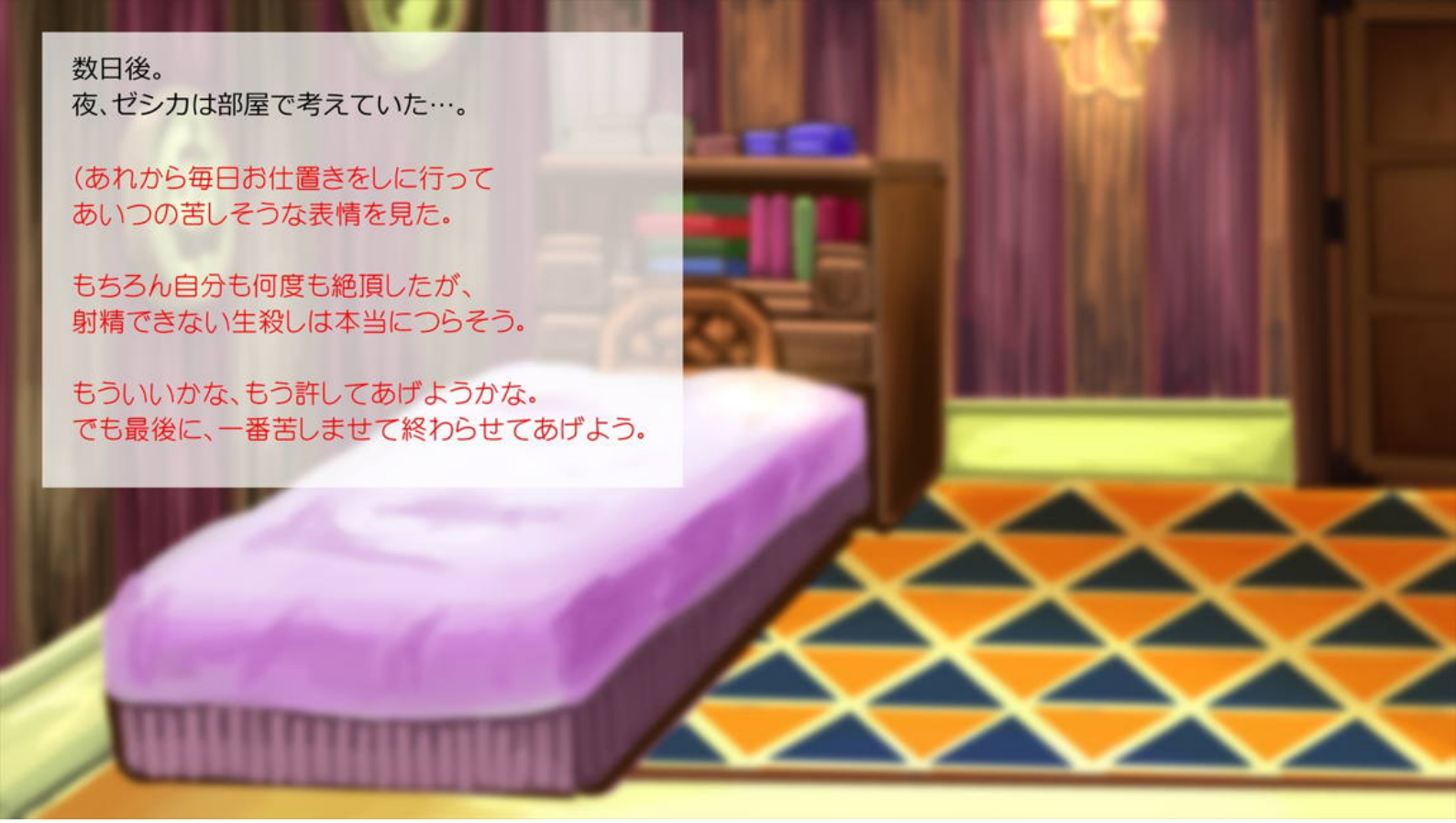


こうして、この日も数時間のお仕置きを
終えて、ゼシカは部屋を出た。

だが、もう大抵の事はやってしまった。
本末転倒になるが、やはりこいつを
一番困らせるには、あれしかない。

そこまでする必要はまるでないが、
もう限界までこいつの困る顔を観たい。
ゼシカはそう思ったが、実行するかは
もう少し考えようと思った。

自分の部屋に戻るゼシカ。

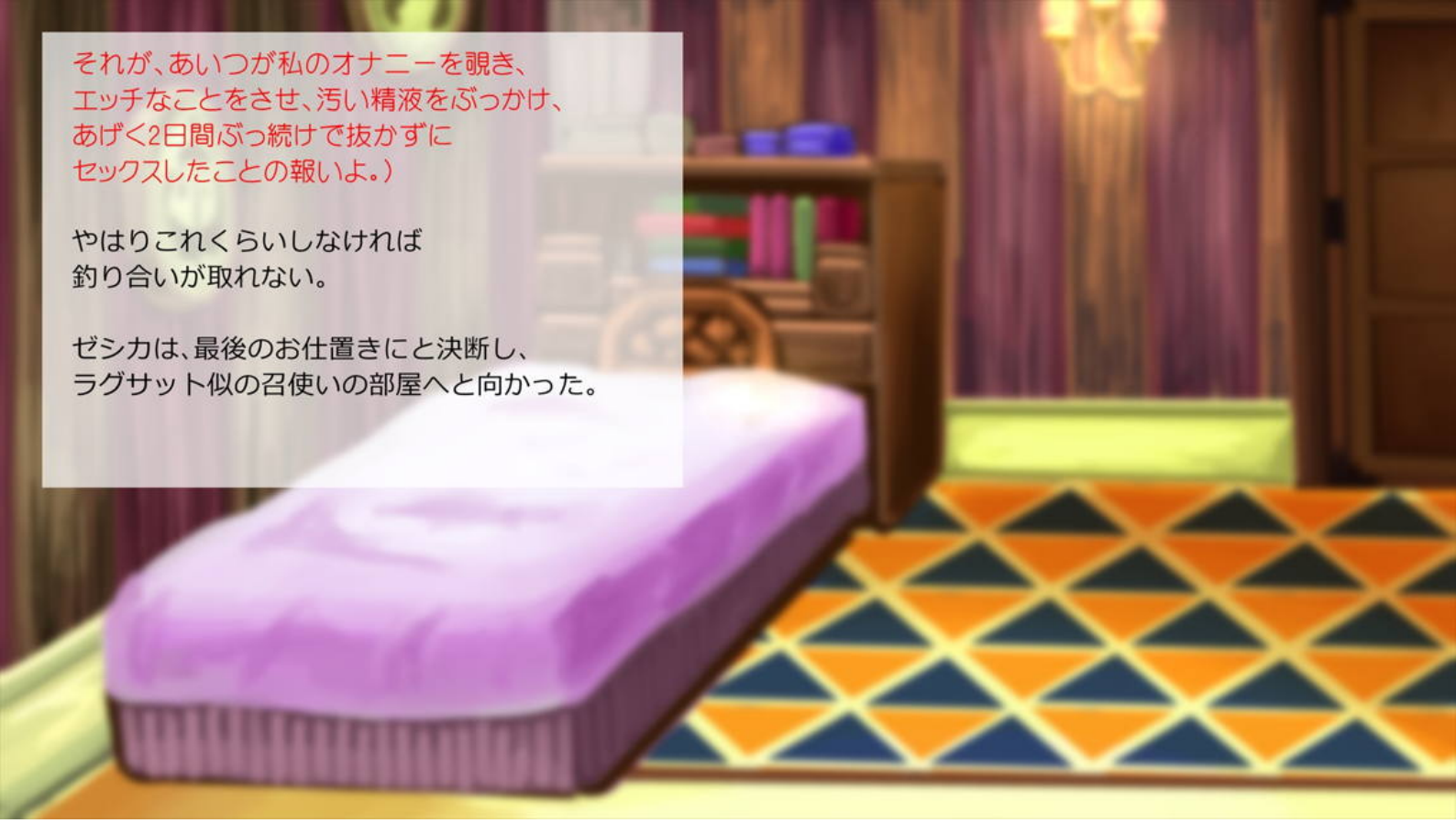


数日後。
夜、ゼシカは部屋で考えていた…。

（あれから毎日お仕置きをしに行って
あいつの苦しそうな表情を見た。

もちろん自分も何度も絶頂したが、
射精できない生殺しは本当につらそう。

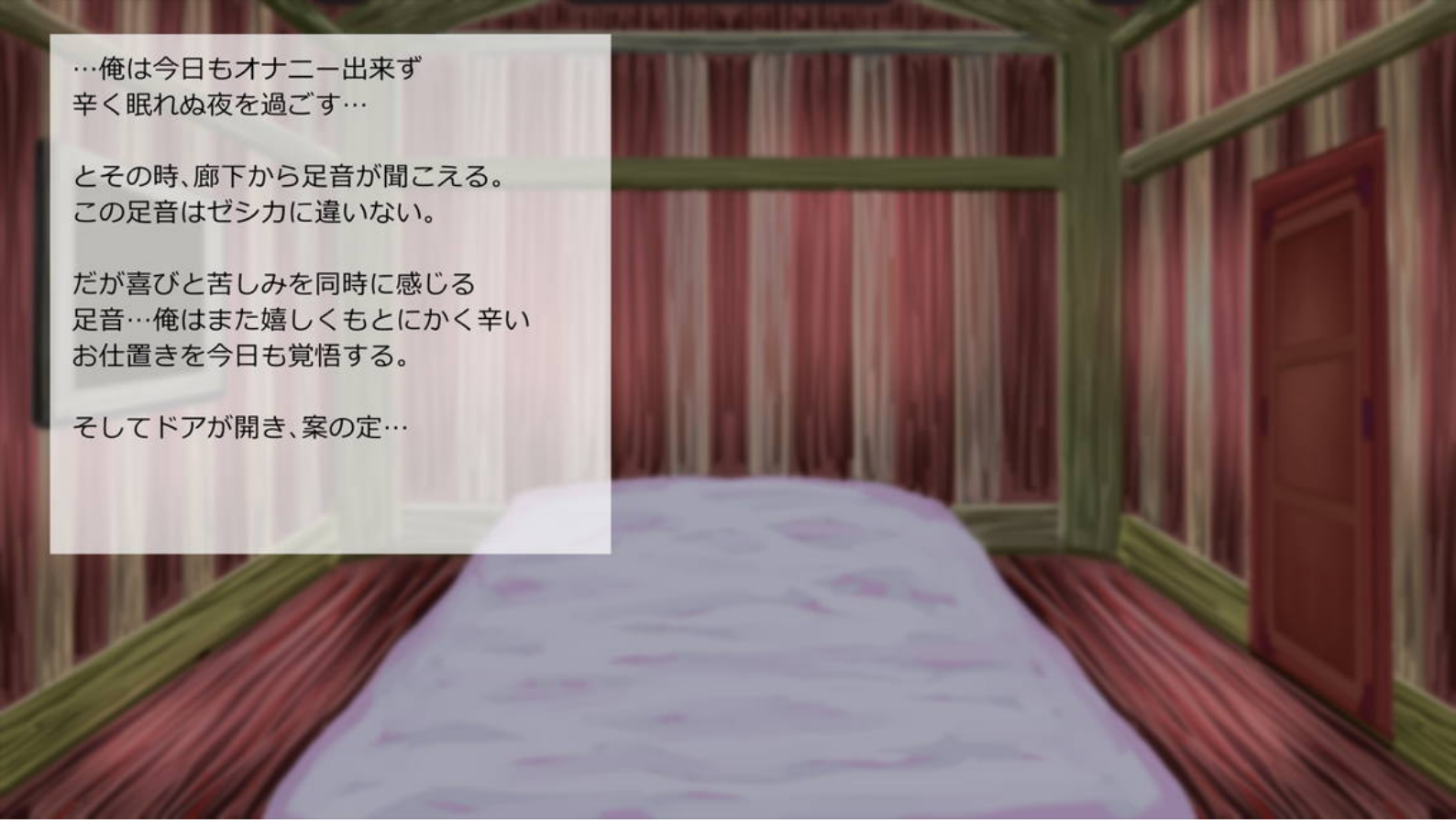
もういいかな、もう許してあげようかな。
でも最後に、一番苦しませて終わらせてあげよう。



それが、あいつが私のオナニーを覗き、
エッチなことをさせ、汚い精液をぶっかけ、
あげく2日間ぶっ続けで抜かずに
セックスしたことの報いよ。）

やはりこれくらいしなければ
釣り合いが取れない。

ゼシカは、最後のお仕置きにと決断し、
ラグサット似の召使いの部屋へと向かった。

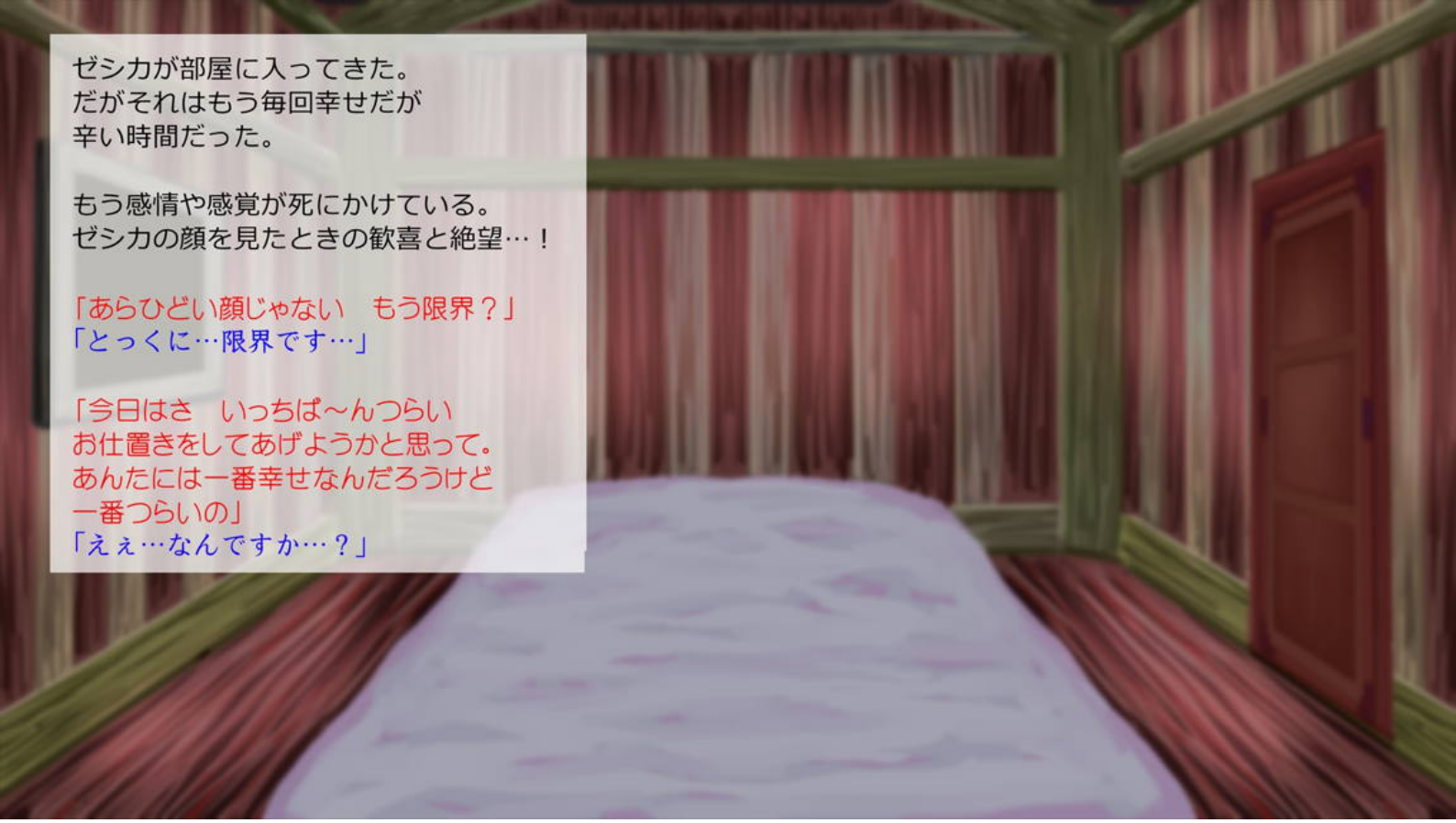


…俺は今日もオナニー出来ず
辛く眠れぬ夜を過ごす…

とその時、廊下から足音が聞こえる。
この足音はゼシカに違いない。

だが喜びと苦しみを同時に感じる
足音…俺はまた嬉しくもとにかく辛い
お仕置きを今日も覚悟する。

そしてドアが開き、案の定…



ゼシカが部屋に入ってきた。
だがそれはもう毎回幸せだが
辛い時間だった。

もう感情や感覚が死にかけている。
ゼシカの顔を見たときの歓喜と絶望…！

「あらひどい顔じゃない　もう限界？」
「とっくに…限界です…」

「今日はさ　いっちば～んつらい
お仕置きをしてあげようかと思って。
あんたには一番幸せなんだろうけど
一番つらいの」
「えぇ…なんですか…？」

ゼシカは服を脱ぐ。

相変わらずの爆乳が露出される。
スカートの下は何も履いていない！
あの見慣れた
戦闘服の下の裸が眼前にあり興奮する…！

俺の上にまたがったゼシカを見て
また素股か、顔面騎乗か…
と思ったが、なんとそのままペニスに向かい
腰を下ろしてきた。

「え…ちょ…ゼシカ様！？？？」
「これがここまで頑張ったから
一番つらいお仕置き」

「えぇっ…あぁ…！はうぅうぅ
ああぁああ！？？」
「あぁああ…ぁああ…んっ！！！♡」
実に数カ月ぶりのゼシカの膣内の暖かさ。
事態を一瞬飲み込めなかった。
まさかまたセックスできるとは！
しかも…生で！？？
ジュププ…♡
「ぜっ…ゼシカ様！？な…生…！」
「そうよ嬉しい？でもあんた
射精できないのよ　絶対に！
生でやってるのに！射精出来ないのよ！」
ぬち♡
ぬちぃ…♡
「あぁあ…！気持ちいいですゼシカ様…！
めちゃくちゃ…あぁ…まさか生で
出来るなんて…っ！！！」

生でゼシカの膣と自分のチ○ポが触れ合う感動。
愛液も、子宮口も全て直だ。熱い。熱さもダイレクトだ。
「そうよぉ思う存分楽しみなさい
その分お仕置きできるんだから…あんっ♡」
ギュプッ
ぶるんっ
ぶるんっ
「あぁ！出したい！
ゼシカ様に
生で出したい…！」
「いいわよぉ！出しなさい…
出せるものならね…！！」
ピストンが速くなる。
ゼシカの巨乳が揺れる。
ギュプッ♡
ギュプッ♡
「はあっ！出ます！出ますゼシカ様！
出ます！あっ！あ！あーっ！！」
「はあぁんっ♡あっ♡いいわよぉ♡あぁっ♡」

「く…！あぁ…くそっ…
出せない…出せないっ…！！」
「ふふ…おし…おきよ…
つらいでしょ…ふふふ…♡あんっ…♡」
こんなに気持ちよく、生中出しなんて
もっと気持ちいいだろうに、
俺は射精することができない、
だがゼシカは数回絶頂していた。
ふふ…♡
ビクッ♡
ビク♡
じゅぽっ!!
じゅぶっ!!!
「うふふ…あうっ♡あはあ…♡」
じゅぽっ!
生なのに絶対射精できない
最大級のおしおき…
「はあっ！あぁあ…くっ…出せない…！」

だがそれは、吐精による体力の急激な
消耗もない事を意味していた…。

3時間後。
「ちょっ…ちょ…もぉっ…！こんな…激しすぎるって…！
こんな…ひゃあぁあぁあぁあ…！♡」
「ゼシカ様っ！ゼシカ様！生のまんこ
気持ちよすぎるんですよ！
こんなのやめられませんよ！」
ずぼっ!!
ずぼっ!!
あっ♡
あっ♡
あ～♡
ぎゃぼっ!
「ちょっ…すとっ…ストップ…！ちょ…
あぁぁん…！♡だめっ…こんな…！あぁああ…！」
「ゼシカ様…もうやめませんよ！射精できないなら
やめる理由もないんですからね！！」
どちゅっ!!
ぶちゅっ!!
「だめっ…！あ…！あああ！」
衰えないのを良いことに、俺はゼシカを絶頂させまくった。
前回どころではない、あれ以上の快感を与えて…そして…

１２時間後。
「ひっ…はひっ…も…もう駄目っ…
こんな…連続でイったことなんて…あの時よりも…」
あの時はそれこそ射精によるインターバルがあったが、
今回は射精なしのノンストップなのだ。
今度はゼシカが地獄。連続絶頂地獄を味わっていた。
「じゃあこの魔法のゴムリングを
ほどいてくださいよ！
射精すれば終わりますから！」
「そ…それは一番だめぇえ…そんなことしたら…
そんなの一番ダメぇえ…！あうっ！♡」
「じゃあやめませんよ！このままイかせつづけますよ！」
「あんっ♡あぁあ！はうぅあぁああ！♡」
あへっ♡
あひっ♡
あ～～♡
あひ♡
はひぃ♡
ぐちゅ
ぐちゅ♡
ぶちゅっ
ぬちゅ
ぐちょっ♡
ぶちゅっ♡
ブッチュン♡
ブルン

２４時間後。
「あう…あ…あ…！」
もうゼシカは意識も絶えだえだった。
絶頂しすぎておかしくなっている。
こちらも体力の限界だが、ゼシカから
言葉を引き出すまでやめる訳にはいかない。
まんこは白濁した本気汁で濁っている。
「はやく！はやく解いて下さいゼシカ様！」
「だめっ…それは…それはぁ…あんっ♡
あ…気持ちいい…！！でも…
どうすればいいのぉお…！！あふうんぅ♡」
じゅぽっ♡
たぷん
ドチュッ！
にゅぷっ♡
じゅぷっ♡
じゅぽっ♡
ぎゅぽっ♡
「ゼシカ様！言うまで
やめませんからね！本気ですよ！」
「あぁあ…イクっ…！
またイクうぅうっ♡」

48時間後。
「ゼシカ様！もういいでしょう…
もう魔法を解いて下さい」
「あんっ…はうっ…あう…解いたら…
はあ…あんた…絶対中に出すでしょ…はあ…！」
「いえ…僕は…セックスを
終わらせるだけです！…はあっ」
「あうっ♡あ♡なかに…中に出さないって…
約束できる？はあ♡」
「それは…！それは保証できません！
…はあっはあっでも大丈夫です！
ドスッ！
ドス！
ブルン♡
あひっ♡
あっ♡
ギュポッ！
ギュボッ！
チュボッ！
おうぅあ～♡
僕みたいな召使いの精子で
ゼシカ様は妊娠しませんから！」
「なによそれ…あんっんうっ♡
中に出すなら駄目よぉ…！
絶対に魔法は解けないわ！…あぁああぁっ♡」
ブルン♡

72時間後…。
本気汁は更に白濁する。
もう二人共完全に限界、ゼシカは絶頂しすぎて、
疲れすぎて、気持ちよすぎて…。
そしてついに‥
「ゼシカ様！お願いします！
出させて下さい！妊娠しませんから！大丈夫です！」
「ふわあぁあ…だい…大丈夫なのぉ…？」
「大丈夫ですっ！召使いの精子だから
大丈夫です！ご主人様は妊娠しません！」
あっ♡
あぁあ～♡
ぶるん！
きっもちいい♡
あぁあ～♡
ぶるん！
ドッ！
ドッ！
ドッ！
ジュボ！
ジュボッ！
ジュボ！
「あぁあっ！ああ！気持ち良いっ！
あぁあぁあぁああ！♡
あっ…！あ…！あぁあああ…！！！」

「はぁあぁううぁっ！あぁああ！出してっ…
出して…終わらせてぇ…！駄目だけどぉ…！
中でも良いから…あぁああ…！」
ついに、ゼシカが魔法を解いた。
「今…解除したからあぁあああ…！
もうこれで終わりにいいい…！あぁああ！」
「ぜ…ゼシカ様…！ゼシカ様っ！！
ゼシカ様っ！あっ！」
今なら射精できる感触がある！
射精できる！
「いいんですね！？いいんですねゼシカ様！
出しますよ！ゼシカ様の膣内に
精子出しちゃいますよ！！！」
あぁあぁあ～♡
いいからぁあ～♡
魔法解くからぁ♡
ドッ！ドッ！
ドスッ！
ドチュッ！
ドッ！
ドチュッ！
ジュボッ！
ジュボッ！

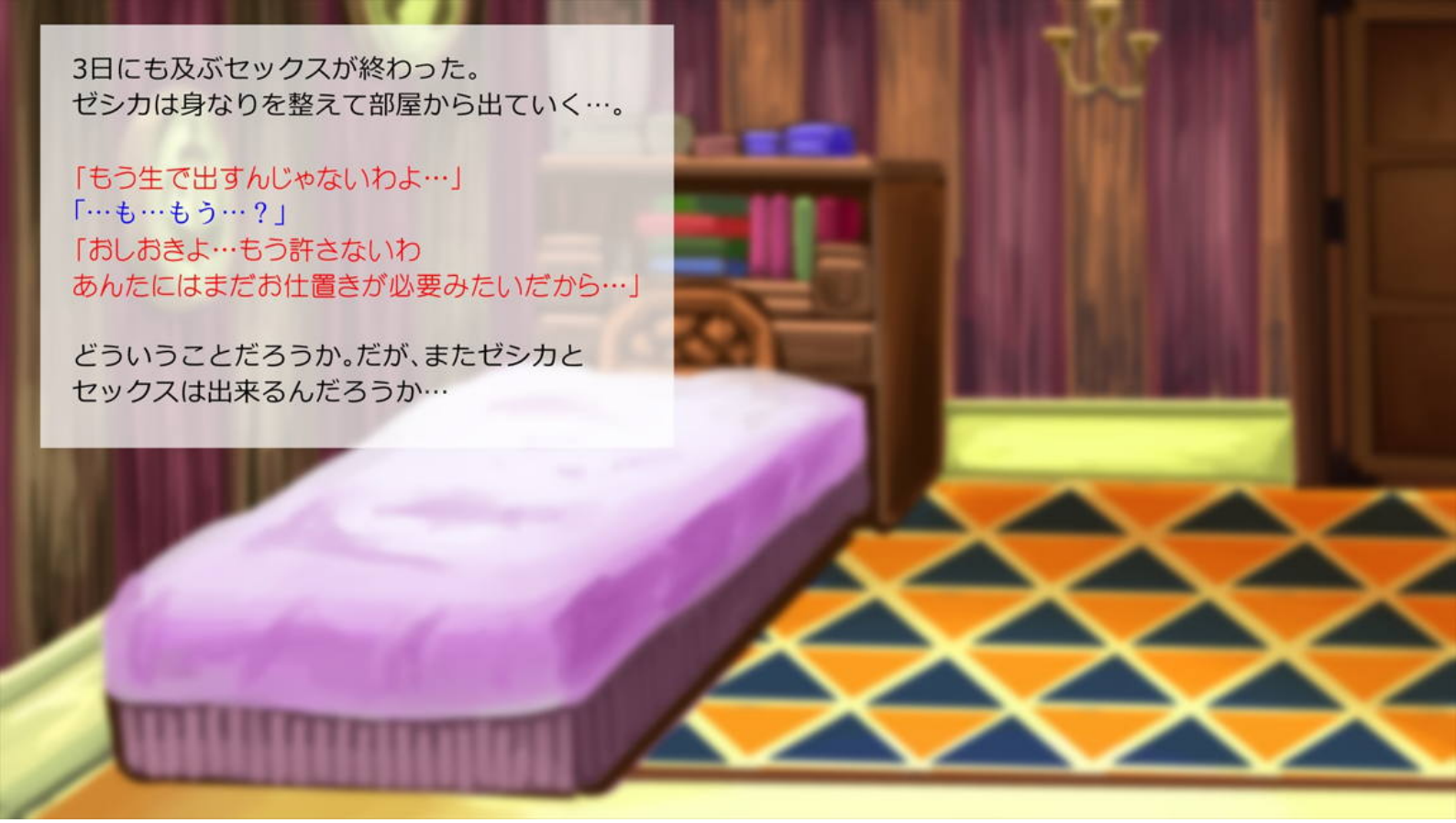
「出します！出しますよ！終わらせますよ！
ゼシカ様の中に！出しますよ！」
「あぁああ♡早く出してぇええ♡
駄目だけど出してぇ！
はやく終わらせてぇええ♡」
「ゼシカ様！出します！中に！溜まりまくった
精液出しますよ！！今！出しますよ！」
「駄目っ！駄目ぇえ！駄目だけど！出して出してぇ！
精液っ…あっ！あぁあああああああ！♡」
駄だけど
出してっ！♡
出してぇ～～っ！♡
あぁ～～っ！♡
ドッ！
ドチュッ！
ドチュッ！ドチュッ！
ビクッ！ビク！
ブル！

「おぉおおおぅっふぁぁあぁあぁあああっ！」
「あぁあああああぁっ！ひゃあぁあああぁあああっ！！！あああああ！」
あぁあぁぁあぁ〜〜〜っ♡
「ゼシカ様っ！あぁあああああ！ゼシカ様！気持ちいいっ！あああああああああ！」
「あぁあああっ！すごぉおおおっ熱っぁあああああ！あぁあああ！」
ドボッ!!
ゴボォ!!
ドブブッ!!
びちっ びちっ びちっ!!
ついに、本物のゼシカに精液を生で注ぎ込んでしまった。
あのゼシカに、ついに生で。
想像を絶する快感で、声を上げずにはいられない。

「まだ…まだ出るっ…！
おおおおぉ…！あああぁあああ！」
「ひぃゃぁああぁあっ♡あぁああ♡こんなっ…
あぁあああ♡気持ちいいっ♡
ああぁあああ！駄目なのにぃいい！」
「ゼシカ様っ！あぁああ気持ちいいですうぅう！
気持ちよすぎるぅうう！」
「はうぅううっ！あぁあああぁああ！」
はぁあぁあっ♡
ビク
ビク！
ゴボボボ♡
ドポポポ♡
ジュポポポ♡
ビチ
ビチ
ビチ！
尿道が裂けるんじゃないかというほどの勢いで、
ゼシカの誰にも許していないきれいな子宮に、
俺の精液が流し込まれる…！

「おふっ！おぉおっ…！
うぐおぉおお…！
気持ち良いいいい…！」
「あぁあああ♡こんなぁあ…♡
こんなのぉ…やばすぎるぅ…♡」
「ゼシカ様…！あぁ…全部…
中に入って…！あぁああ♡」
「あっつぅ♡こんな…精子があぁあ♡
いっぱい感じっ…！♡」
最後の一滴まで子宮に放出し切る…！
あがぁぁっ！♡
ビュルッ♡
ドブッ！
ゴビュボッ！♡
子宮口が生のペニスに吸い付き、子宮に
精液を注ぎ込んでいる感覚がたまらなかった。
子宮に精液をダイレクトに出している感覚が
マジでわかる。そして恐ろしく気持ちいい。

「はぁっ！はあ！あぁあ！あっ！ああ！」
「はぁうううっ！あうぅうう！ああぁああ！」
あっ♡ あ！ あ～♡
「あっ！おっ…！おぉおおお…！あ…ゼシカ様…！」
「ひいうぅうんんんあぁああっ♡あぁああぁあ♡」
射精を終えたあとでも、体に快感が残っていて、
お互い黙っていることが出来ないほど。
ビュグ♡
ビュルル♡
ゴプッ♡
コプ…♡
ビュルル♡
ゼシカの子宮には、満タンになるほど
間違いなく大量の精液が注がれていた。

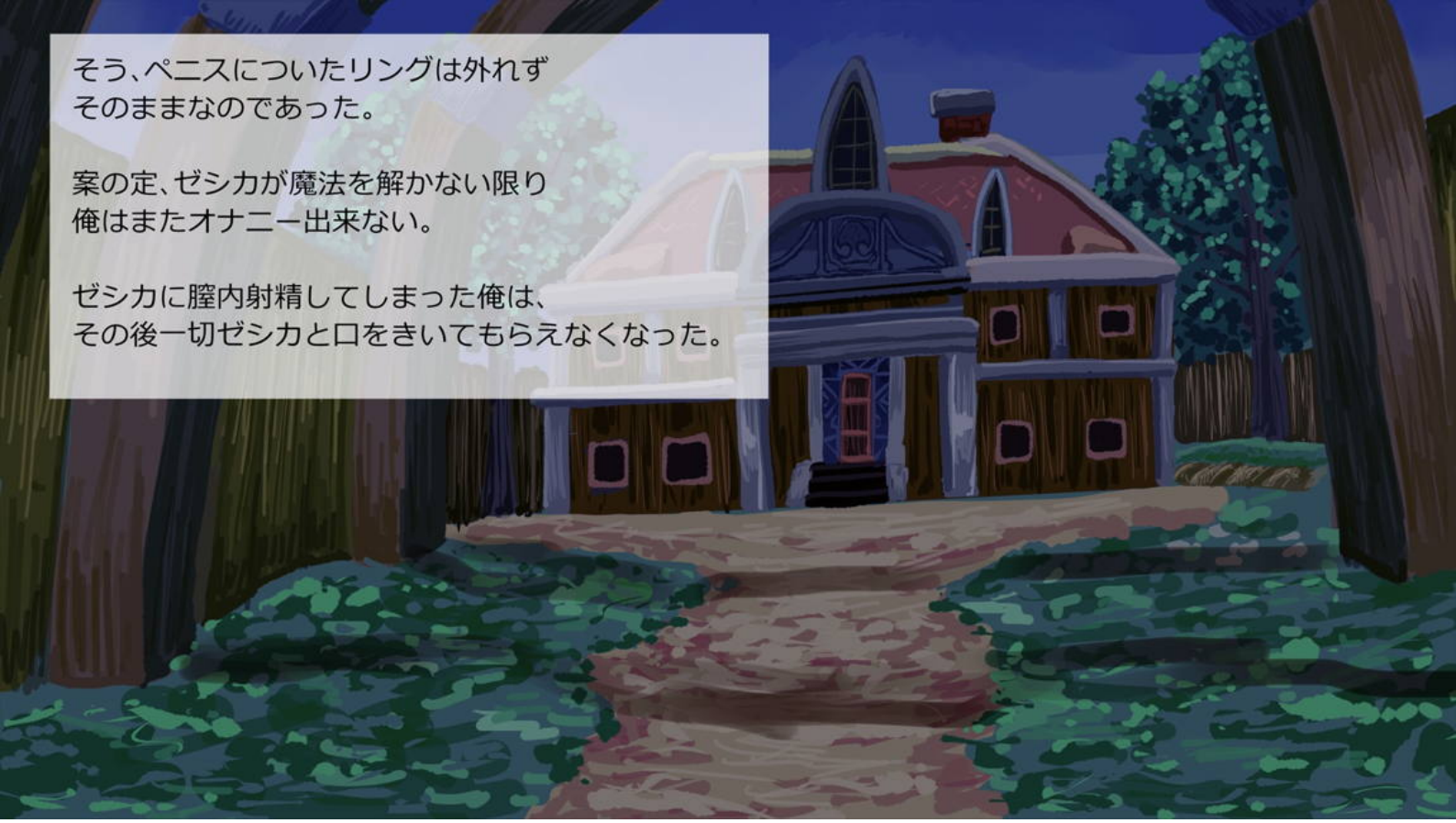


3日にも及ぶセックスが終わった。
ゼシカは身なりを整えて部屋から出ていく…。

「もう生で出すんじゃないわよ…」
「…も…もう…？」
「おしおきよ…もう許さないわ
あんたにはまだお仕置きが必要みたいだから…」

どういうことだろうか。だが、またゼシカと
セックスは出来るんだろうか…

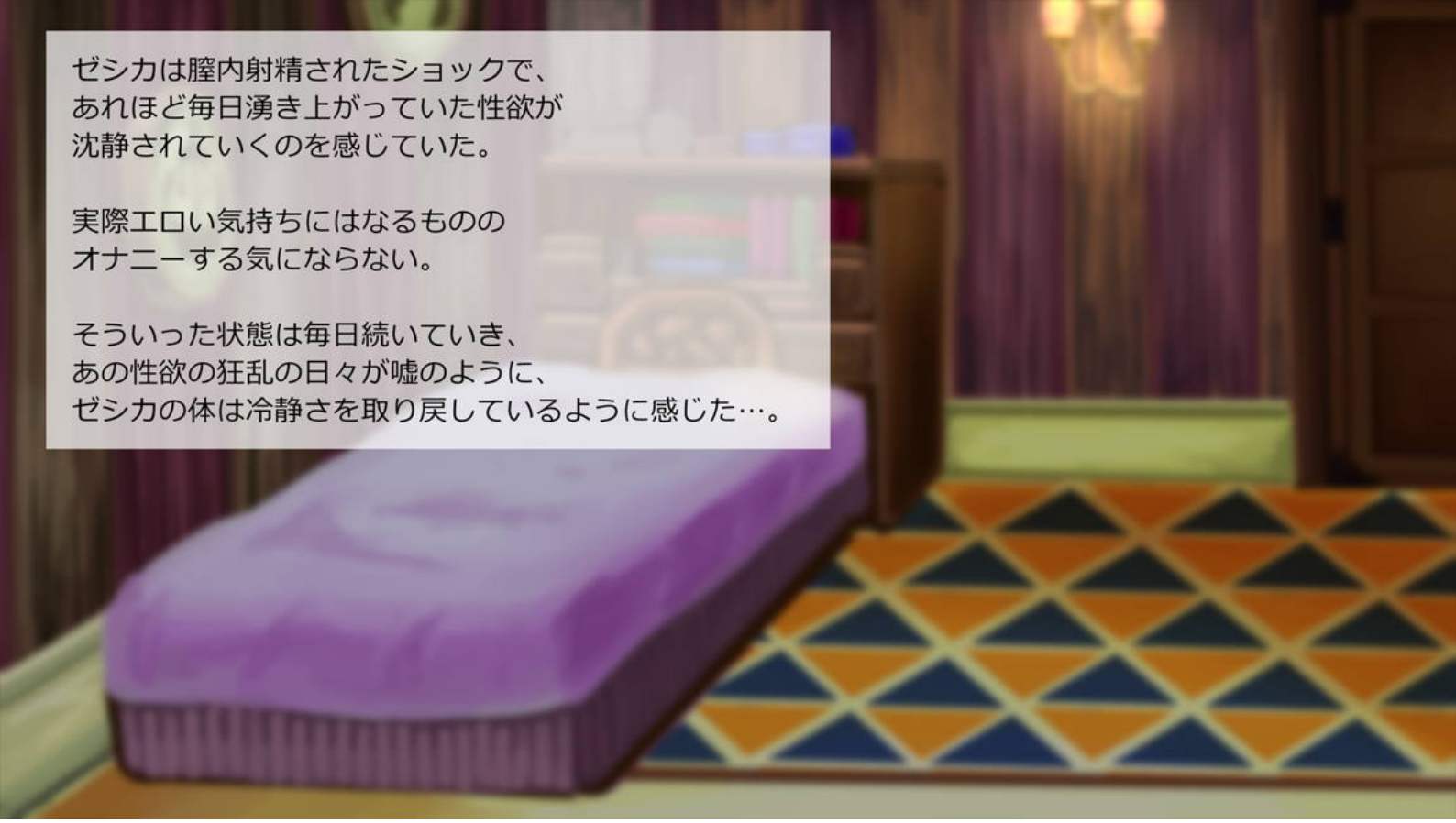
「いい？お仕置きだからね
もう2度とあんな間違いはしないわ…
中に出した罪は重いわよ…
本当にもうあんた射精できなくするわよ…」
ふと下に目をやると。またゴムリングが
きつく締まっていた…。



そう、ペニスについたリングは外れず
そのままなのであった。

案の定、ゼシカが魔法を解かない限り
俺はまたオナニー出来ない。

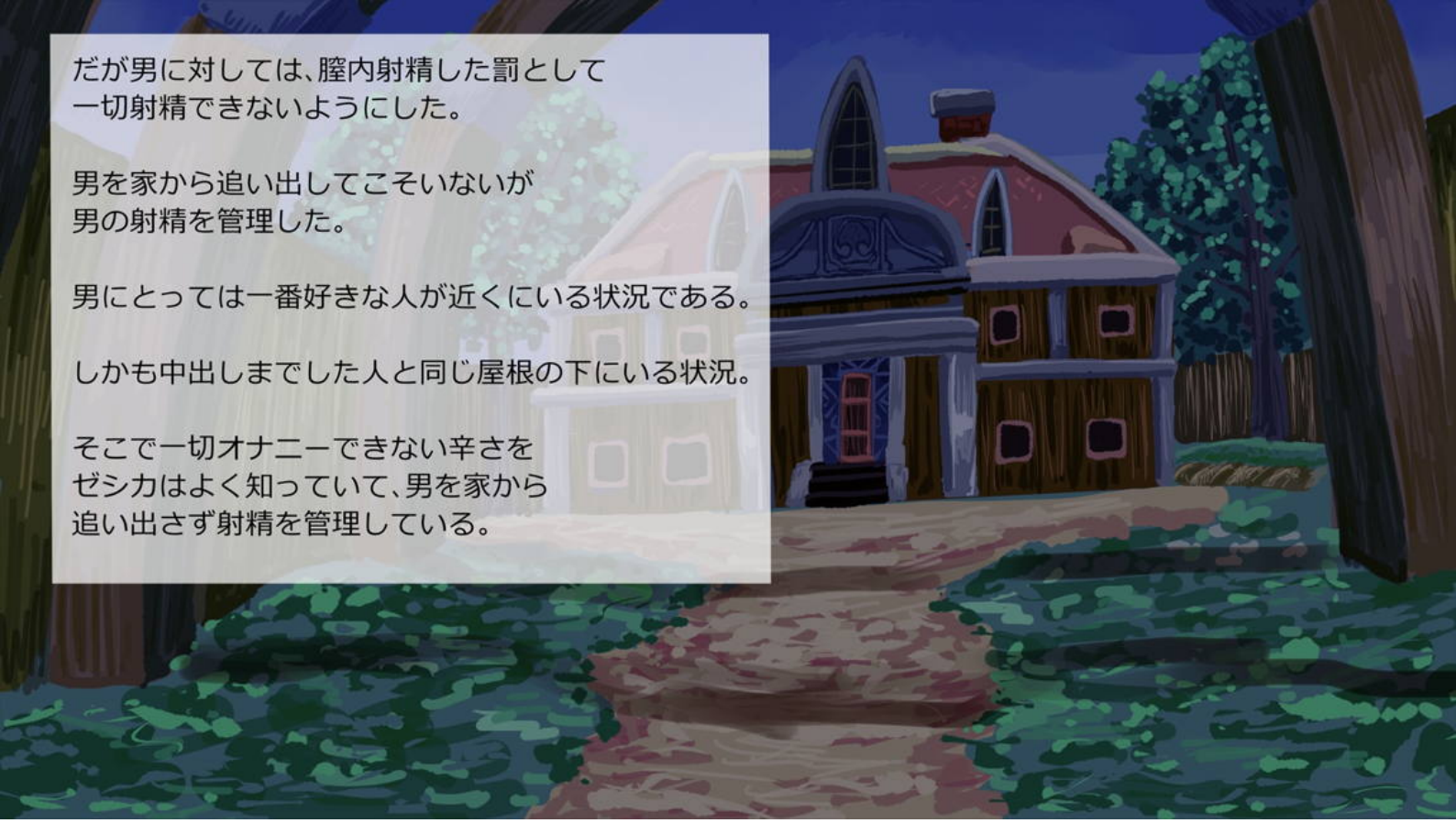
ゼシカに膣内射精してしまった俺は、
その後一切ゼシカと口をきいてもらえなくなった。



ゼシカは膣内射精されたショックで、
あれほど毎日湧き上がっていた性欲が
沈静されていくのを感じていた。

実際エロい気持ちにはなるものの
オナニーする気にならない。

そういった状態は毎日続いていき、
あの性欲の狂乱の日々が嘘のように、
ゼシカの体は冷静さを取り戻しているように感じた…。



だが男に対しては、膣内射精した罰として
一切射精できないようにした。

男を家から追い出してこそいないが
男の射精を管理した。

男にとっては一番好きな人が近くにいる状況である。

しかも中出しまでした人と同じ屋根の下にいる状況。

そこで一切オナニーできない辛さを
ゼシカはよく知っていて、男を家から
追い出さず射精を管理している。

それから２ヶ月。

ある日ゼシカは吐き気を催し、
屋敷のかかりつけ医を部屋に呼んだ。

すると……。

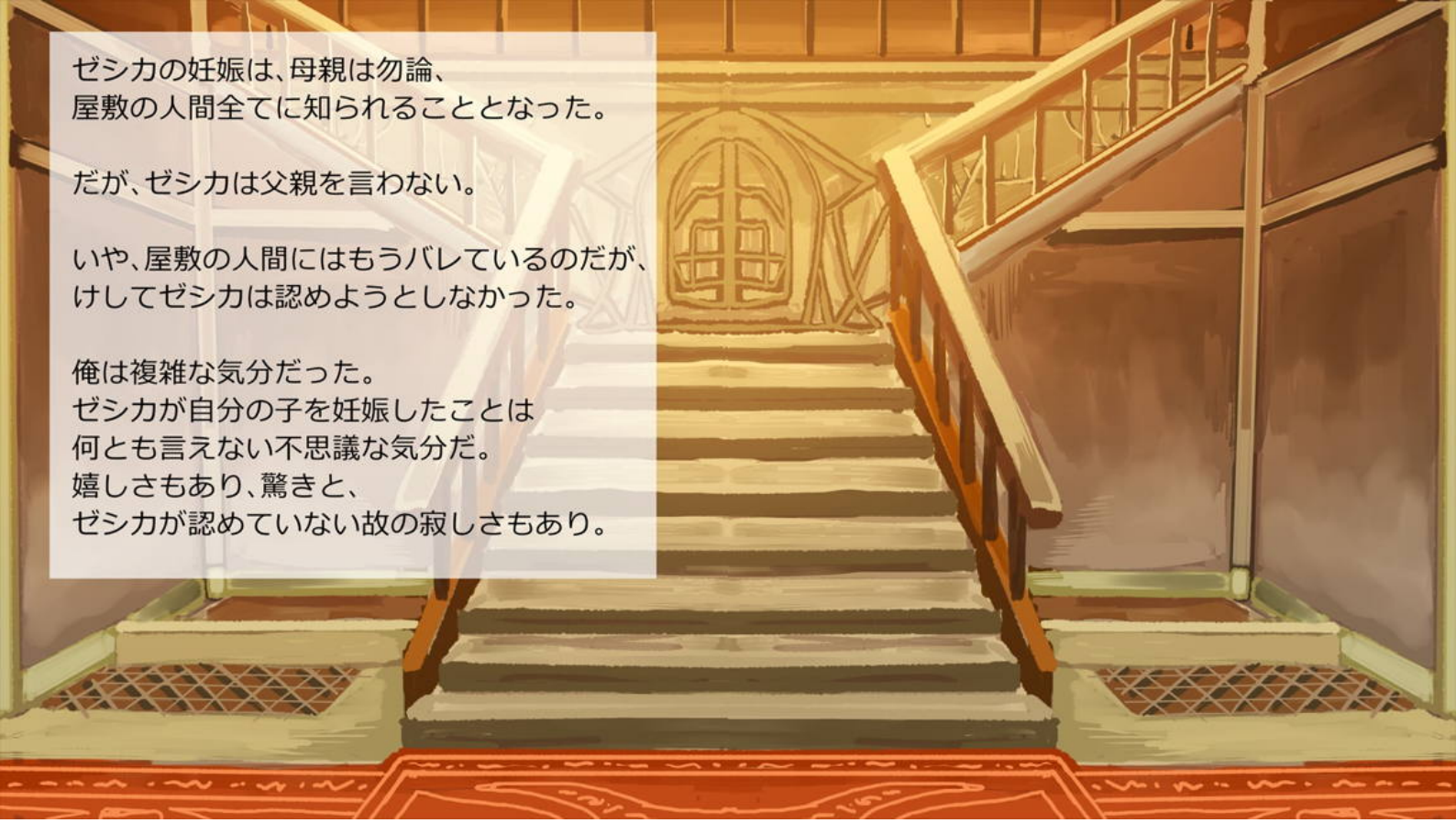
「お腹に赤ちゃんが居ますよ」

「えっ！？？」

ゼシカは仰天した。
まさか妊娠しているなんて。

心当たりはあの１回だけだ。
だが、１回だけで、まさか…。

しかし他は何もない。

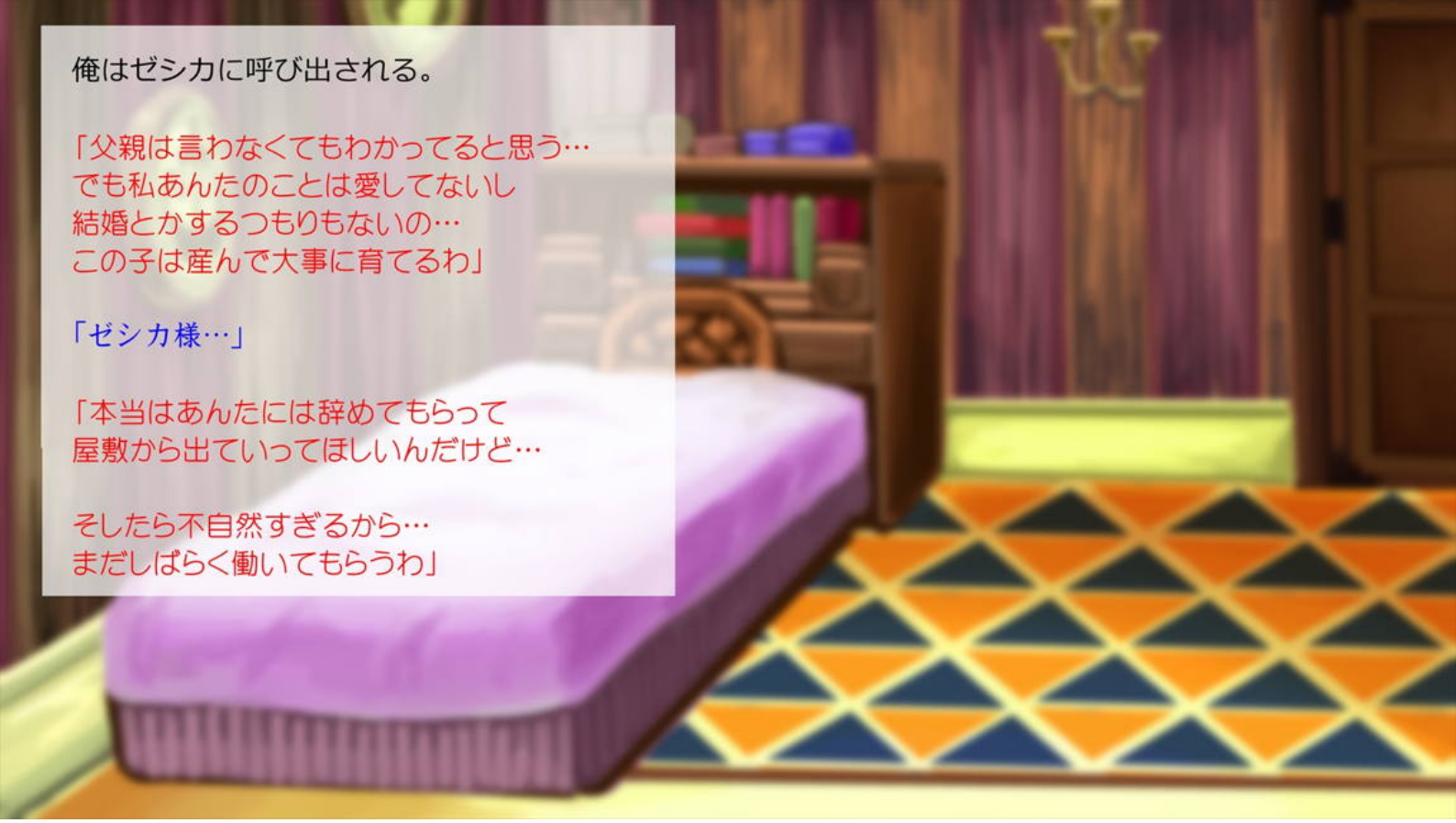


ゼシカの妊娠は、母親は勿論、
屋敷の人間全てに知られることとなった。

だが、ゼシカは父親を言わない。

いや、屋敷の人間にはもうバレているのだが、
けしてゼシカは認めようとしなかった。

俺は複雑な気分だった。
ゼシカが自分の子を妊娠したことは
何とも言えない不思議な気分だ。
嬉しさもあり、驚きと、
ゼシカが認めていない故の寂しさもあり。



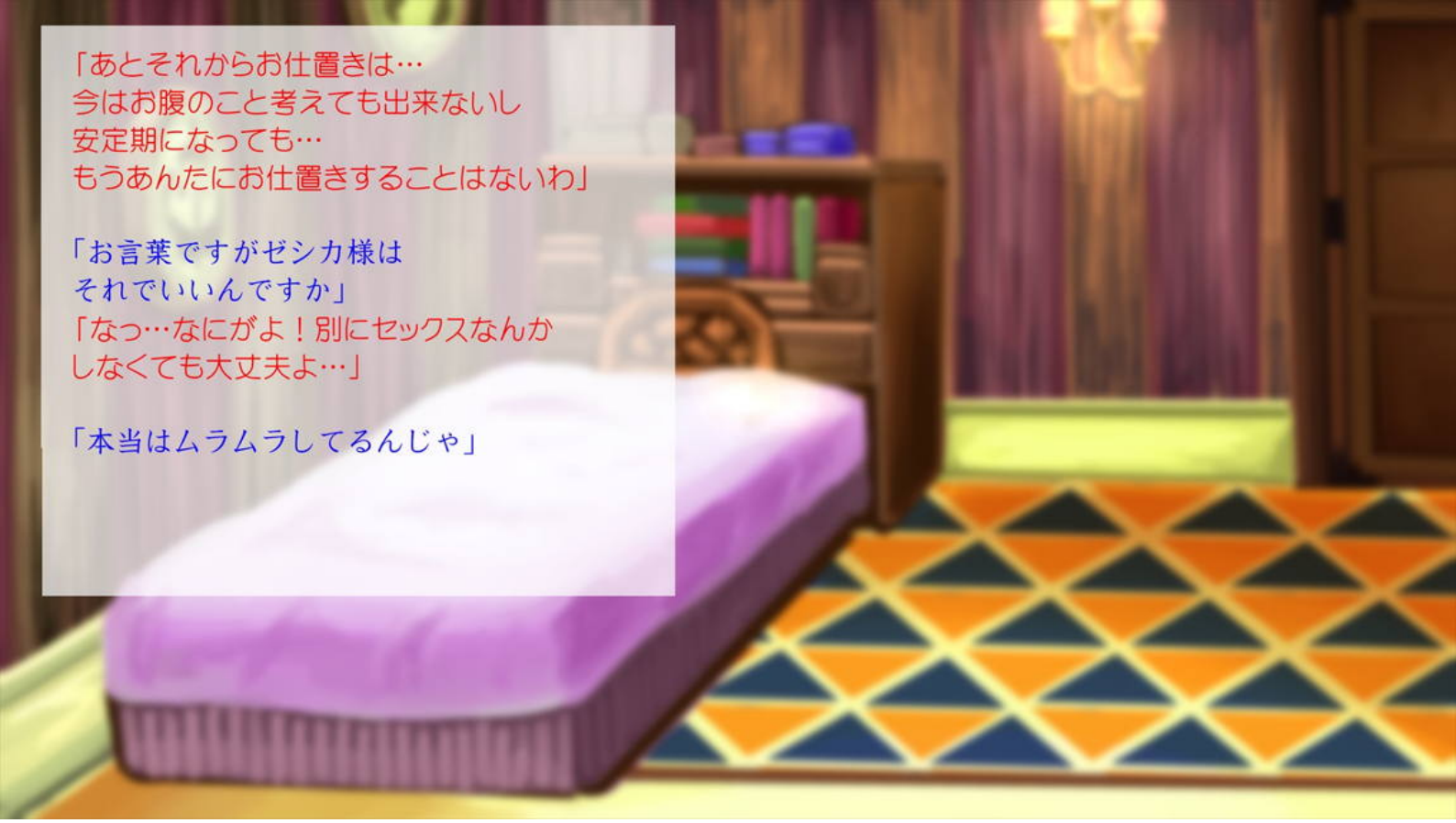
俺はゼシカに呼び出される。

「父親は言わなくてもわかってると思う…
でも私あんたのことは愛してないし
結婚とかするつもりもないの…
この子は産んで大事に育てるわ」

「ゼシカ様…」

「本当はあんたには辞めてもらって
屋敷から出ていってほしいんだけど…

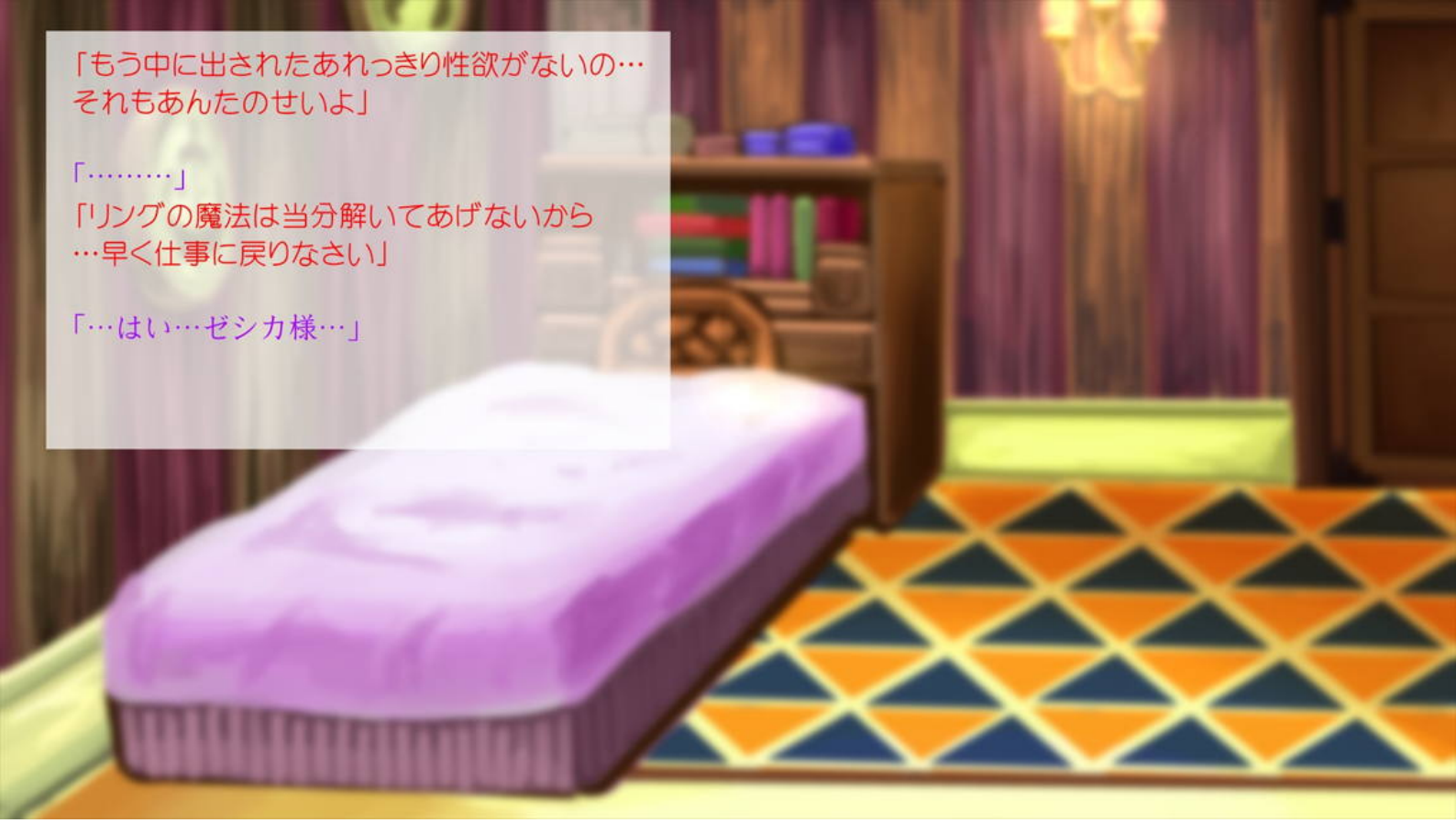
そしたら不自然すぎるから…
まだしばらく働いてもらうわ」



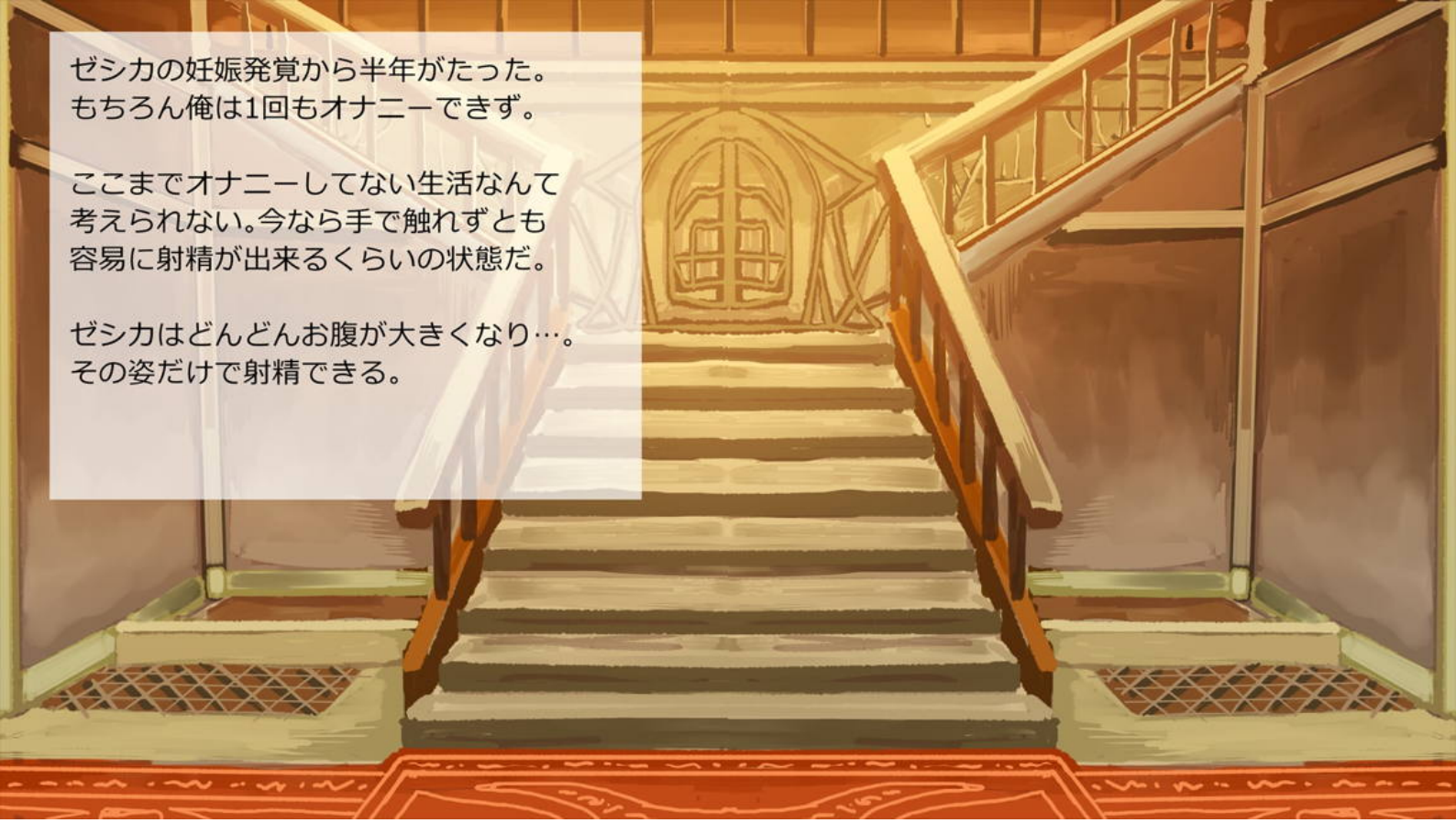
「あとそれからお仕置きは…
今はお腹のこと考えても出来ないし
安定期になっても…
もうあんたにお仕置きすることはないわ」

「お言葉ですがゼシカ様は
それでいいんですか」
「なっ…なにがよ！別にセックスなんか
しなくても大丈夫よ…」

「本当はムラムラしてるんじゃ」


「もう中に出されたあれっきり性欲がないの…
それもあんたのせいよ」
「……」
「リングの魔法は当分解いてあげないから
…早く仕事に戻りなさい」
「…はい…ゼシカ様…」

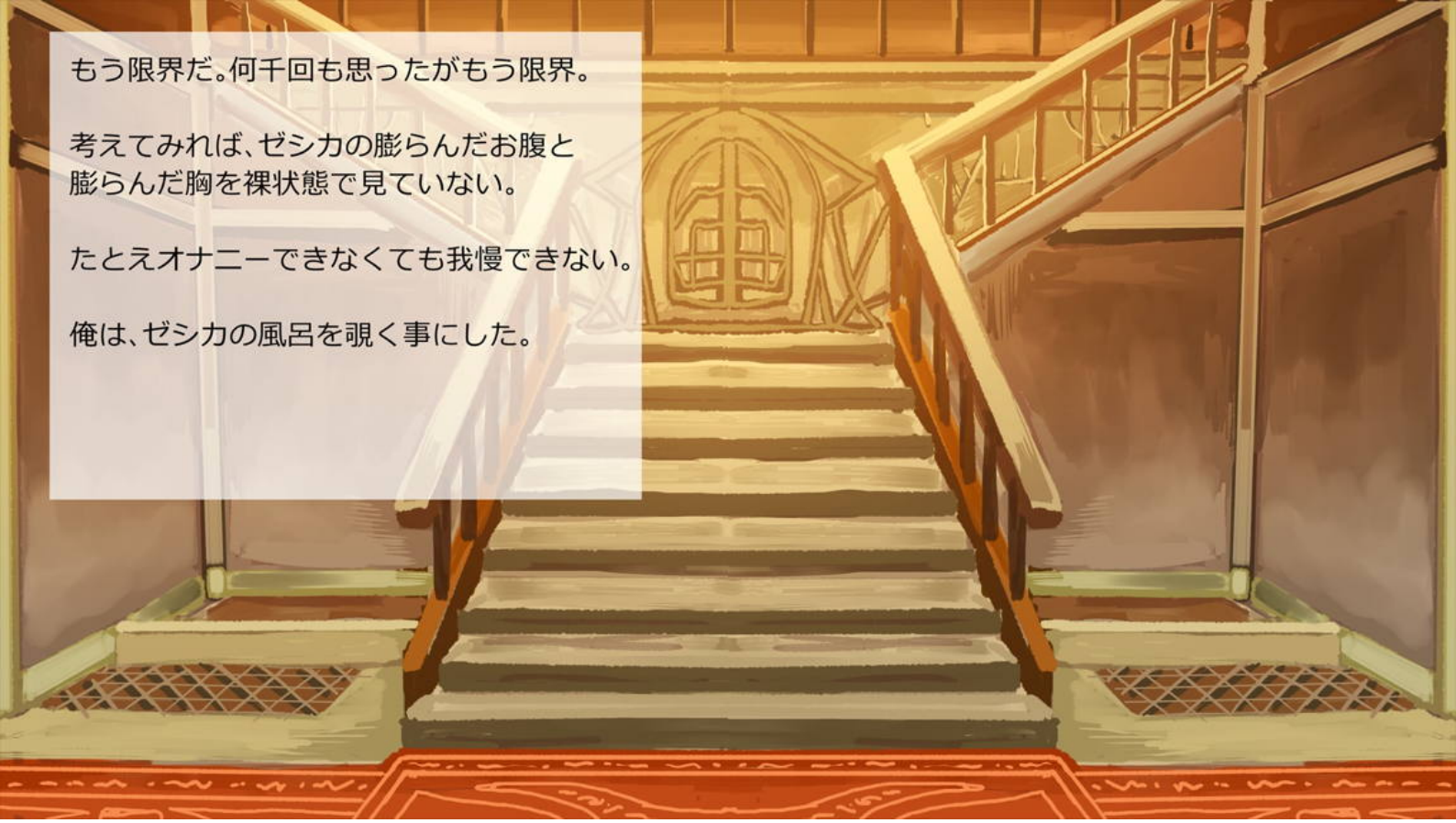
そして俺は、次にオナニーできるのは
いつなのだろうと絶望しながら…
毎日を過ごしていく…。



ゼシカの妊娠発覚から半年がたった。
もちろん俺は1回もオナニーできず。

ここまでオナニーしてない生活なんて
考えられない。今なら手で触れずとも
容易に射精が出来るくらいの状態だ。

ゼシカはどんどんお腹が大きくなり…。
その姿だけで射精できる。



もう限界だ。何千回も思ったがもう限界。

考えてみれば、ゼシカの膨らんだお腹と
膨らんだ胸を裸状態で見ていない。

たとえオナニーできなくても我慢できない。

俺は、ゼシカの風呂を覗く事にした。

風呂場の鍵を使い、入浴中のゼシカの元へ。

すでに裸は何度も見ているが、
8ヶ月ぶりの生の体に興奮を隠せない。

俺はすでにフル勃起している。

仕切りはカーテンだけだ。
湯気が立ち込めている。

俺は気づかれぬよう
こっそりと隙間から覗く…。

シュッ
シュッ
シュッ
「うっ…！！！」
母乳準備のために２サイズほどサイズが
アップしているゼシカの爆乳。
サァァァァァ
乳首も色素沈着してエロい…。
そしてお腹の膨らんだ稜線…。
「はあはあ…あのお腹を…俺が膨らませたんだ…」
そう思うだけでもう射精せずにはいられない。
「ゼシカ…ゼシカ…ゼシカぁ…！」
俺は高速で手を動かす。魔法が効いてなければ
もう射精しているはずの興奮。
と、その時…

「何見てるのよ」
「はっ！？」
「なに覗いてるの」
「ぜっ…ゼシカ様！」
キャアアア…
ビクッ！
「何しに来たの　オナニー？」
「そ…それは…！」
「私の体をオカズにするために覗きに来たの？」
「…は…はい！」
ゼシカは扉を開放する。

ブッ…
「ふ～ん…魔法、解いてあげよっか」
「えっ！？」
「今だけ、魔法解いて
あげよっかって言ってんの」
「い…いいんですか！」
「いいわよぉ～そのかわり
いっぱい出してよねぇ～」
「はっはいぃぃぃぃゼシカ様っ！」
ゼシカが指を弾くと、リングから光が消えた。
「こ…これは！」
ついに、ついに８ヶ月ぶりに射精できる！
俺はチ○ポを握りしめ、ゼシカの裸体を
オカズにオナニーを開始した！

シコ
シコ
シコ
シコ
「はあ…はあ…ゼシカ様…
ゼシカ様…私が…孕ませて…
膨らませた…お腹っ…！おっぱいっ…！！」
「そうよぉ～あんたが孕ませたお・な・か…」
「あぁあぁあ～たまらんっ
ゼシカ…出るっ…出るうう！
８ヶ月ぶりのっ…射っ…！あっ！」
「おっぱいだってさぁ～誰かさんに
孕まされちゃって大きくなっちゃったし…
一層ナイスバディになっちゃったじゃない
これから母乳が出るのよねぇ～」
「ゼシカぁあああ！もう出るっ！
出っ！あぁあああ！」

ポウッ…
「あぁあぁあっ！？」
「あっ！？」
ビグッ！
今にも、まさに射精できる、そう思ったが
まるで精液は発射されない。
ビグンッ！
ビグン！
ペニスこそ激しく動いているが、
リングは光ってきつく絞られていた…！
「うふふ…」
「ゼシカ様…」

ビグン！
ビッグン！
ブル…！
「ざぁんね～ん　こぉんなエッチな体見ても
オナニー出来ないなんてねぇ～」
「ひどいですゼシカ様…」
「私が魔法解くわけ無いでしょ！
お仕置きよお仕置き！喜びなさいよ」
「うぅ…！」
ナァァァ…
射精の快感はまったくないものの
激しく動くペニス。
「ほらぁ　あなたに孕まされてますます
スケベになったボディよぉ
どんどんオナニーしてぇ？」
「ぜ…ゼシカ様…」

俺はまたペニスをこすったが
やはり射精できるはずもない。

「ゼシカ様…では一体いつになったら
射精させてくれるんですか！」
「さあ　気が済んだらね　まだ気が済まないもの」

「うぅ…ゼシカ様…このままでは…辛くて辛くて…」
「駄目よ　お仕置きってことをもっと自覚しなさい」

俺はやはり射精できず…
またつらい日々を繰り返すのだった…。

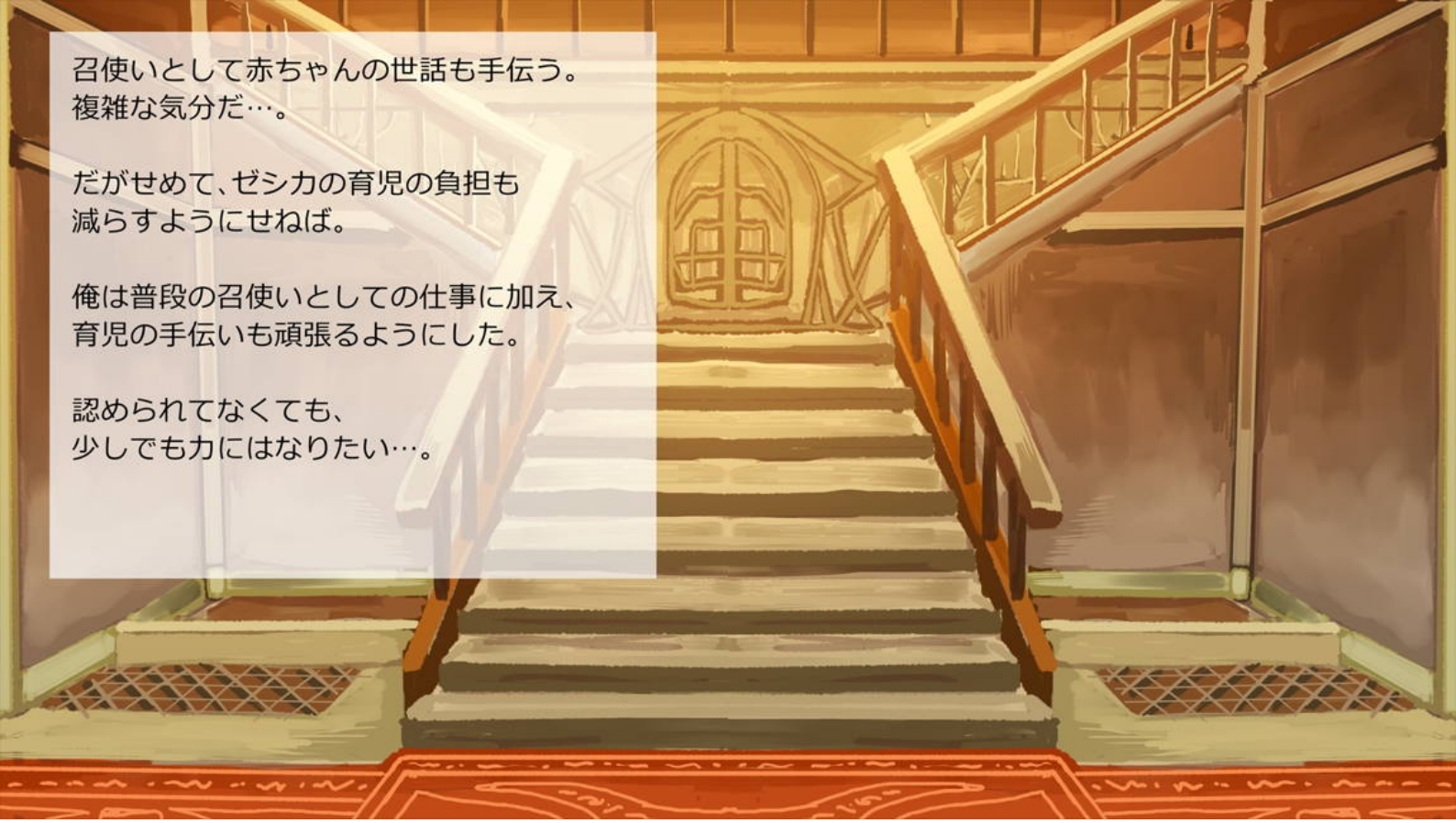
そしてゼシカは無事、女児を出産。

だが俺と結婚…などということはなく、
ゼシカは気丈に子育てに勤しんでいる。

召使いも手伝いながら。

もちろん自分もゼシカとの子を抱くが、
それは父親としてではなく
あくまで召使いとして…。

感動したが、やはり淋しい…。



召使いとして赤ちゃんの世話も手伝う。
複雑な気分だ…。

だがせめて、ゼシカの育児の負担も
減らすようにせねば。

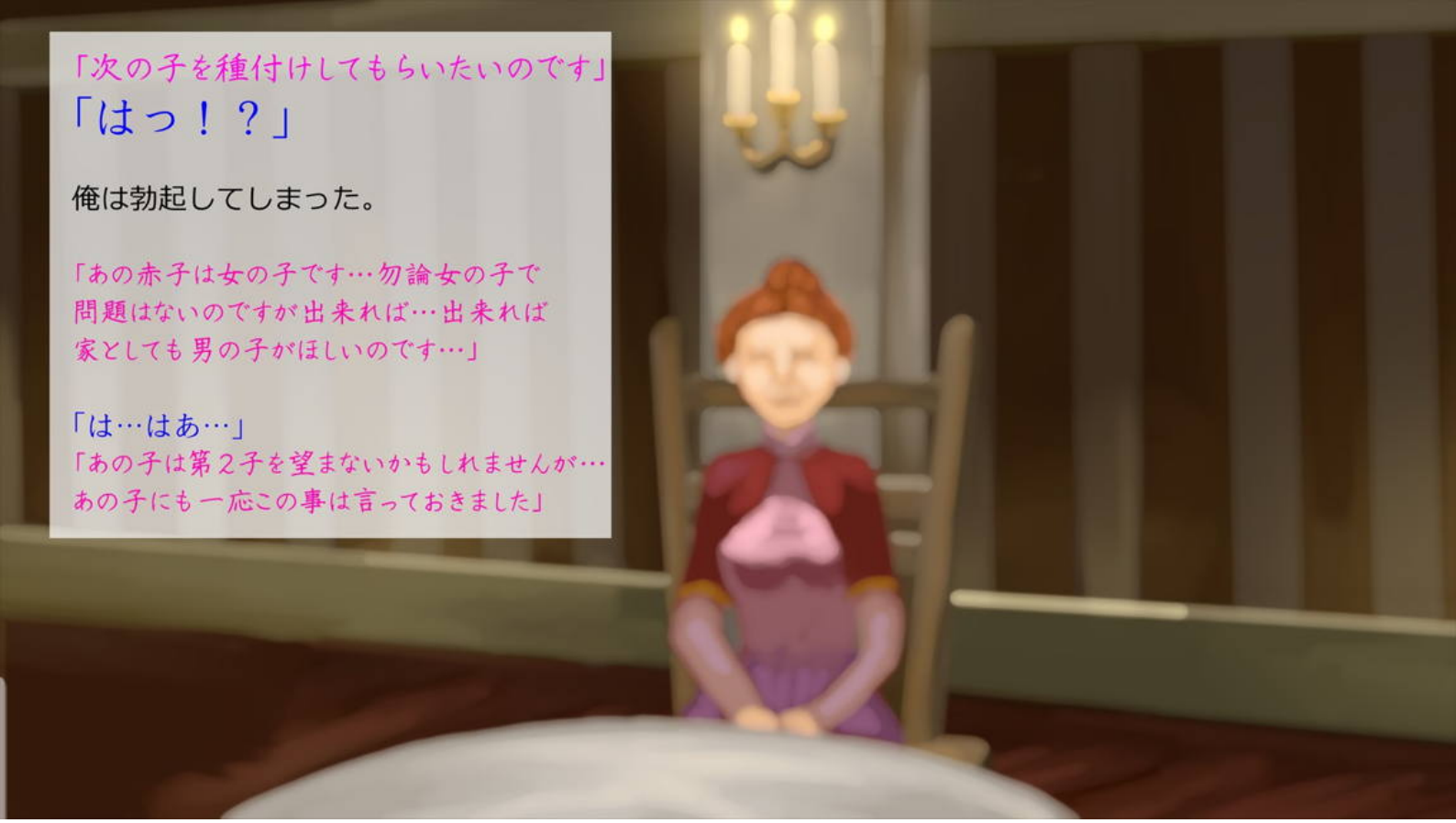
俺は普段の召使いとしての仕事に加え、
育児の手伝いも頑張るようにした。

認められてなくても、
少しでも力にはなりたい…。

そんな中、俺はゼシカの母親の
アローザさんに呼び出される。

「あの赤子があなたとゼシカとの
子であることはわかっています…
ゼシカがそれを認めていないことも…
それゆえ頼みがあるのです」

「何でしょうか」



「次の子を種付けしてもらいたいのです」
「はっ！？」

俺は勃起してしまった。

「あの赤子は女の子です…勿論女の子で
問題はないのですが出来れば…出来れば
家としても男の子がほしいのです…」

「は…はあ…」
「あの子は第２子を望まないかもしれませんが…
あの子にも一応この事は言っておきました」

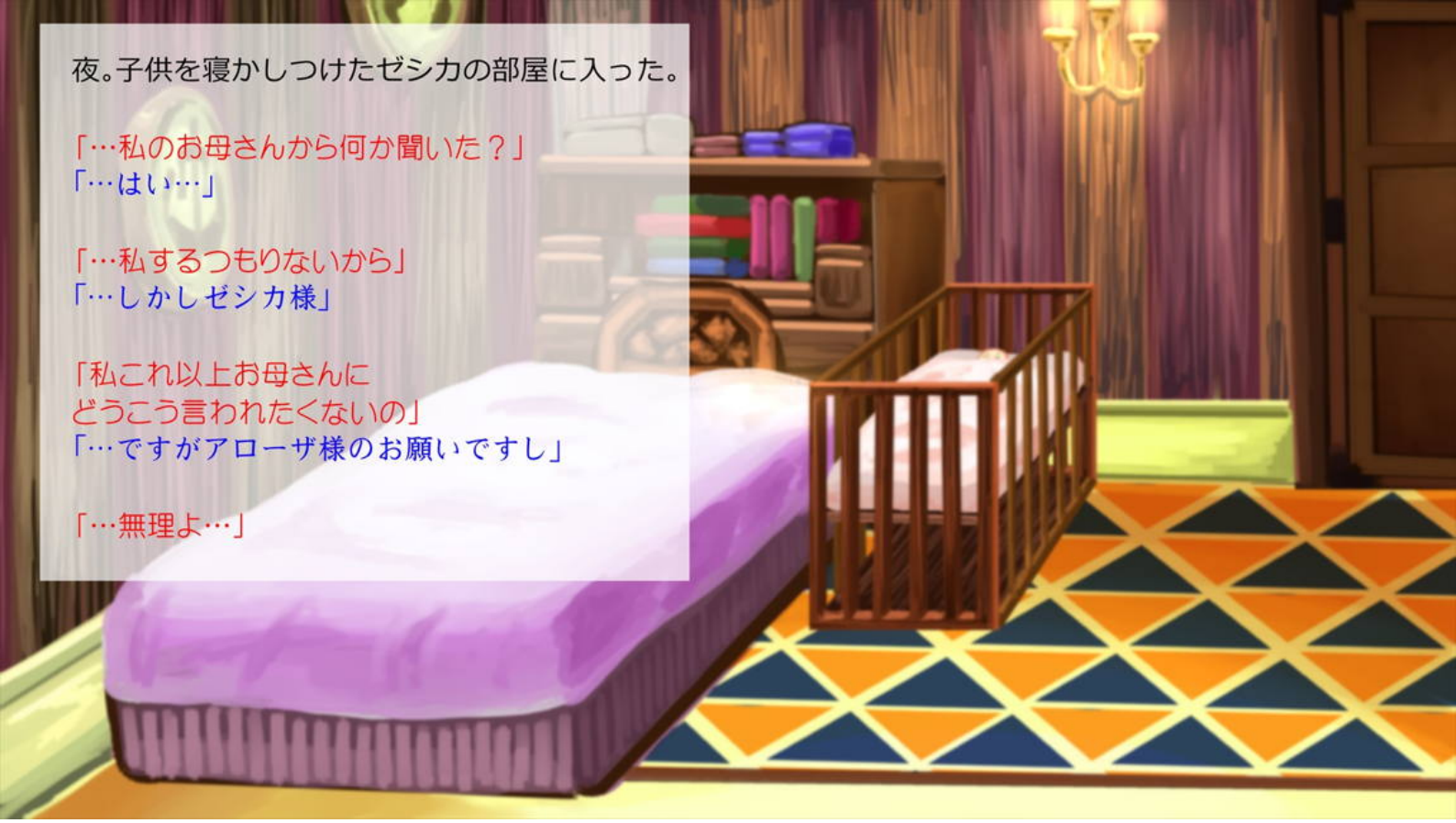
親の干渉…家…
色々思うところはあったが口には出さない。

勃起してしまっている自分の状態。

出産から１ヶ月は過ぎ、もうゼシカは
また妊娠できる状態だろう。

だが俺のペニスにはまだリングが
着いていてオナニーが自由でないのだ。

とにかくどうすればいいのか
一度ゼシカには会ってみなくては。



夜。子供を寝かしつけたゼシカの部屋に入った。

「…私のお母さんから何か聞いた？」
「…はい…」

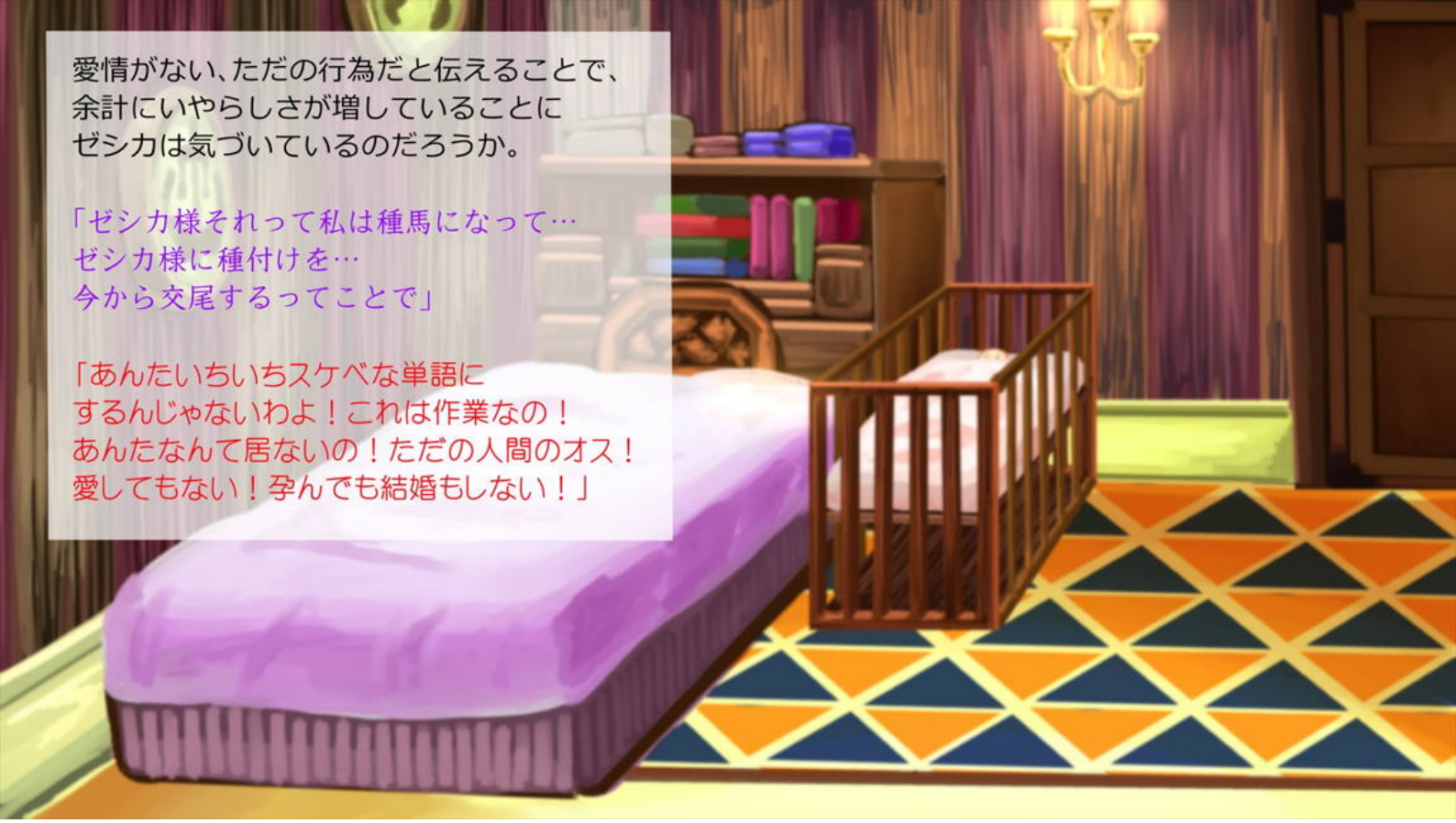
「…私するつもりないから」
「…しかしゼシカ様」

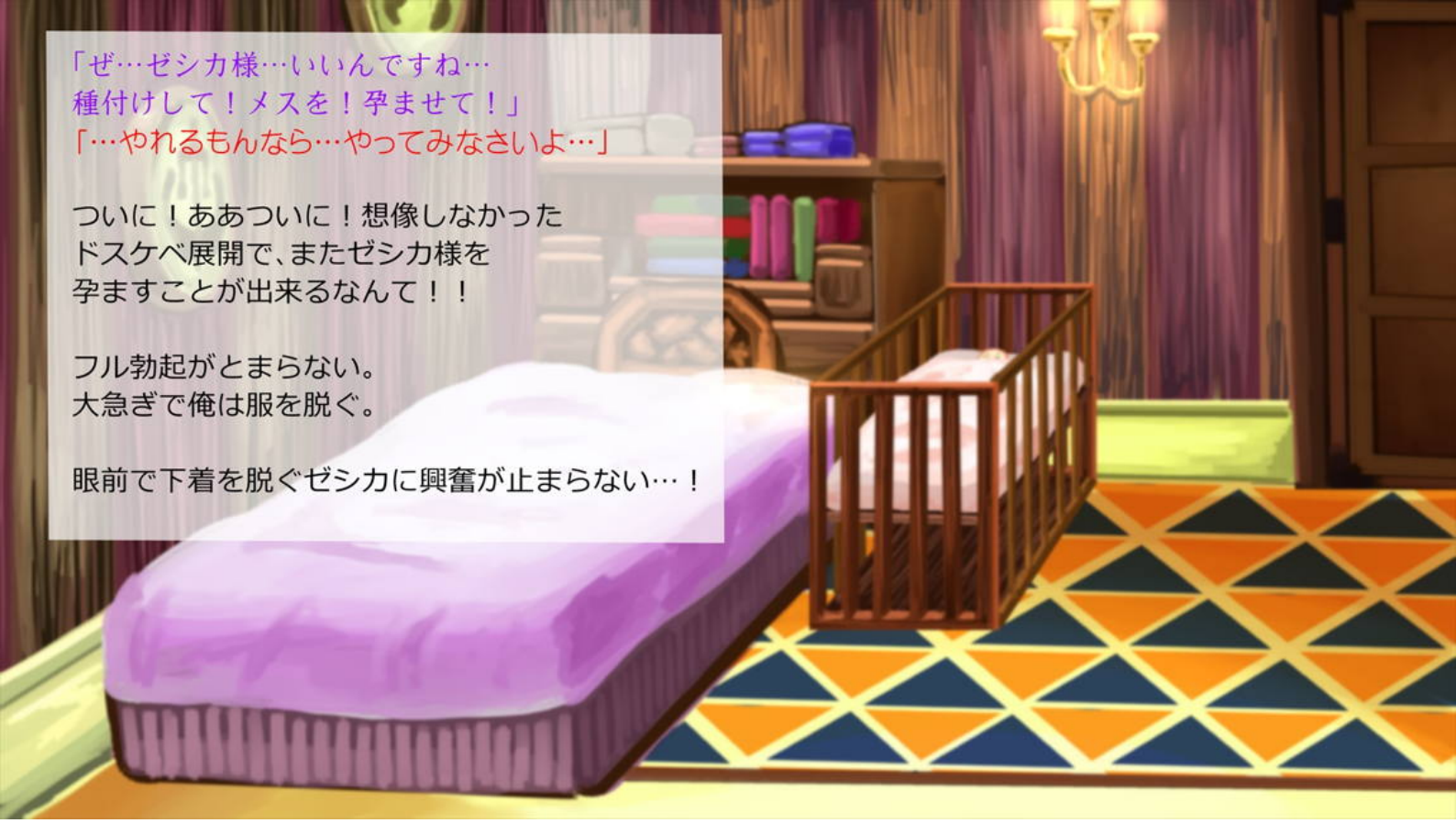
「私これ以上お母さんに
どうこう言われたくないの」
「…ですがアローザ様のお願いですし」

「…無理よ…」

「ゼシカ様‥」
「うるさいわね…また…
お仕置きするわよ……」
俺は、股間のゴムリングが、
緩んだのを感じた。
すぐさま勃起するチ○ポ。
「ぜ…ゼシカ様！？」

「…これは私の意思じゃないわ…
”作業”よ…
感情は存在しないの。
私はただ生物のメスとして…
あと1回だけあんたというオスに
子宮を許すわ…だから1回だけ…」


愛情がない、ただの行為だと伝えることで、
余計にいやらしさが増していることに
ゼシカは気づいているのだろうか。
「ゼシカ様それって私は種馬になって…
ゼシカ様に種付けを…
今から交尾するってことで」
「あんたいちいちスケベな単語に
するんじゃないわよ！これは作業なの！
あんたなんて居ないの！ただの人間のオス！
愛してもない！孕んでも結婚もしない！」


「ぜ…ゼシカ様…いいんですね…
種付けして！メスを！孕ませて！」
「…やれるもんなら…やってみなさいよ…」
ついに！ああついに！想像しなかった
ドスケベ展開で、またゼシカ様を
孕ますことが出来るなんて！！
フル勃起がとまらない。
大急ぎで俺は服を脱ぐ。
眼前で下着を脱ぐゼシカに興奮が止まらない…！

「ゼシカ様！ゼシカ様！一年ぶりにっ！」
１年ぶりの射精にドキドキが止まらない。
本当にして良いのか！

「うるさいわね変態…
さっさと終わらせてよね…」

と言いつつ、ゼシカのまんこは
濡れに濡れていた。

俺は再び生のまま、ゼシカの女穴に
一年ぶりにペニスをぶちこむ。

「あと1回だけして…それで妊娠したら
それはもう運命っていうか…
そういうことなんだろうと思うの

お母さんの話も認めるわ
別にあんたのことはどうとも思ってないから。
ただ作業を一緒にする相手ってだけ」

「ぜ…ゼシカ様…」

「はううあぁああっ！あったかい…！
1年ぶりの…ゼシカ様のまんこぉ…！ぜ…ゼシカ様…
ちょっと…興奮しすぎて…もう射精しそうです…」
「はっあぁあぁああうっ…！
あ…っ…んぐっ♡」
ゼシカも1年ぶりのセックスである。
久しぶりの快感に一瞬、意識が飛びそうになる。
ゼシカの乳頭からは母乳が滲む。
「はあ！はあ！交尾気持ち良いっ！
しかも母乳…おっぱい飲んでいいですか！」
「こ…交尾って言うんじゃないわよ…！
おっぱい飲むのもだ～め！」
ん…♡
ぷるっ♡
ズプウウ…♡

「はあっ！ゼシカ様に！ゼシカ様に
射精できる！こんなに興奮するなんて！」
「妊娠しなかったら…もうそれで終わりよ…」
「いえっ絶対妊娠させますっ！僕の精子で
ゼシカ様は絶対第２子を孕みますから！」
「あんっ♡あぁ♡孕まないわよ…絶対に…！あ…♡
やっぱり…んあぁっ♡生って…すごぉっ…」
まさに孕むためにしている行為なのに
それでも気持ちでは拒んでいるゼシカ。
だが何が何でも俺はゼシカを…！
ズブッ♡
ズブッ♡
ん♡ん♡
ぷるっ♡
ぷるっ♡
じゅぼっ！
じゅぼ！

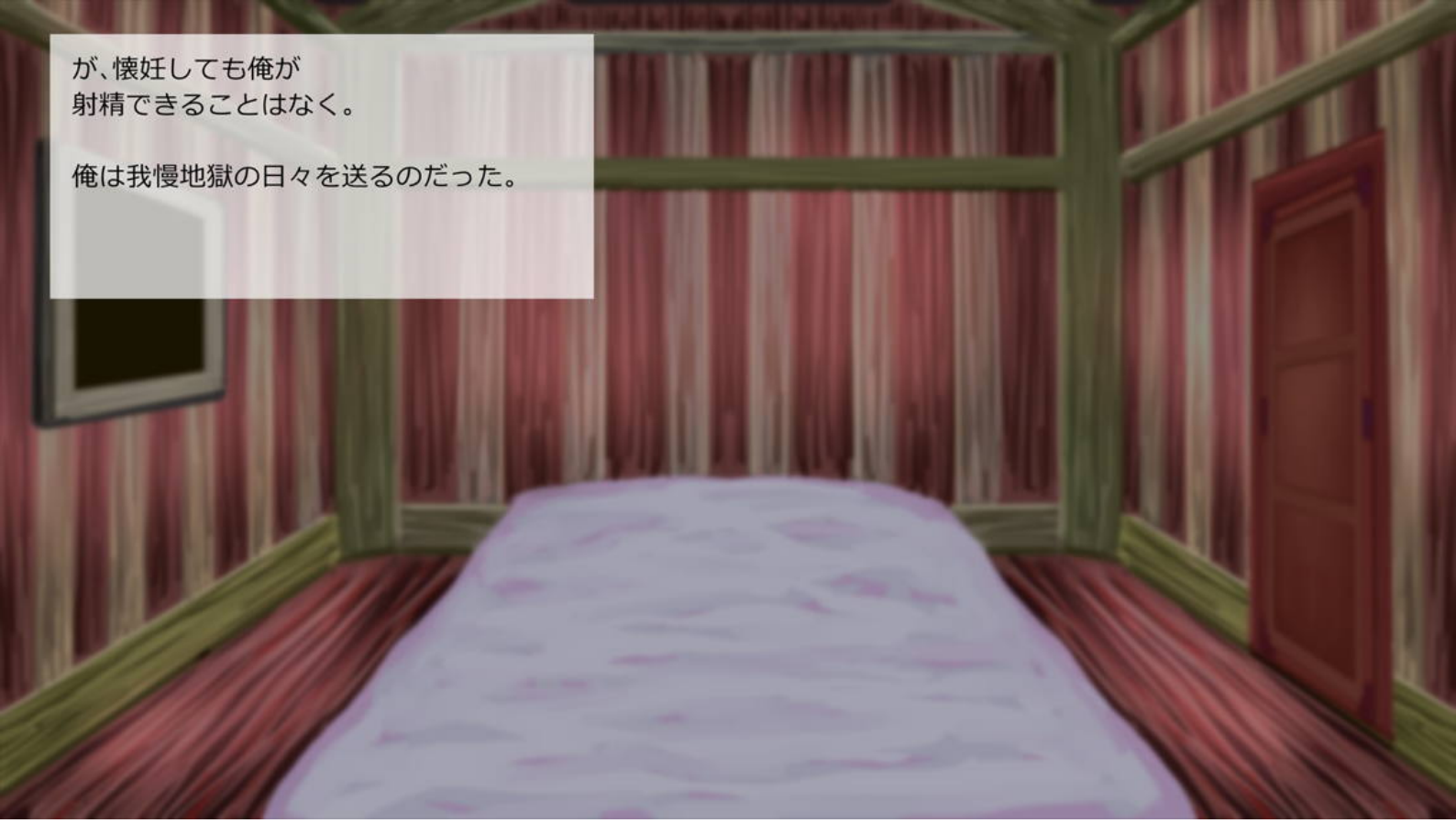
２時間後。生の快感に耐えまくりながら、
我慢に我慢を重ねて、いよいよもう限界。
「ゼシカ様っ！もっ…もう…出ますよ！種付けしますよ！
数カ月分の精子！出しますよ！！」
「はあぁあ♡はあぁああっ♡あっ♡あっ♡
しょうがないから…1回だけ…受け入れてあげるわ…
はやく…出しっ…♡あ♡出しなさいっ…♡あ♡気持ちいいっ！」
「孕ませますよ！妊娠してください
ゼシカ様！あっ！あ！あー！！！」
「ひあぁあぁあっ♡出してぇええっ♡出しなさいっ…！
孕ませてみなさいよ…！無理だろうけど…！
あぁ…♡あ…！♡あぁあぁああっ♡」
ドギュッ!!
ドギュッ!!
ぷるん
ぷるん
ドギュッ♡
ギュブッ!
ドギュッ!

「おうっ！お！おぉおおおおっ！！
ゼシカ様！あぁあああ！」
「んっあぁああぁあああ♡あぁあ！
熱いっ！熱いのがっ♡あぁあああ♡」
はっ♡
あっ♡
あぁあ～♡
ゴビッ♡
ゴボッ♡
ゴボッ♡
ゴボッ♡
ピュッ♡
「ゼシカ様！おぉおあぁぁあ！
気持ちいいっ！気持ちよすぎる！おぉおお！」
「はあぁあああ♡あうぅううあぁあああ！！♡」
ピュッ♡

「おぉおおっ♡おぉおお♡入ってる！
ゼシカ様の子宮に精液入ってる！
種付けしてるっ！おぉぉおおおお！」
「あうぅうぅう♡気持ちいいっ♡あぁ♡
すごくっ…いっぱいいいい…！」
「ゼシカ様！孕んで下さい！
妊娠して下さい！」
「あぁああ…あぁああ…こんなに
注がれたら…あぁああ♡」
「はあっ！はあ！気持ちよかった！
気持ちよかったぁああ…
まだ出てますよぉ…♡」
「あうっ♡あ…まだ…入ってくるのぉ…♡」
はあっ♡
あっ♡
あ…
入ってくるぅぅ…♡
ビュッ♡
ビュッ♡
ビョッ…！♡
ブビョッ♡
ブビョッ♡

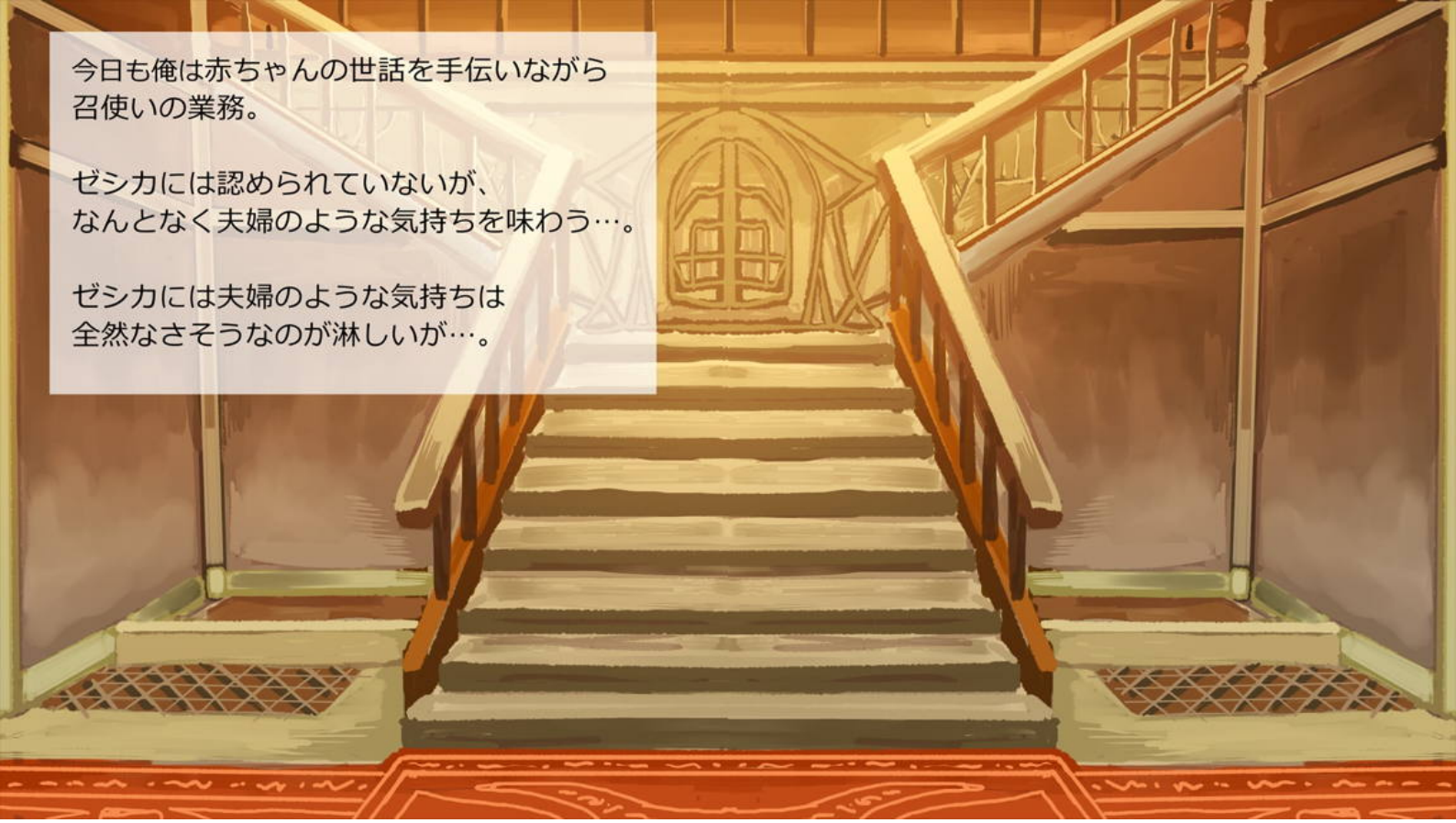
「ゼシカ様っ…はあ…はあ…
キスしていいですか…」
「それは駄目よ…召使い君…」
結局キスも母乳も駄目、セックス自体も
これ１回で終わりにさせられてしまった。

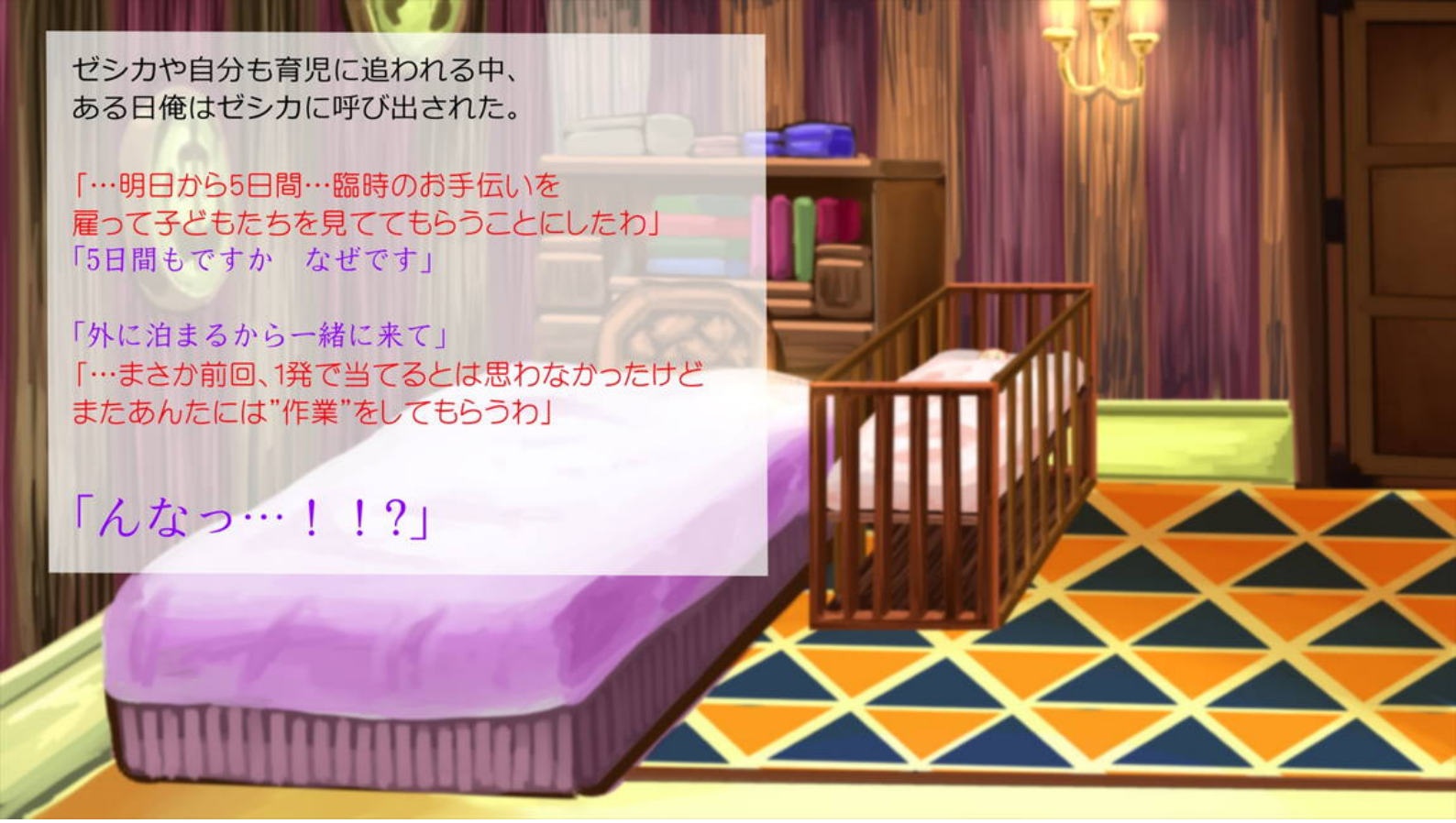
それでも、このときの一発で
ゼシカは第２子を妊娠した。


が、懐妊しても俺が
射精できることはなく。
俺は我慢地獄の日々を送るのだった。

そして、ゼシカは第２子を出産。
女児だった。
それでも何も問題はないのだが、
周りの空気が何とも言えないものがあった…。

だがその後も俺がゼシカの
育児を手伝っても、
ゼシカは俺をやはりあくまで
召使いとしての扱いのままだ…。


今日も俺は赤ちゃんの世話を手伝いながら
召使いの業務。
ゼシカには認められていないが、
なんとなく夫婦のような気持ちを味わう…。
ゼシカには夫婦のような気持ちは
全然なさそうなのが淋しいが…。

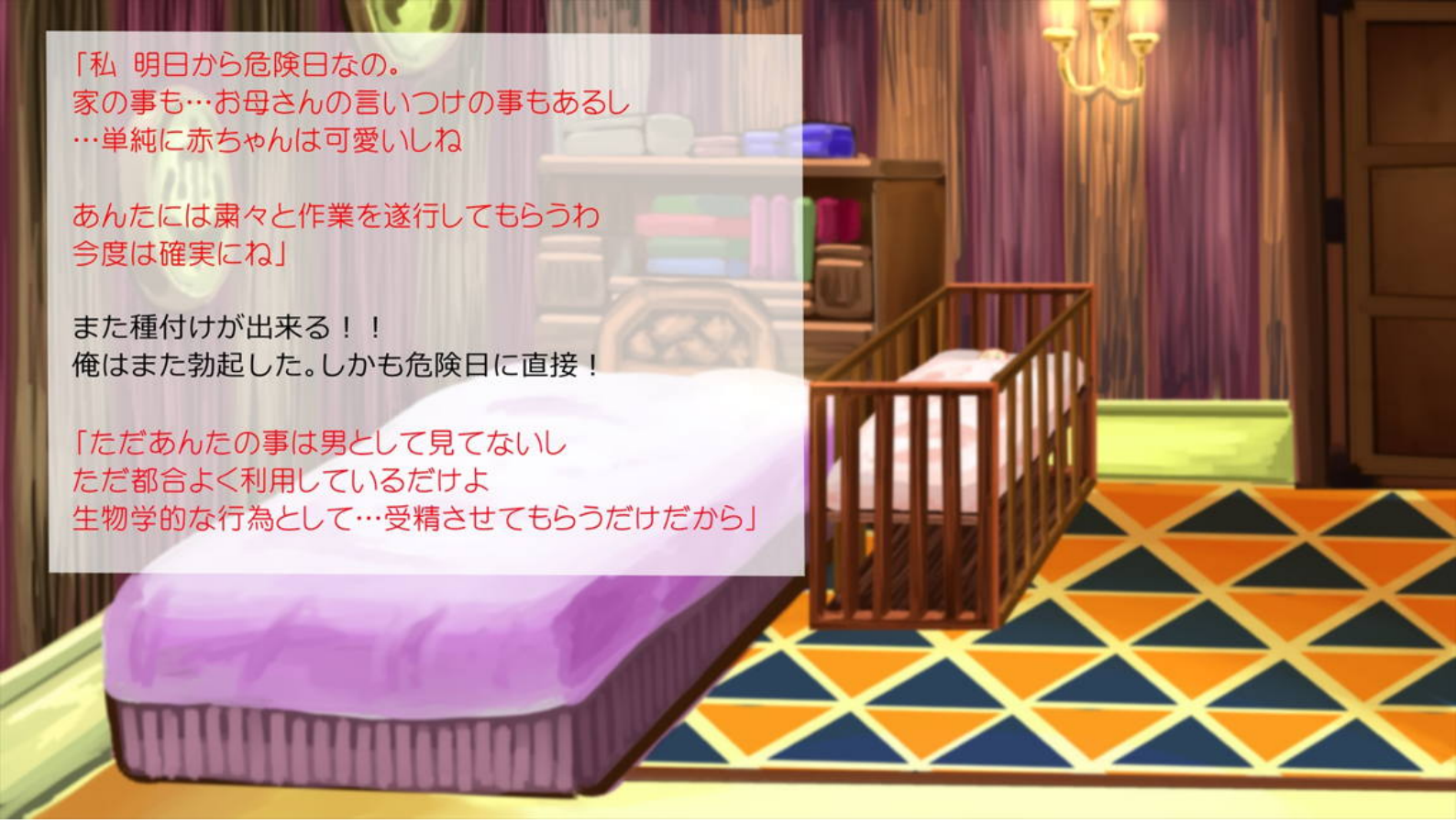


ゼシカや自分も育児に追われる中、
ある日俺はゼシカに呼び出された。

「…明日から5日間…臨時のお手伝いを
雇って子どもたちを見ててもらうことにしたわ」
「5日間もですか　なぜです」

「外に泊まるから一緒に来て」
「…まさか前回、1発で当てるとは思わなかったけど
またあんたには”作業”をしてもらうわ」

「んなっ…！！?」



「私　明日から危険日なの。
家の事も…お母さんの言いつけの事もあるし
…単純に赤ちゃんは可愛いしね

あんたには粛々と作業を遂行してもらうわ
今度は確実にね」

また種付けが出来る！！
俺はまた勃起した。しかも危険日に直接！

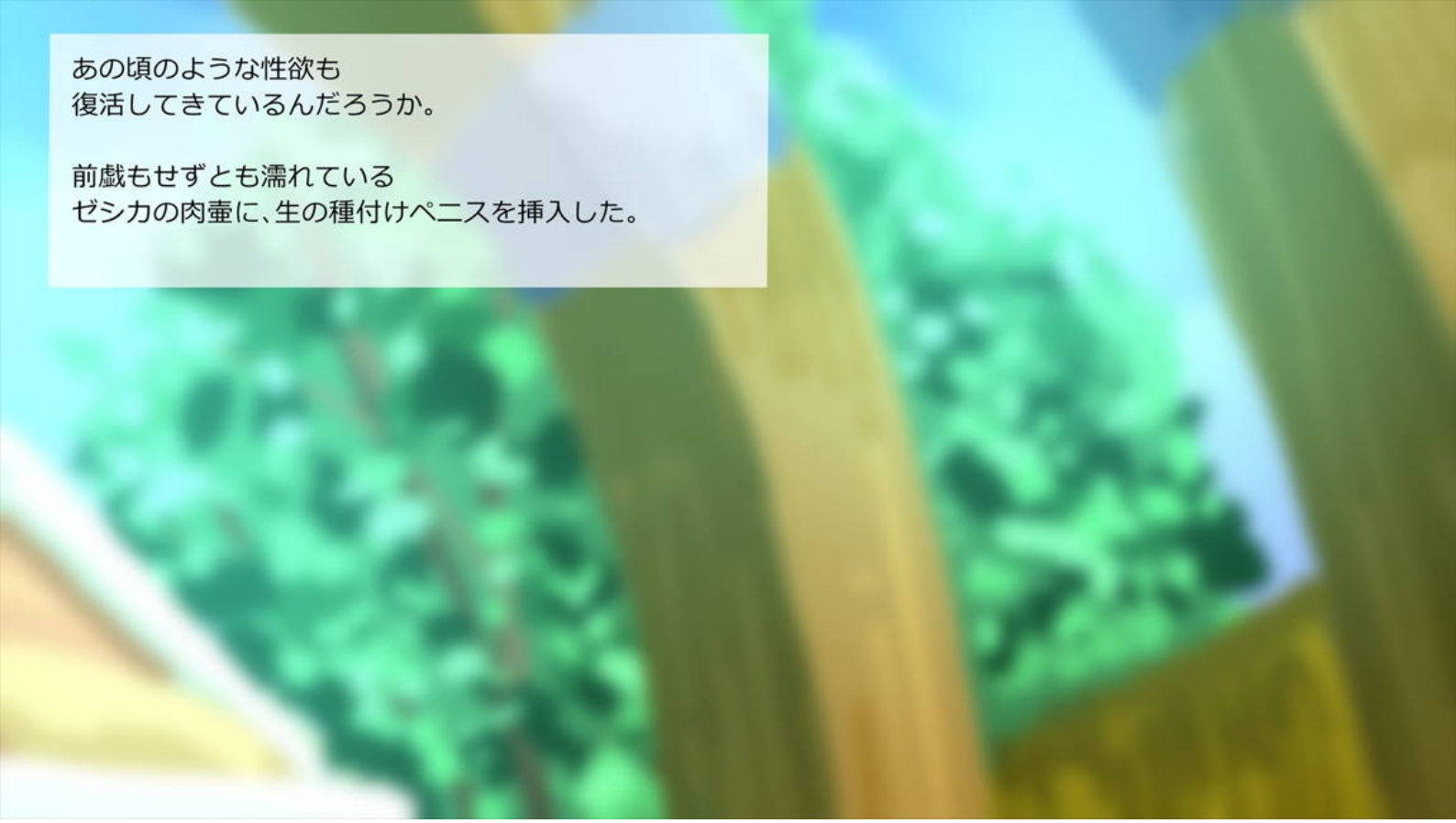
「ただあんたの事は男として見てないし
ただ都合よく利用しているだけよ
生物学的な行為として…受精させてもらうだけだから」

「ゼシカ様…なんだか余計エロいんですが…」
「うるさい！1年我慢してるやつ、
ちゃんと力を発揮するのよ」
精子にまで活を入れられてしまった。
これは頑張らないわけにはいかぬ。
明日が楽しみで寝られない…！

翌日。俺とゼシカは村の宿へ向かった。
そして到着するなり、裸になる。

ゼシカは1年ぶりにリングの魔法を解く。
勃起するペニス。

俺に愛情がないとは言え、
１年ぶりの交尾に興奮しているのか
ゼシカの体も火照っている。



あの頃のような性欲も
復活してきているんだろうか。

前戯もせずとも濡れている
ゼシカの肉壷に、生の種付けペニスを挿入した。

危険日１日目、すでに数時間も
交尾を続けている二人。
「はあぁあもう出るっ…出ますよぉ
ゼシカ様…！！孕ませますよぉ！
妊娠して下さいよぉ！」
「いいわ危険日の間だけだからね…♡
出しなさいよ…♡」
「あぁゼシカ様に１年ぶりに種付けします…！
出るっ！出ます！おぉおおぉ！
ピタン！
ピタン！
フニッ♡
フニッ♡
ブピッ！
ゲボッ！
ゲボッ！
ブボッ♡
孕んで下さいゼシカ様！！1年ぶりの！
特濃精液でっ！あぁあああ！」
「出しなさいっ…♡あっ♡あ！
あぁあああーっ！！！♡」
出し…あぁあ〜〜っ!!

ゼシカの子宮に、3人目を孕ますべく
精液が大量に送り込まれる。
どぼぉっ!!
ごぽぉっ♡
「おぉおおはあぁああっ！♡あぁあ！
気持ちいいっ！全部出るっ！
ゼシカ様の子宮に全部っ！
1年分のぉおおっ！あぁあああ！♡」
「んおぉおおぉおっ…♡すごっ…
こんな…熱くて…たくさん…♡」
どぼぼぼぼっ♡
びくびくっ!
「もっと！もっと出ますよ！1年分は
まだまだこんなもんじゃないです！
もっと送り込みますから！！♡」
「ああぁああ♡すごいっ‥
どんどん熱いのが…！
くるっ…♡嘘でしょっ…!?」
あぁあぁあ♡熱っぅぅぅ♡
プピュッ♡
「これから5日間滅茶苦茶
種付けしますからねっ！！」

危険日３日目。あれからずっと
繋がり合っている二人。
「はあ…はあ…出しますよゼシカ様…
また…孕ませますよ…精液…」
「あんたほんとに…魔物並の体力よね…
はあ…♡はあ♡魔物より凄いかも
しんない…！あぁあんっ♡」
「ゼシカ様に種付けできるんだったら
何日でもやりますよ！このために
１年間我慢してたんですから！
フニュッ♡
フニュ♡
ムニュ♡
ドチュッ！
ドチュッ！
ドチュッ！
また…出ますよ…孕ませますよ！
ゼシカ様っ…！おぉおおおっ！!!」
「あぁああ♡すごっ♡気持ちいいっ♡もうっ♡
妊娠しちゃうっ♡こんなすごいの…
絶対妊娠しちゃうぅう♡」
あぁあああ～♡ 妊娠しちゃうううう！♡
ブプッ…
ブプッ♡

「おほっ♡おぉおぉお♡はあぁうぅう♡
中に…すごくっ♡あぁあ！♡」
「おっあぁあああ♡ゼシカ様！ゼシカ様！
気持ちいい！何回出しても気持ちいい！！♡」
「はううっ♡もうっ…イキすぎてっ…♡
あぁぁあ♡気持ちよすぎてぇ♡」
ビュボッ♡
ビュボボボッ♡
ビグビグ！
ドプドプ！
「妊娠して下さいっ！
今もう受精してるかもっ！
ゼシカ様と僕の…！！
まだまだ出し足りないですっ！」
おぉぉっ♡
おぉっ♡ほぉぉぉっ♡
「はうぅうう♡ああっ♡あ♡あ♡
やばい…こんなのやばすぎりゅ…♡」
ドポドポ♡

危険日5日目。
「もうっ…もういいでしょ…もう…
妊娠するっ…妊娠してるからぁ…♡
5日は長すぎたぁ…♡もうセックスするの無理ぃい…」
「ゼシカ様ぁ…まだです…最後に一発…」

「こんな…何十回も出されたら…確実に
妊娠してるわよぉ…♡もうっ…
こっちも…気持ちよすぎて…おかしく
なってるから…もうやめ…っ♡」

「ゼシカ様っ…これで最後です…！
確実に妊娠して下さい！絶対に孕んで！
ゼシカ様！ゼシカ様！あぁあああ！」

「ひぃいいいっ♡あぁあああ！♡気持ちいいっ！
気持ちいいいぃっ♡あぁああ！
妊娠っ…妊娠っ♡あぁあああああ！♡」

「おおぉおっ！おうぅうっ！
おっ！おぉおお！」
「ひあぁあああ♡あうふっ！
あぁああっ！おぼっ！
んおぉおお♡あぁああ♡」
ビュボボッ！
ビュボッ！ビュ
どぼぼっ♡
どぶぶっ！
ビュボボッ！♡
「ゼシカ様っ…おぉ…
ゼシカ様にこんなに
中出しできるなんてっ…！
あぁああ！」
「ひうっ♡うぅ♡はうぅう♡
あっ！あ！あはあぁああ♡」
ビュッ♡
あっ！ひぁ
あぁ～っ♡
あぁあ～っ♡
孕んじゃうぅぅぅ!!♡

「ぜ…ゼシカ様ぁ…最高でしたぁ…」
「はあ…はあ…はあ…あんたヤバすぎ…
わかってはいたけど…どんな魔物よりもヤバいわよ…」

５日間で６0回以上種付けしただろうか。
交尾以外のなにものでもない行為。
二人は交尾を終えて泥のように眠ってしまった。

５日間の危険日種付けの結果、
当然のようにゼシカは第３子を妊娠。

そしてここに来て、なんとリングの魔法が解除された。
「ぜ…ゼシカ様…いいんですか！？」
「オナニーくらい自由にさせてあげようと思ってね」

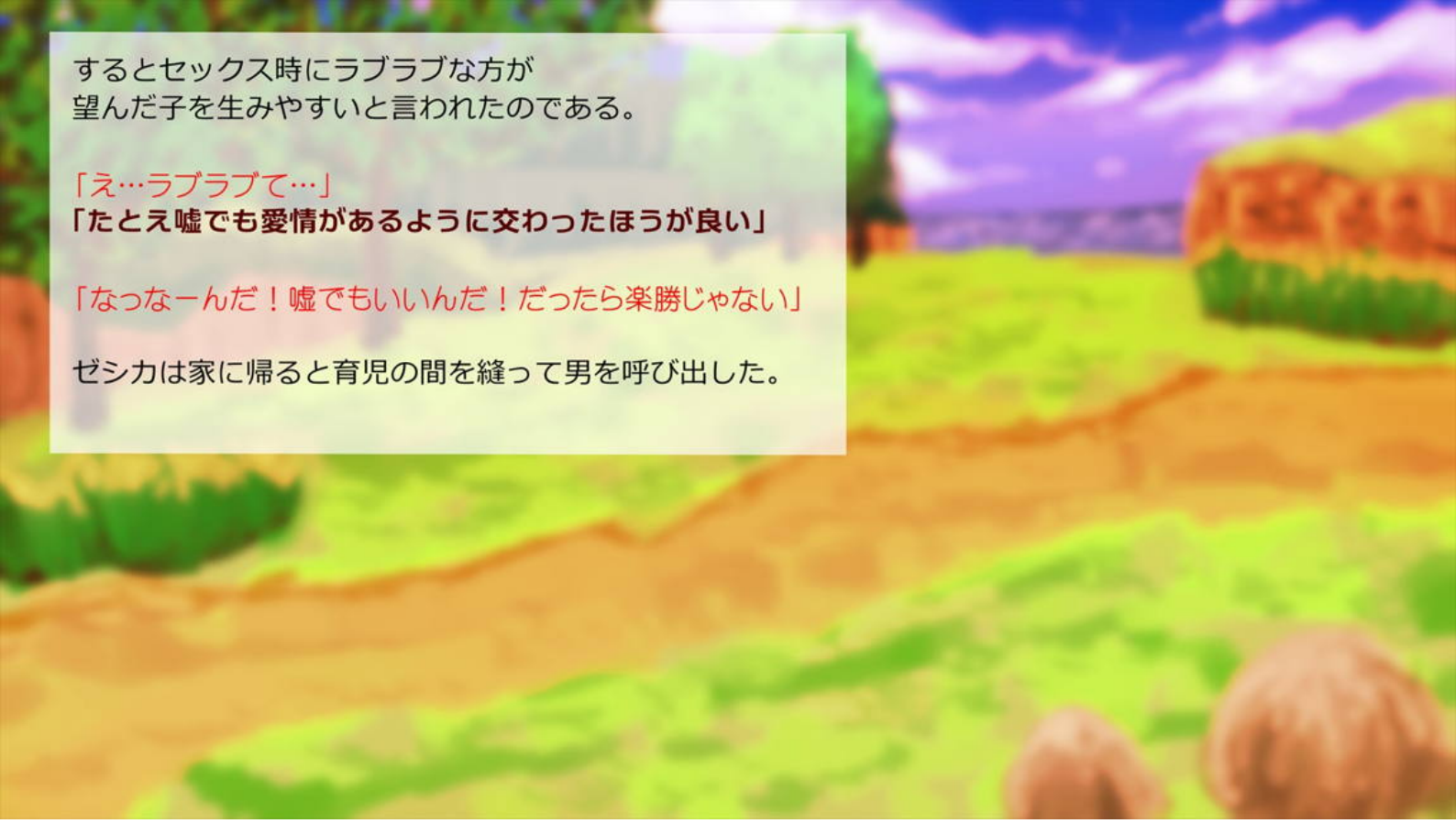
俺はオナニーできる喜びに震えた。だが。

「でもセックスはしないわよ
恋人でも夫婦でもないんだから」
「は…はあ…ゼシカ様…」

お仕置きこそ終わったものの、
ゼシカの心の扉を開けるのはまるで容易じゃない。

もう無理なのかもしれない。3人も子供が居るのに…！
俺はオナニーしながらも寂しい気持ちになった…。

そしてゼシカは第３子を出産。
今回も女児。それはそれでめでたい事だが…。
やはり家のことや母のことを考えても男児が
望ましい、それに自分としても男の子を生みたいと
思い始めていたゼシカは占い師に診てもらうことに。

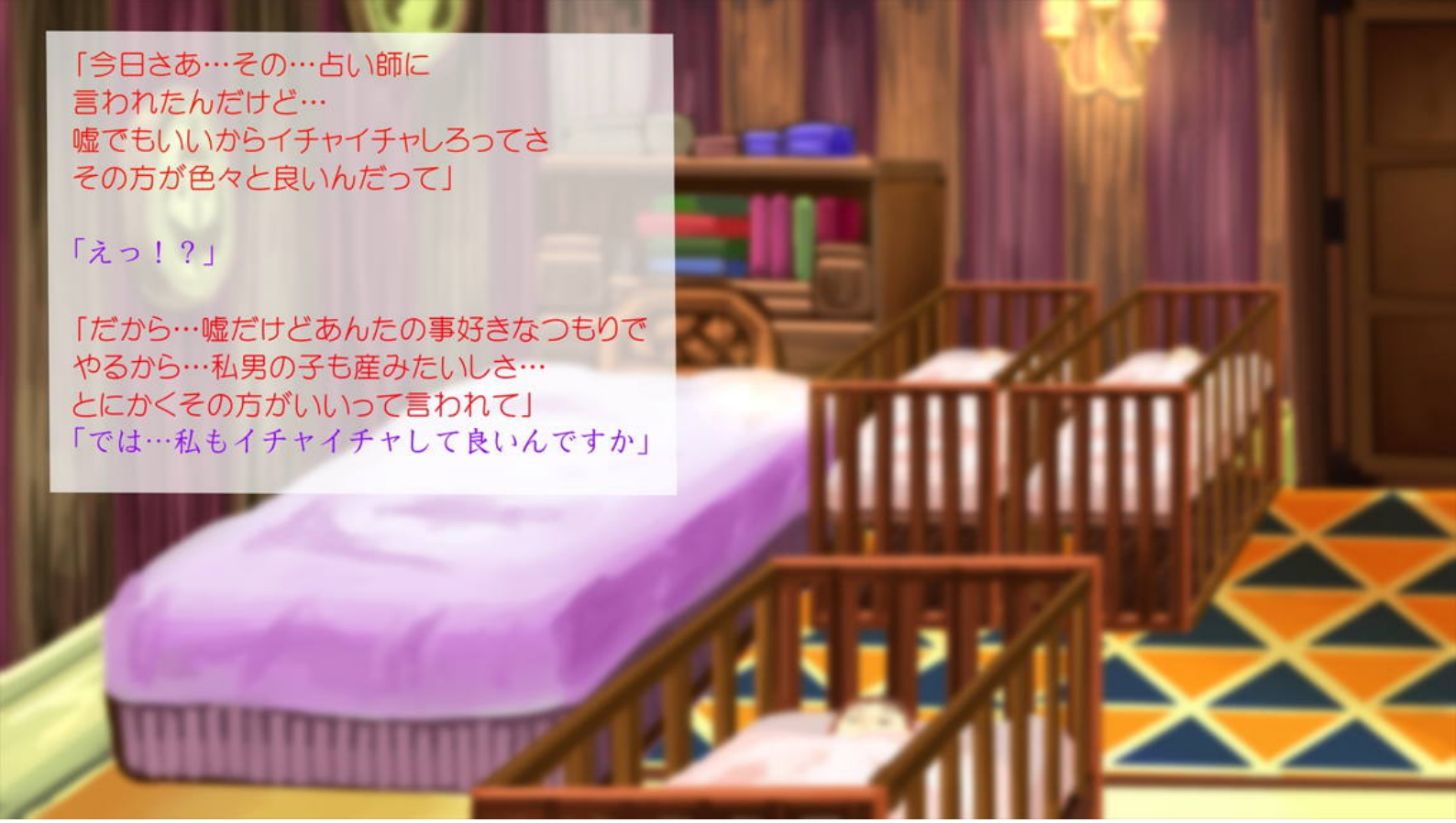


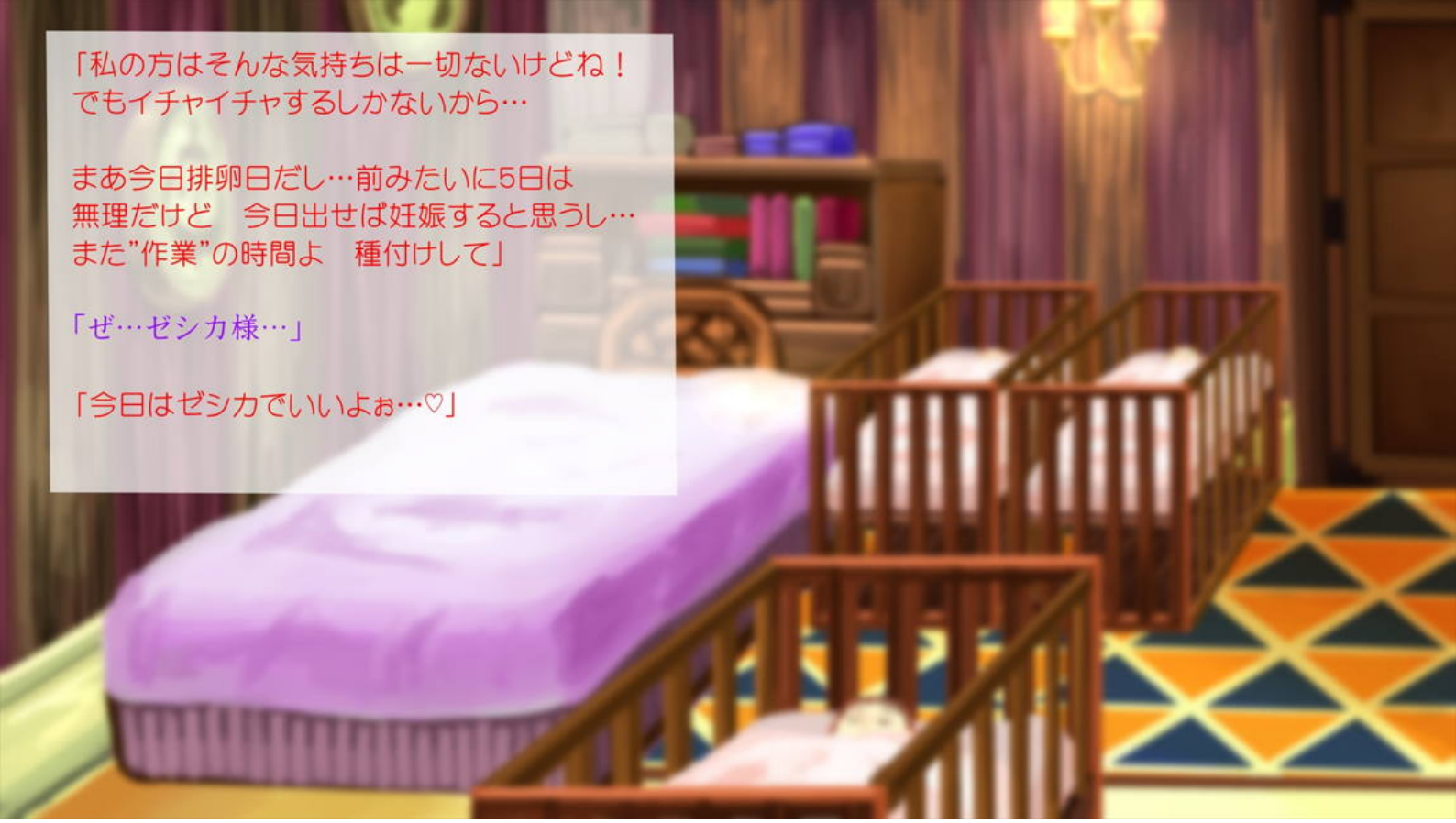
するとセックス時にラブラブな方が
望んだ子を生みやすいと言われたのである。

「え…ラブラブで…」
「たとえ嘘でも愛情があるように交わったほうが良い」

「なっなーんだ！嘘でもいいんだ！だったら楽勝じゃない」

ゼシカは家に帰ると育児の間を縫って男を呼び出した。


「今日さあ…その…占い師に
言われたんだけど…
嘘でもいいからイチャイチャしろってさ
その方が色々と良いんだって」
「えっ！？」
「だから…嘘だけどあんたの事好きなつもりで
やるから…私男の子も産みたいしさ…
とにかくその方がいいって言われて」
「では…私もイチャイチャして良いんですか」

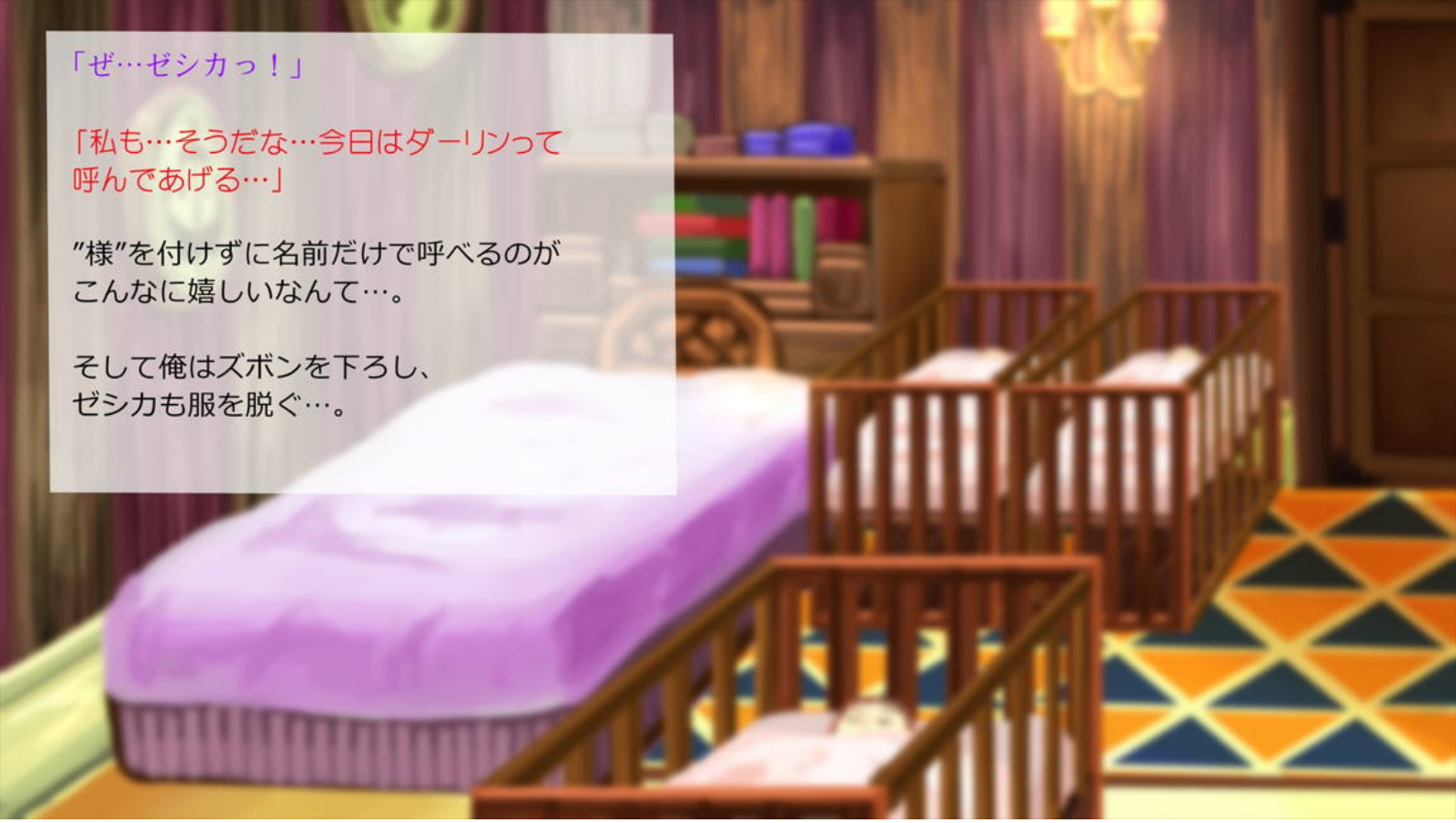


「私の方はそんな気持ちは一切ないけどね！
でもイチャイチャするしかないから…

まあ今日排卵日だし…前みたいに5日は
無理だけど　今日出せば妊娠すると思うし…
また”作業”の時間よ　種付けして」

「ぜ…ゼシカ様…」

「今日はゼシカでいいよぉ…♡」



「ぜ…ゼシカっ！」

「私も…そうだな…今日はダーリンって
呼んであげる…」

”様”を付けずに名前だけで呼べるのが
こんなに嬉しいなんて…。

そして俺はズボンを下ろし、
ゼシカも服を脱ぐ…。

「はあ…あ…ゼシカのおまんこ
気持ちいいよぉ…セックス気持ちいいよ！」
「ダーリンのおちんぽもすごいよぉ…♡」
「ゼシカっ…好きだ…ずっと…
ずっと好きなんだ…ずっと前から…！」
ダーリンっ♡
ズププ…♡
くちゅっ♡
ぬちゃ♡
ジュプッ♡
フニッ…♡
スリ♡
スリ♡
スリ♡
「んんっ♡わ…私も好き…かも？ダーリン…♡
その…ら…ラブラブしようね…」
「あぁ…ゼシカが…ゼシカが
受け入れてくれてる…」

ゼシカの頬すりすりが最高に気持ち良い。
「お…おぉお…こんなのは今までになかった…！
柔らかくてあったかい…」
「い…イチャイチャしよ…♡」
ぎこちないながらも密着してくれるゼシカ。
絶頂時以外でゼシカから密着してくれることは
まで無かった。故に、今の密着が単純にすごく嬉しい。
イチャイチャしよぉっ♡
ダーリンっ♡
スリスリ♡
スーリ
スリ
スリ♡
ダプッ♡
ダプ♡
ギュブ♡
ギュボッ♡
ゆしっ♡
ゆしっ♡
「ゼシカ…ゼシカとちゃんと
抱き合ってるぅ…！あぁ♡」
もちろんまんこでも激しく抽送を繰り返す。
「んあぁっ♡あぁ♡気持ちいっ♡
あぁあっダーリンっ…♡」

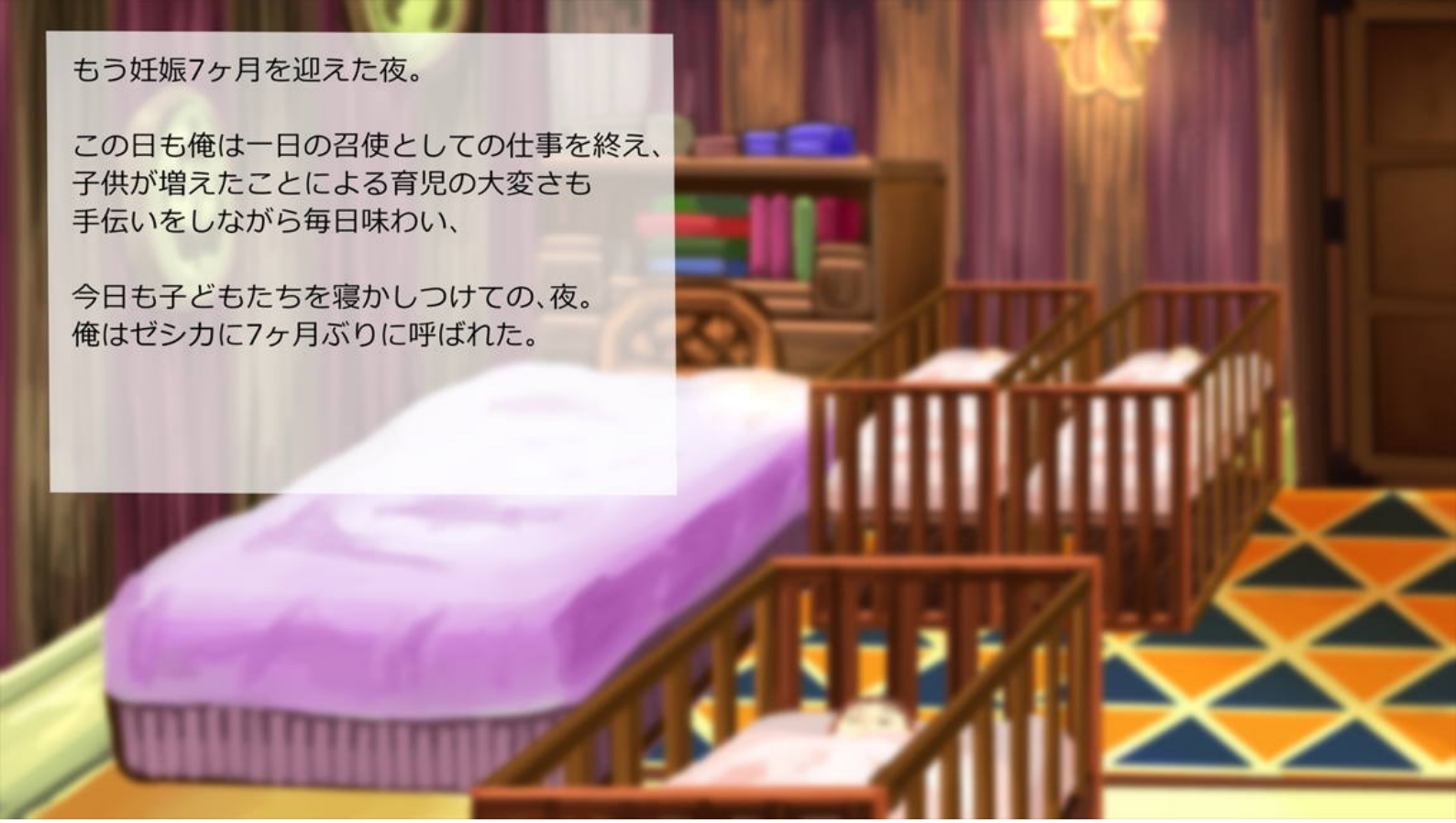
3時間後。たっぷり愛撫、
抽送していよいよ種付け射精。
「ダーリンいっぱい注いでぇ…種付けしてぇ…♡」
もともと色気のあるゼシカの色気が
こちらに向いた時の破壊力はとんでもなかった。
ドスッ！ドスッ！
ドスッ！ドスッ！
「ぜっ…ゼシカぁ…出るよぉ…大好きな
ゼシカの子宮に…いっぱい出すよぉ…！！！
あっあっ♡あっ！あっ！！」
「いいよぉダーリン…っ♡出してっ…
一緒に赤ちゃんつくろう♡」
「ゼシカっ…妊娠してっ！孕んで！
俺の赤ちゃん産んでくれっ♡あぁあぁあぁっ！」
「はあぁあうっ♡いっぱい出してぇえ♡
妊娠するっ♡からああっ♡あぁああ♡」
はあああ♡
ダーリンっ♡
いっぱい出してぇ♡
妊娠するからあぁあ♡
ぐちゅっ！ぐちゅっ！
ぱちゅっ！ぱちゅっ！

「おぉおおぉぉっ♡ゼシカっ♡
ゼシカの中にいっぱいっ！
あはぁぁあぁぁあっ♡」
「あうぅうぅうぅっ♡あっ♡あぁ♡
気持ちいいっ♡はああぁっ♡
ダーリンっ♡あぁ♡気持ちいいっ♡」
はっ♡あぁあぁ～っ♡
熱っ♡ぶしぶ♡
精子♡
いっぱい
中にぃ♡
どぼぼっ!!
ビュボボッ!!
ブボボボッ!!
「妊娠してくれぇゼシカっ！
また妊娠してくれ！」
「はうぅうっ♡もっと出してぇ…♡」

「おぉおっ♡好きだっ…好きだゼシカ…！
まだ出るっ…！妊娠するまで出るっ♡」
「熱いのがいっぱいくるよぉ…♡はうぅう♡
もっと甘えて良いんだよぉ♡」
あぁぁぁぁ♡
妊娠するぅぅ
ダメぇ♡
どぼどぼ
どぼどぼっ♡
ゴプゴプ
ゴポポッ♡
「ゼシカっ♡あぁぁあ♡気持ちいいっ♡
受精っ！受精してくれぇえ…あぁぁあ♡」
「もっと♡もっと出してぇっ♡
あぁぁあ♡妊娠するからぁ♡」

射精が終わったあとも、
イチャイチャと密着してくるゼシカ。
今まではこんなことは一切なかった。
事後までこんなにラブラブなんて…。
たとえ嘘でも興奮し感動する。
「はあ…はあ…いっぱい
精子入ってる…♡
…もっと…もっとしよ…♡」
ドプ
ドプ…♡
ビュ♡
ゴビュ…♡
ぬちっ♡
ぐちっ♡
もっとセックスしよぉ♡
いっぱい出してダーリン♡
すりすりすりすりすり♡
「ゼシカ…今日はずっとセックスできる…？」
「そうだよぉ…いっぱい…いっぱい出してダーリン…♡」
俺はまったく勃起が衰えず、
すぐに腰を振り始めた。

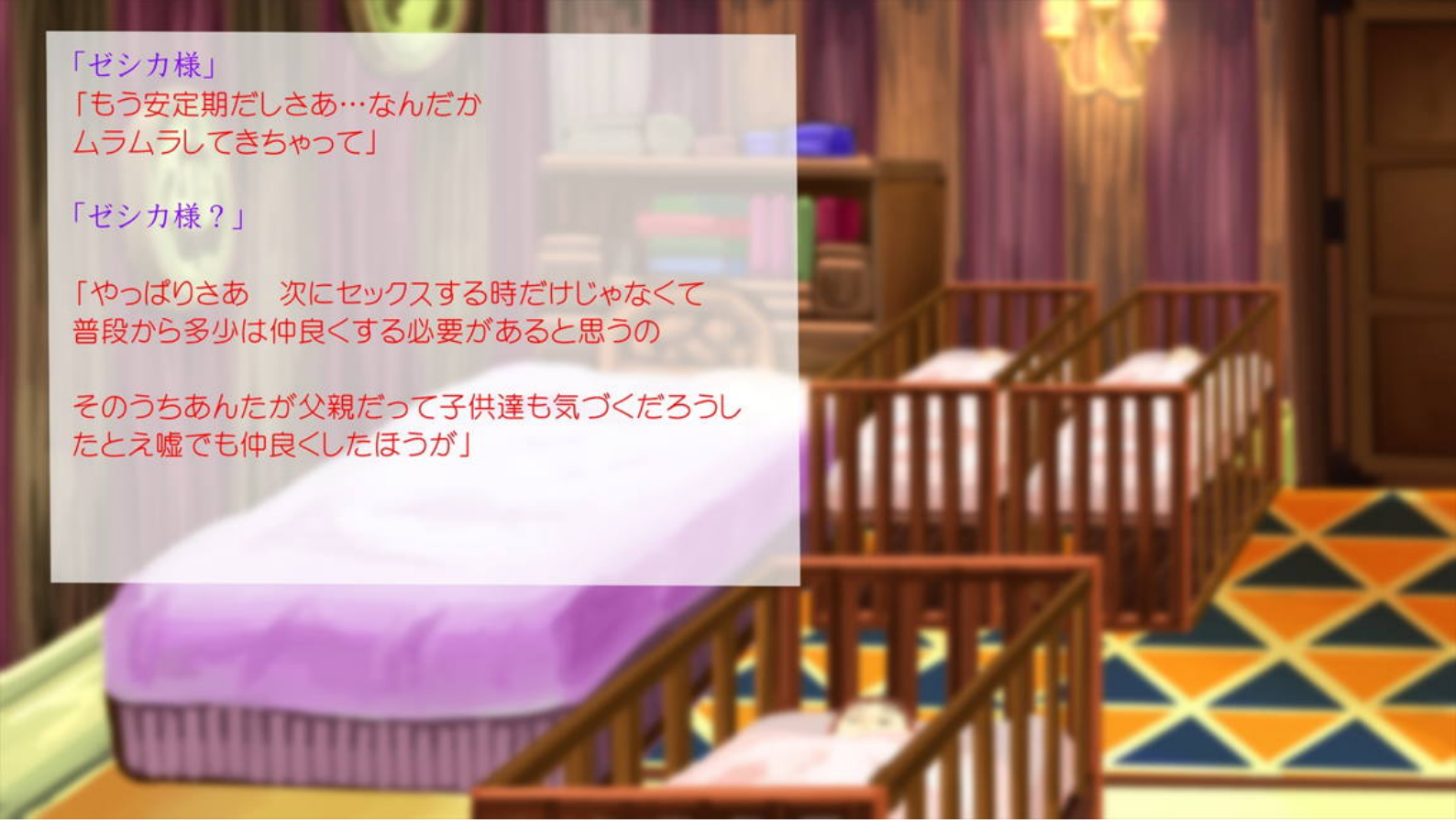
そしてゼシカは第４子を妊娠する。
男はオナニーこそ出来るがゼシカと
まだ安定期後もセックスできて
いないが…。



もう妊娠7ヶ月を迎えた夜。

この日も俺は一日の召使としての仕事を終え、
子供が増えたことによる育児の大変さも
手伝いをしながら毎日味わい、

今日も子どもたちを寝かしつけての、夜。
俺はゼシカに7ヶ月ぶりに呼ばれた。

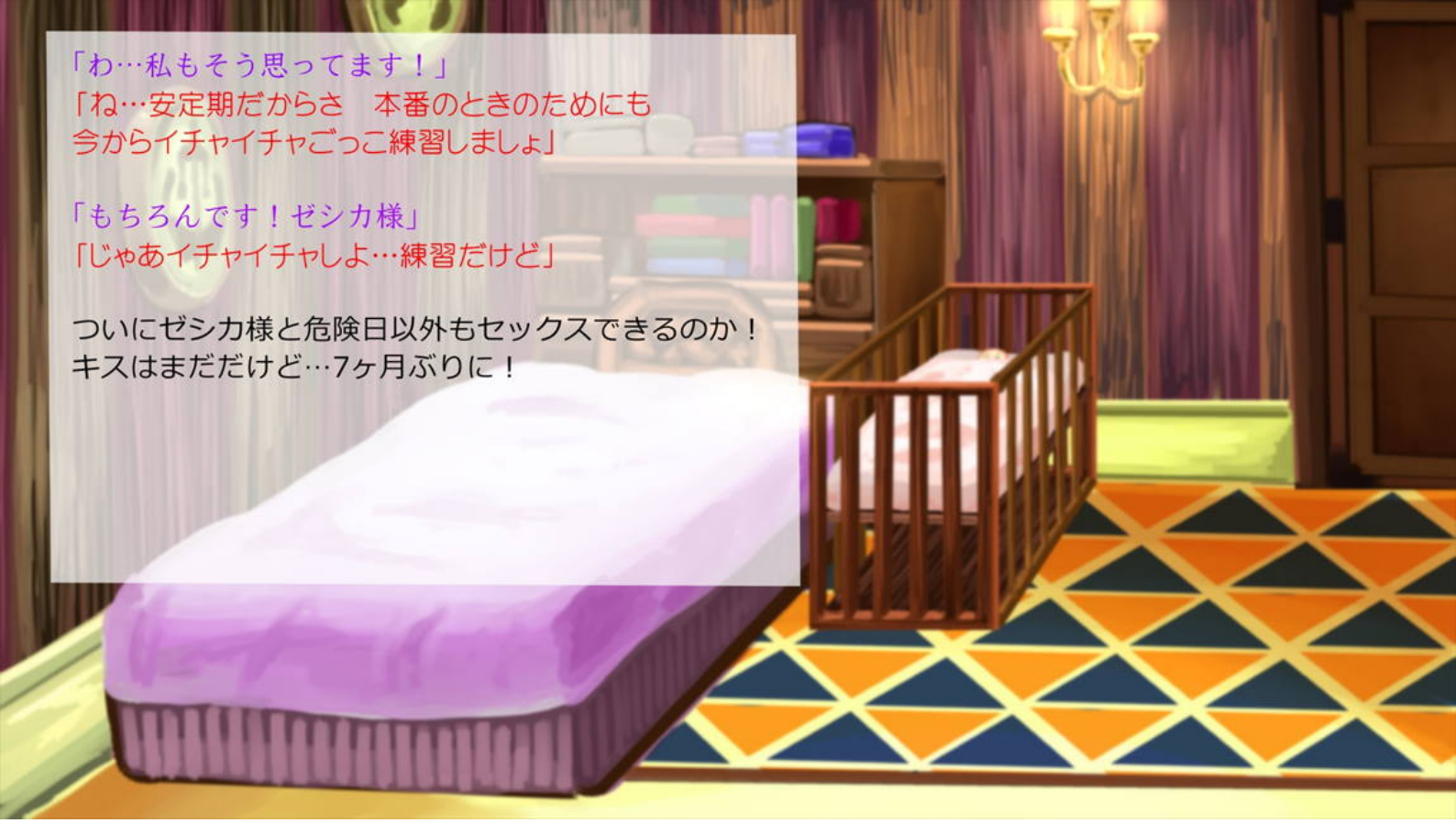


「ゼシカ様」
「もう安定期だしさあ…なんだか
ムラムラしてきちゃって」

「ゼシカ様？」

「やっぱりさあ　次にセックスする時だけじゃなくて
普段から多少は仲良くする必要があると思うの

そのうちあんたが父親だって子供達も気づくだろうし
たとえ嘘でも仲良くしたほうが」


「わ…私もそう思ってます！」
「ね…安定期だからさ　本番のときのためにも
今からイチャイチャごっこ練習しましょ」
「もちろんです！ゼシカ様」
「じゃあイチャイチャしよ…練習だけど」
ついにゼシカ様と危険日以外もセックスできるのか！
キスはまだだけど…7ヶ月ぶりに！

「はあっはあっ♡この中に…二人の子供が…入ってるんだね…ゼシカ♡」
「んっ…そうよぉ…あんたが…孕ませてくれたから…」
「んんっん〜♡好きだよぉゼシカ…♡」
おっぱい飲む？
はぁ♡
はぁ♡
ゆさ…♡
ゆさ…♡
ゆさ…♡
ジュブ♡
ヌルッ♡
ヌブッ♡
「ん♡私もあんたのこと…好きだよぉ…♡おっぱい飲む？」
「えっ!?いいの!?」
ついに母乳が解禁された！

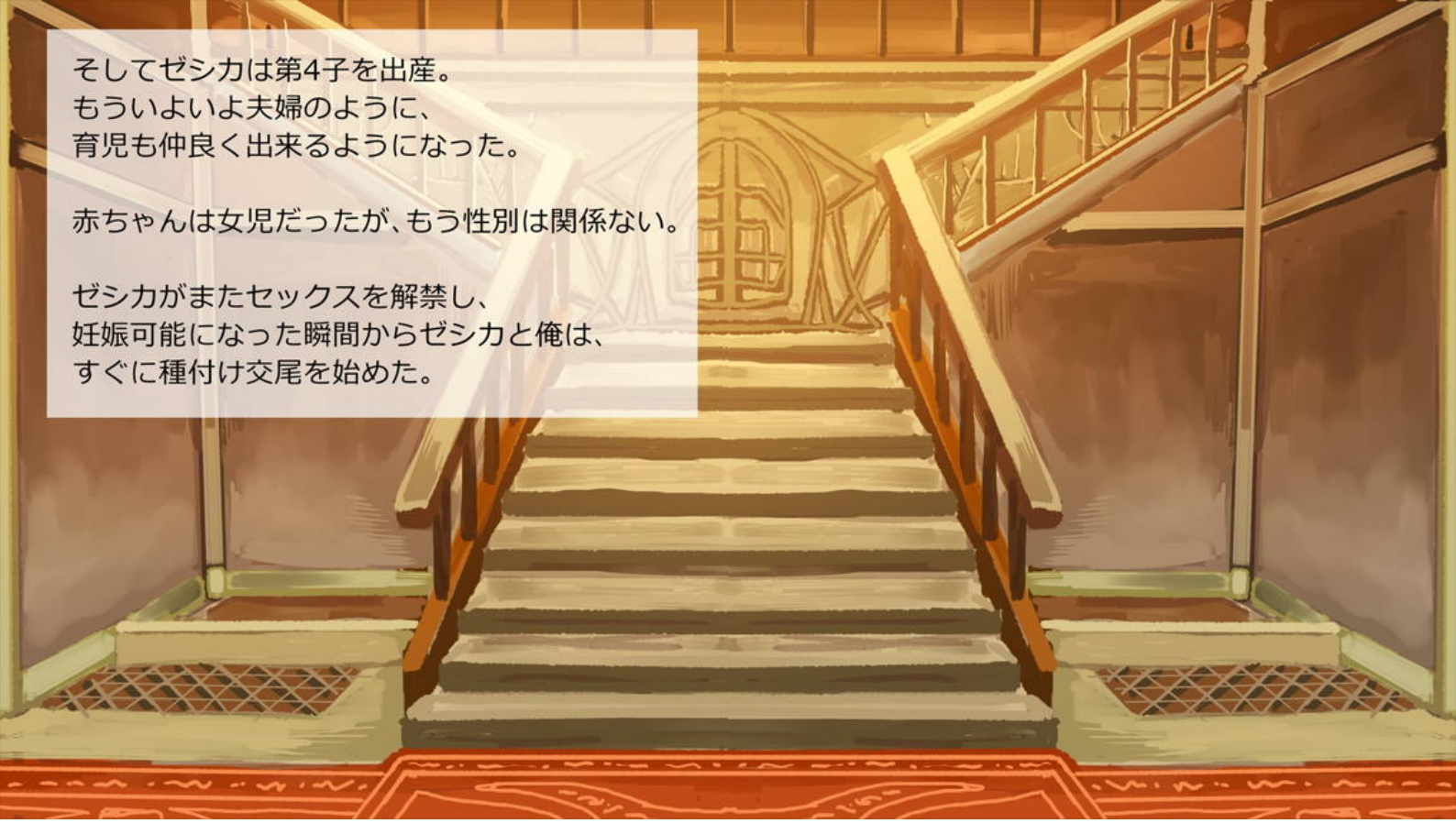
「うぉおぉおおおっ！おっぱい！
おっぱい！母乳っ！
妊娠ミルクっ！！はあっ♡
ゼシカっ♡ゼシカの
おっぱい美味いよお！」
ついに飲むことのできた
ゼシカの母乳に俺は感動しきり。
「ゼシカっこの子産んだら
また種付けしようなあ♡
男の子でも女の子でもっ」
「いいよぉ♡また種付けして
お腹膨らませてぇ♡」
あぁ♡おっぱい
おいしい…？
あ〜♡
おちんぽ
硬くなってる♡
ズルウウウ♡
ギュポッ♡
ギュポッ♡
ギュブ♡
レロレロ
ベロ
「まちきれないよっ♡んぐっ♡
ゼシカと交尾するのがぁ♡」
「はあぁあ♡んっ♡私もまた孕ませてほしいぃ♡」
「あっ！母乳うまっ！甘っ！
これでもう3人も育ててるなんて…！
うちの子たちは幸せだなあ！」

「あぁゼシカは全部最高だよ！
あぁもう射精しそう‥！
ゼシカぁ…出すよぉ…
出すよゼシカ…！」
あぁあぁあぁ〜〜♡
いっぱい精子
出してぇ〜〜♡
ドチュッ！
ドチュッ！
ドチュッ!!
「んうぅう♡出してぇ♡
いっぱいエッチなの出してぇ♡」
ちゅ〜〜っ♡
ちゅっ♡
んぐっ♡
んぐっ♡
ドチュッ！
ごくっ
ごくっ
ごくっ♡
「あぁおっぱい甘いっ♡あぁぁっ
出るよぉゼシカ♡
ゼシカぁ！あぁぁぁぁ！」
「あぁあはあ♡私もなんか出ちゃうっ♡
いっぱい出ちゃうううぅうう♡」

「あぁあああぁあ♡あぁああーっ♡」
「はあぁあああ♡おぉおお♡
おっおっ♡おっぱい！
ゼシカのおっぱい！！」
「はああ♡
いっぱい出てるぅううう♡」
あぁああ～！
精子っ♡
はぁあぁあぁ～！
ドボッ♡
ドブッ♡
ボビュ♡
ビュッ♡
ブシュ♡
「ゼシカっ！おぉおおおお…
気持ちいいいっ…！！」
「いっぱい出てるぅううう♡
あぁ♡気持ちいいっ♡
精液出てるの♡
気持ちいいよぉおお♡」
んぐっ
んぐっ♡
ゴク
ゴク
ゴク♡

「んぐっ！んぐっはぁあっ♡
あぁんんっ♡んっ♡」
「んうっ♡はやく次の子
種付けしような♡」
また
種付けしてえ♡
ビク♡ビク♡
ガラ ガラ…♡
たぷっ…♡
「あぁんん♡はやくまた赤ちゃん
産みたい…♡種付けしてぇ♡」
「ゼシカっ好きだよぉ…♡」
「私も…好きだよぉダーリン♡」

このセックスを期に、少しずつ嘘の恋愛から
徐々にゼシカも雪解けするように
男に心を許すようになっていった…。
セックスは少しずつ解禁され、
出産の前日も二人は結合した。



そしてゼシカは第4子を出産。
もういよいよ夫婦のように、
育児も仲良く出来るようになった。

赤ちゃんは女児だったが、もう性別は関係ない。

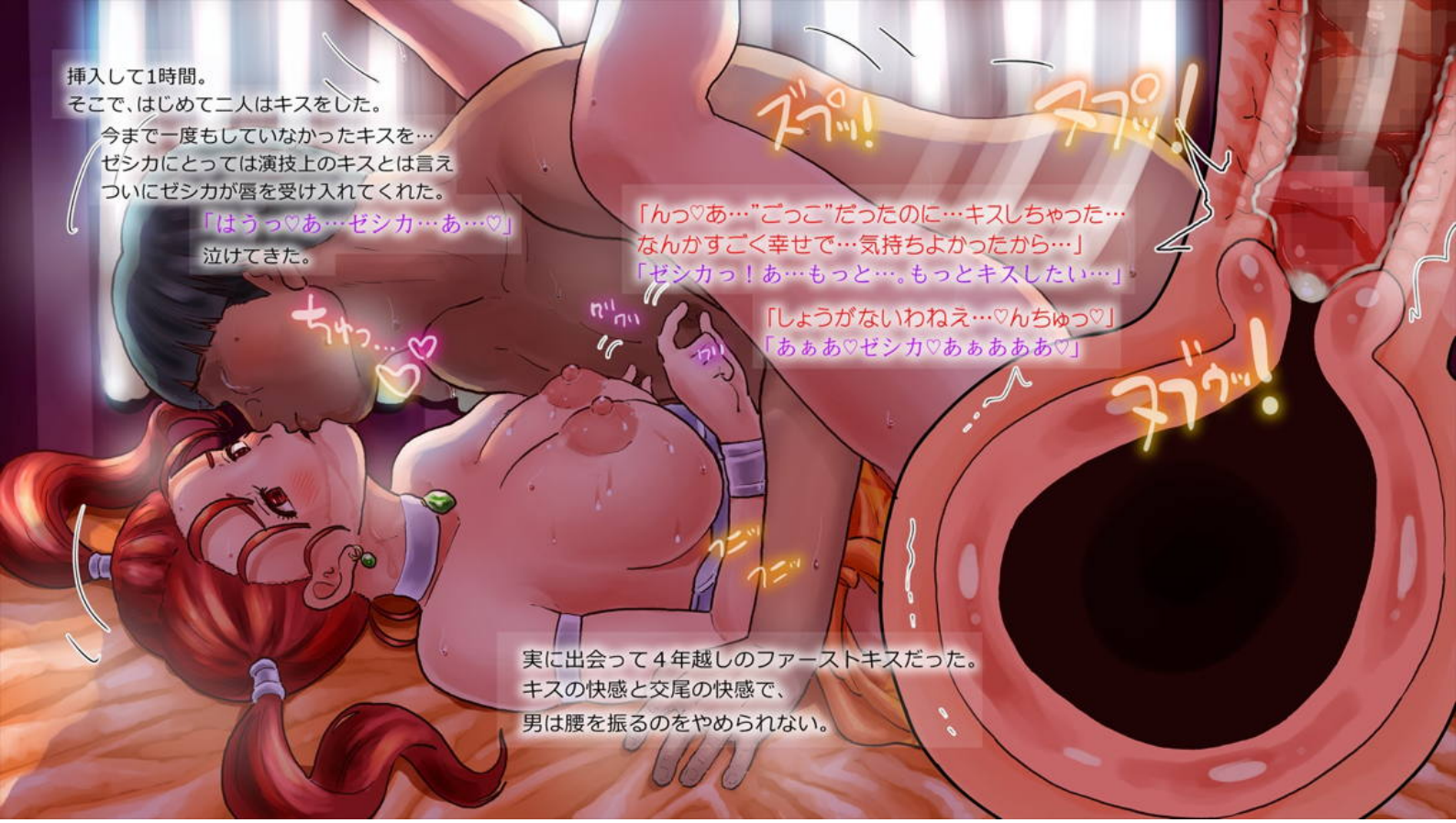
ゼシカがまたセックスを解禁し、
妊娠可能になった瞬間からゼシカと俺は、
すぐに種付け交尾を始めた。

5人目の種付け。

いちゃいちゃごっこも
もうゼシカは半分以上、

"ごっこ"じゃなくて自分の気持ちも
混じってきている。

誰も居ない部屋で、排卵日に思う存分種付けする…。


挿入して1時間。
そこで、はじめて二人はキスをした。
今まで一度もしていなかったキスを…
ゼシカにとっては演技上のキスとは言え
ついにゼシカが唇を受け入れてくれた。
「はうっ♡あ…ゼシカ…あ…♡」
泣けてきた。
ちゅっ…♡
ズプッ!
ズプッ!
「んっ♡あ…"ごっこ"だったのに…キスしちゃった…
なんかすごく幸せで…気持ちよかったから…」
「ゼシカっ！あ…もっと…。もっとキスしたい…」
「しょうがないわねえ…♡んちゅっ♡」
「あぁあ♡ゼシカ♡あぁあああ♡」
ヌブゥッ!
実に出会って４年越しのファーストキスだった。
キスの快感と交尾の快感で、
男は腰を振るのをやめられない。

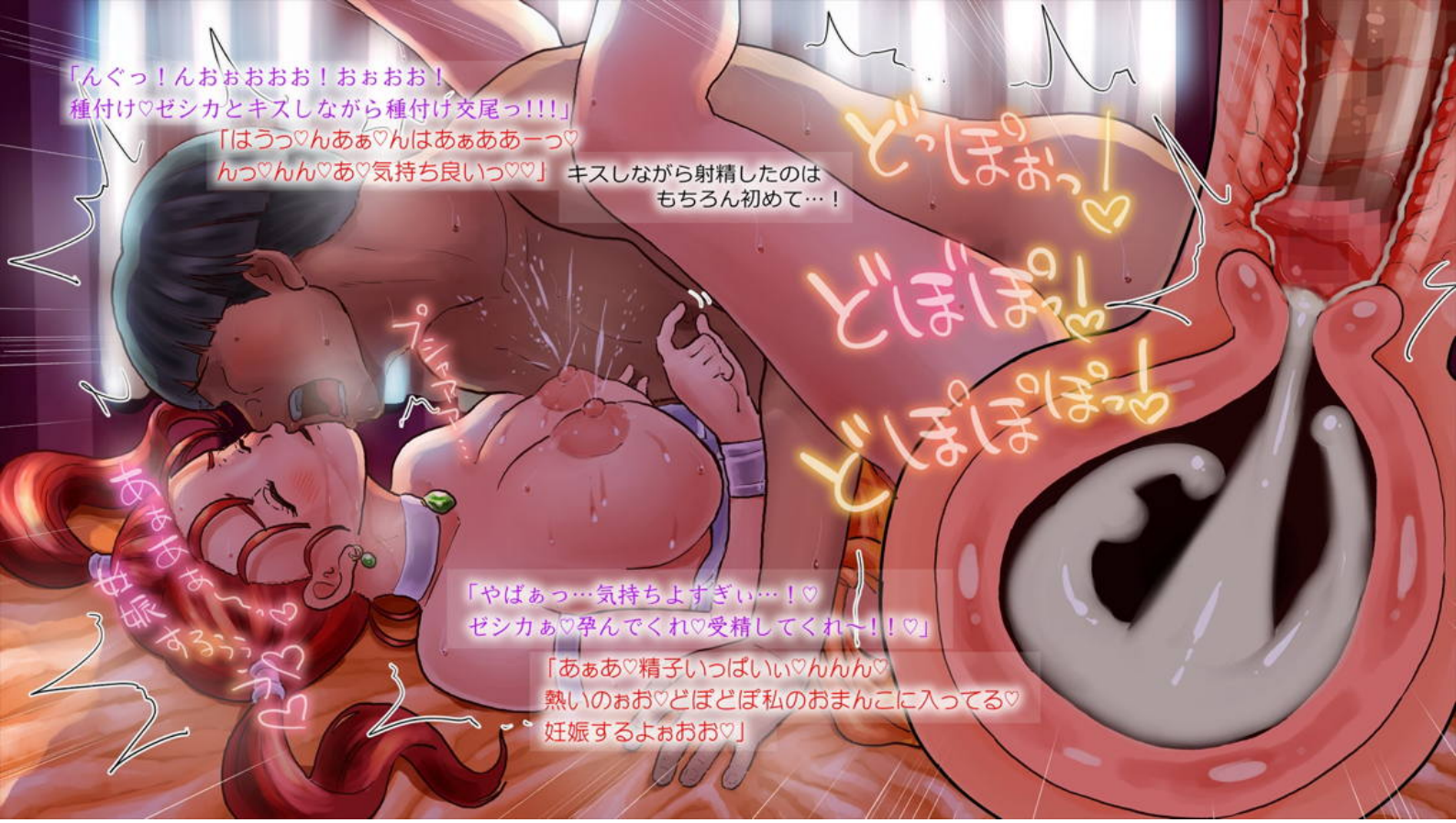
「ちゅっ…あぁ…キス気持ちいいかも…
孕ませてぇ♡ダーリン♡ちゅっちゅ」
「おぉおおたまらん！こんなの我慢
する方が無理！しかも種付け！」
ゼシカは男の乳首をいじりながら母乳を流し、
まんこを締めてキスをする。

ドスッ！ドスッ！ドチュッ！

「乳首いじりも最高だよぉ！
出る！出るよぉゼシカ！キスしながら
1ヶ月分の精子で種付けするよぉゼシカ！第5子っ！」

ドチュッ!!

「種付けしてぇ♡ダーリンの精子でぇ…♡
排卵してるから♡精子受け入れるから
1ヶ月分の精液いっぱいまんこに出してぇ♡」
「おぉお！ゼシカっ！おぉおおおおお！」


「んぐっ！んおぉおおお！おぉおお！
種付け♡ゼシカとキスしながら種付け交尾っ!!!」
「はうっ♡んあぁ♡んはあぁああーっ♡
んっ♡んん♡あ♡気持ち良いっ♡♡」
キスしながら射精したのは
もちろん初めて…！
どっぽぉっ♡
どぽぽっ♡
どぽぽぽっ♡
「やばぁっ…気持ちよすぎぃ…！♡
ゼシカぁ♡孕んでくれ♡受精してくれ〜！！♡」
「あぁあ♡精子いっぱいぃ♡んんん♡
熱いのぉお♡どぽどぽ私のおまんこに入ってる♡
妊娠するよぉおお♡」

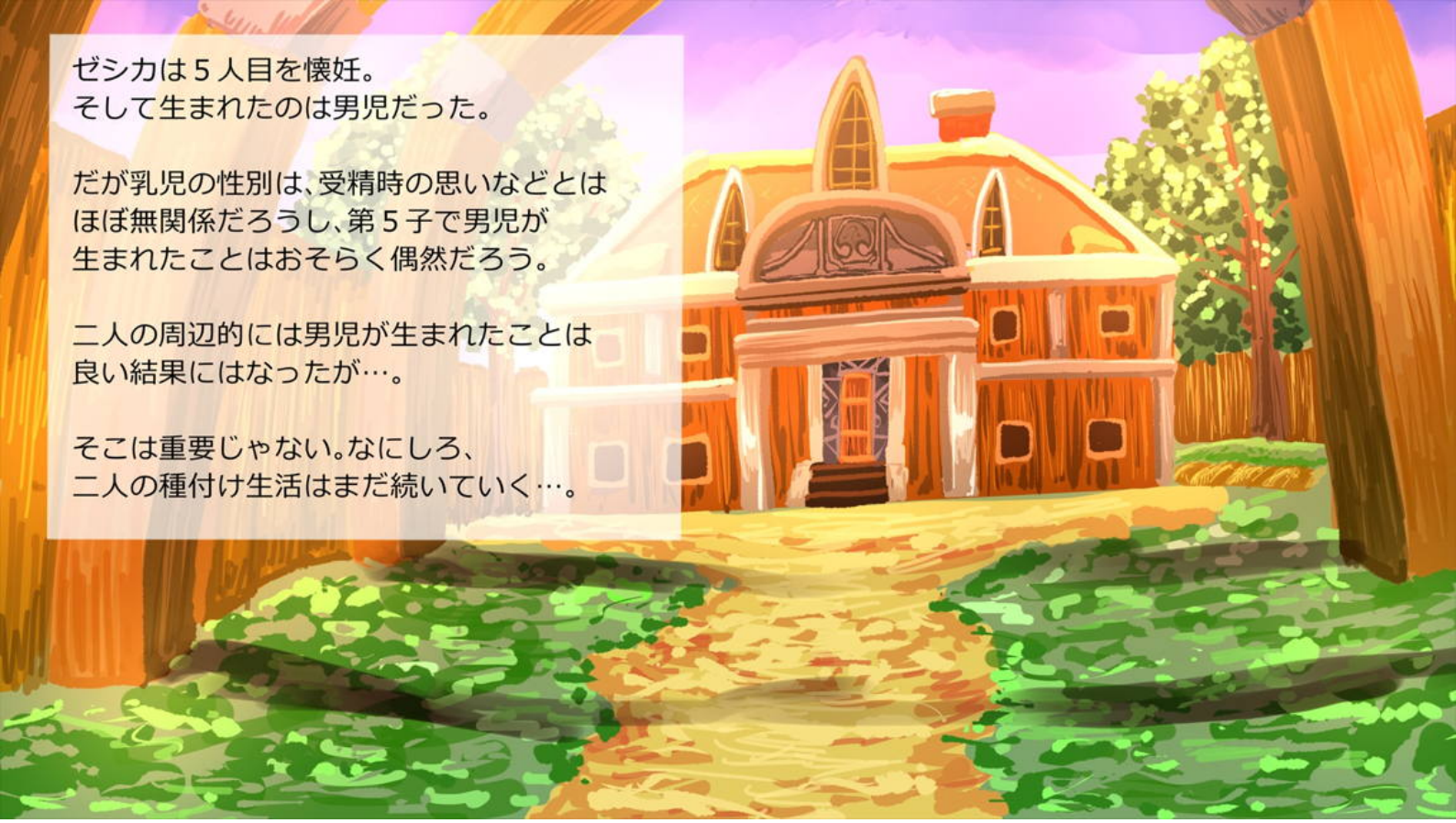
「おぉ…出る…まだ出る！溜めたの全部出る！
ゼシカを何回も孕ませたいっ！」
「出してぇ…♡精子全部出して孕ませてぇ♡
おまんこに飲ませてぇ♡ちゅっちゅ♡」
キスしながら、射精しながらも腰を振って
ゼシカの子宮の奥へ奥へ精子を送り込む。
ゼシカの子宮口とキスしながら男は亀頭で精子を塗り込む。
ぐぽぽっ!!
どぽっ!
どぽっ!
「ゼシカぁあぁ～♡妊娠してくれぇ～♡！
まだまだ出すからあ…♡好きだぁゼシカぁ…！」
「んっ♡うぅうう♡受精するよぉお♡
こんなに出されてぇ♡これだけでも絶対妊娠するぅ♡」

そして第5子種付け交尾は翌日も続き、
男は2日間で26回も種付けを行った。

そして3日目。

まだまだ続く種付け。ほぼ3日間、
交尾しながら、唇を重ね続けたままの二人。
栄養のふんだんに詰まった果実を愛でるように、
男はゼシカの唇を堪能をやめず離そうとしない。
「ゼシカ確実に妊娠してくれよなっ♡まだ…出すから…♡」
「あぁ♡まだ出してくれるのぉ♡もう絶対妊娠してるよぉ♡」
「よ…四人も孕ませてるけどまた…
妊娠してくれ…好きだゼシカぁ…」
「私もす…好きぃ…♡もっと精子出してぇ♡」
ごちっ
ごちっ
ぬちっ♡
ぬちっ
ドチュッ♡
ドチュッ♡
ずぢゅッ!!
「出る…出るよぉ…！ゼシカ…！♡
あぁああ！♡妊娠してゼシカぁあ！」
「あぁあ！はあ♡妊娠するっうう♡
孕ませてぇええ♡！」

「うおおっ！あぁあ♡ゼシカの妊娠まんこに搾られてっ…！
種付け射精が止まらないっ！孕んで…ゼシカっ…！♡」
「はあぁあ♡絶対もう受精してるのにっ♡また精子送られて
托卵しちゃうぅうう♡赤ちゃんまた作っちゃうぅうぅ♡」
ビクビクッ！
キスは続いている。大量に吐き出した精液。
まだ腰を振る男。徹底的な種付け。
「はあはあ…！僕のこと好きですよね…ゼシカ様…！」
「好きぃ…好きよぉ…♡んっ…ちゅう…♡」
プシャッ！
ぶぽぽっ♡
どぽっ♡
どぽっ♡
どぽっ♡
んっ♡
赤ちゃん受精してるぅうう♡
ゼシカは男にまだ完全に心を許してはいないが、
演技でもイチャイチャするうち、
75%くらいは本心で男を好きになりかけている…。



ゼシカは５人目を懐妊。
そして生まれたのは男児だった。

だが乳児の性別は、受精時の思いなどとは
ほぼ無関係だろうし、第５子で男児が
生まれたことはおそらく偶然だろう。

二人の周辺的には男児が生まれたことは
良い結果にはなったが…。

そこは重要じゃない。なにしろ、
二人の種付け生活はまだ続いていく…。

６人目の種付け。

排卵日に合わせてまた二人は
子供を預けて宿を取り、種付けする。

いちゃいちゃごっこは続いているが、
もうゼシカはほぼ本心で男に心を許し交わっている。

夕方。
「あぁあ♡おちんぽ気持ち良いっ♡
すごくガチガチっ♡中にいっぱい
精子がつまってるのねぇ♡」
あっ♡
あ♡
おちんぽ
ガチ
ガチ♡
「おぉお…ゼシカっ♡まんこの
締まりがすごいぞっ♡やっぱりもう僕のこと
本気で好きなんじゃないかっ♡
今ももう演技じゃないもんな！」
「ぐぅ…♡そ…そうね好きかもね…♡
早く次の子孕ませてほしいもん…♡」
ぷるんっ
ぷるんっ
ジュブッ♡
ジュブッ♡
プルン
プルン
ドシッ♡
ドシッ♡
「バニーガール経産婦まんこっ♡たまらんっ！
早く中出し種付けして受精させたいなあ〜♡
早く出したいなあ〜♡」

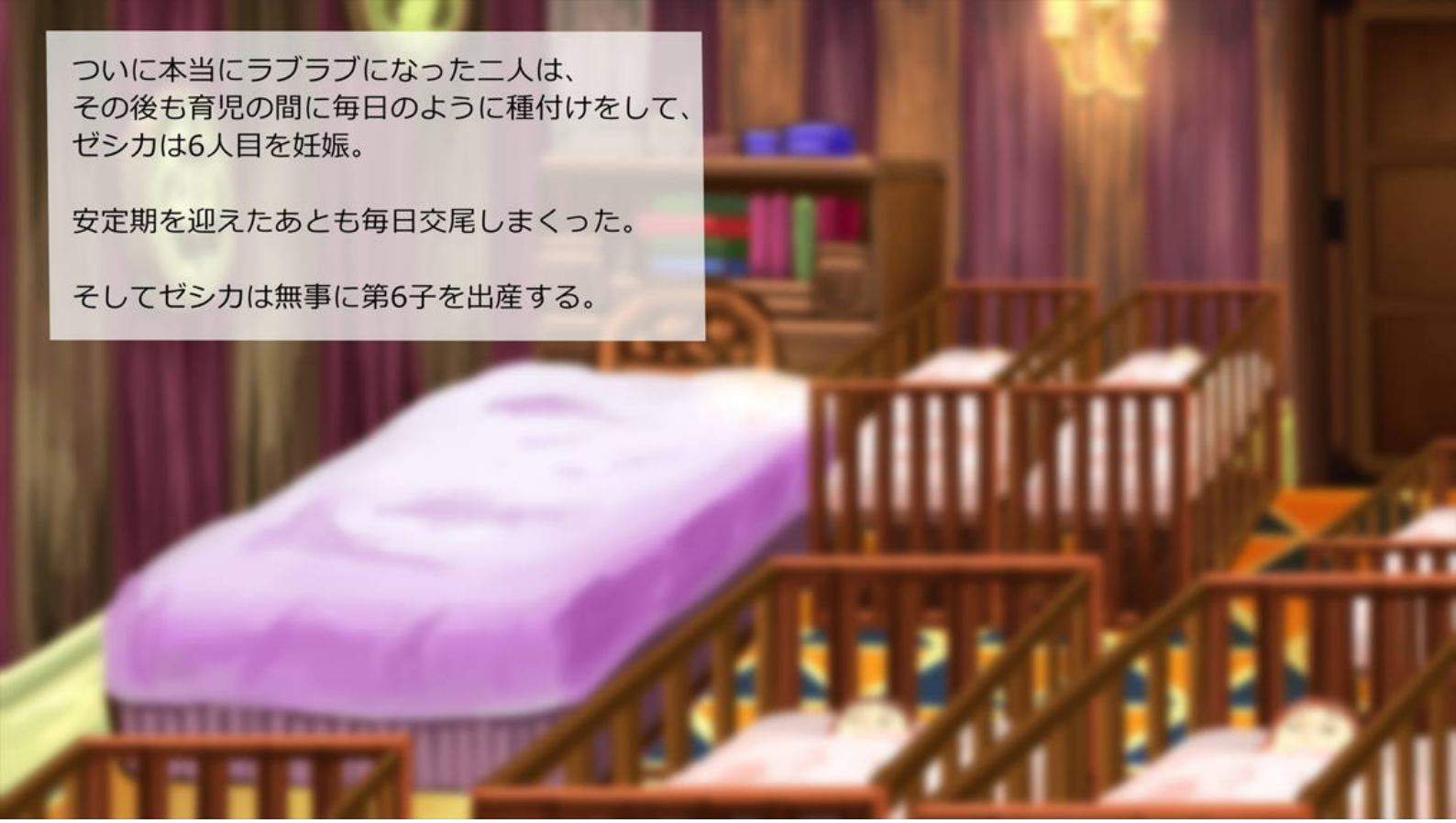
深夜…
「あぁあまんこ気持ちよすぎる…
ゼシカとの交尾最高すぎる♡
今から生で出しまくれるなんて…
また種付けできるなんて！」
早く精子出してよぉ♡
「♡うっ♡うぅう♡早く出しなさいよぉ♡
出せばいいでしょ♡待ってるんだから♡
まんこにあなたの精液早く出してよぉ♡」
グパン グパン
「で…でも本心を言わないと出さないぞ
僕のこと本気で好きなんだろ？！」
グパン
ズシッ ズシッ♡
プル プルン
ぶちょ ぶちょ
「そんな事いいから早く出しなさいよ…！♡
私も妊娠準備できてるしっ♡
あんたの精子も孕ませたくて
ウズウズしてるでしょ♡♡あんっ♡」

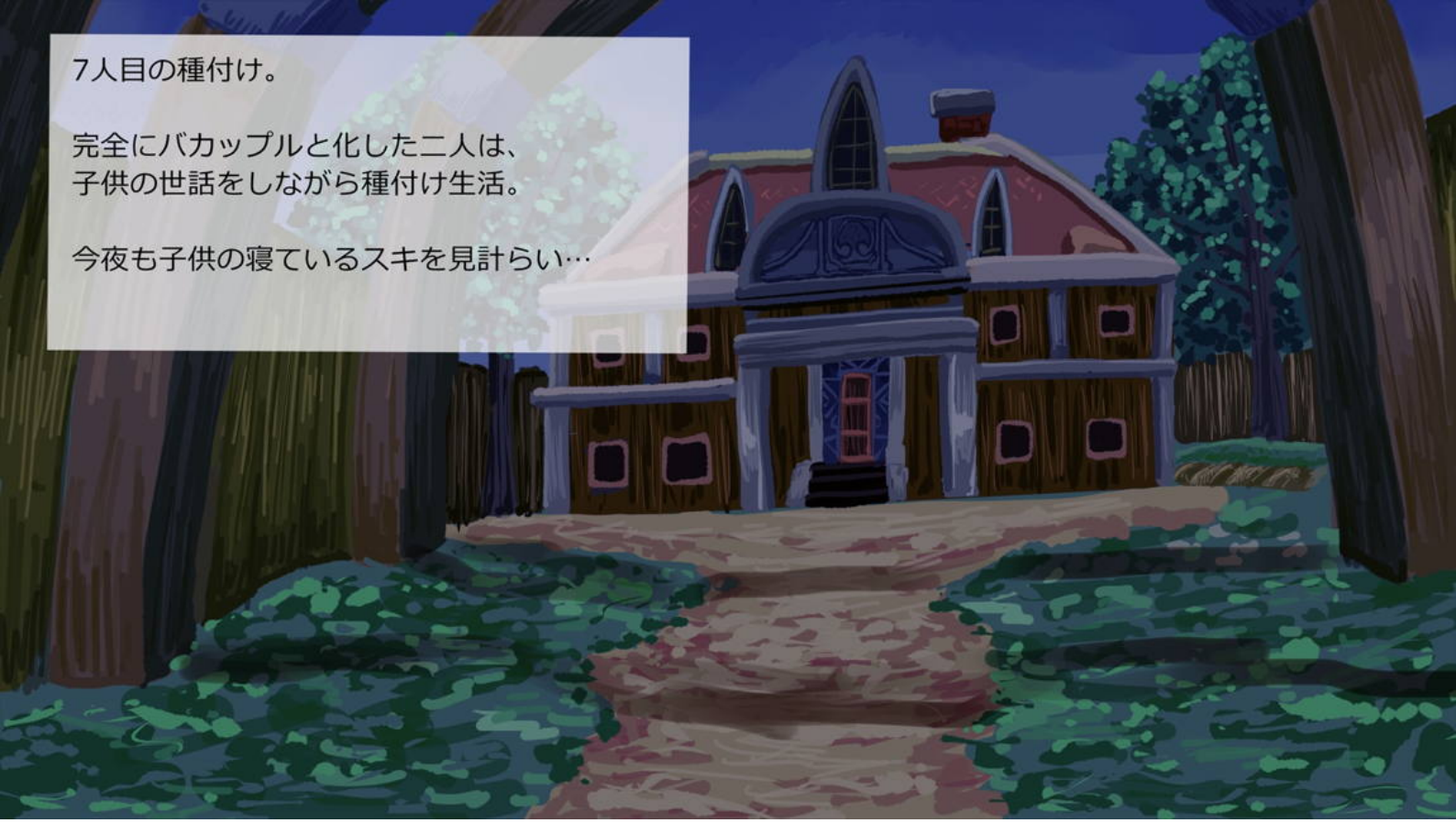
翌朝。
「ゼシカっ！演技じゃなくて
もう好きなんだよな！？
言わないと出さないぞぉ！」
妊娠する♡
妊娠するからぁ♡
「はあぁあ♡あうぅう♡出してほしぃぃぃ♡
あぁああ♡すっ…好きよぉ♡
好きだよぉ…♡演技じゃなくてぇ…♡」
「それが聞きたかった　僕も愛してるっ!!!
あぁあやっと出せるっ♡
孕ませたくて我慢できないっ♡♡」
「馬鹿っ♡早く！…早く妊娠させてぇ♡
卵子がずっとあんたの精子待ってるのぉ♡」
ドスッ！
ドスッ！
チュボ♡
ズボッ♡
ピュッ
ピュッ♡
今なら絶対妊娠するから♡私の体全部…
子宮が一番妊娠したくて仕方ないのっ♡」
「たっぷり種付けするぞ！」

「ゼシカっ！！妊娠してっ♡
卵子で受け止めてっ！
卵管まで大量に流し込むから！♡」
子宮が妊娠したがってるっ♡
絶対受精するっ♡
出してええっ♡
「妊娠したいっ♡受精したいぃ♡
あなたの精子で妊娠させて私のお腹膨らませてぇ♡
次の赤ちゃんつくるのぉおお♡」
「あぁあああ♡子宮が妊娠したがってるぅ♡
精子欲しがってるの♡元気な卵子排卵してるっ♡
受精したくて待ってるからぁあ♡」
ドスドスドス!
ドチュ!
ドチュッ!
ドチュ
ドチュッ!
「おぉおぉおお♡ゼシカっ出る！出るぞぉ！
孕ませ精子っ子宮に全部出すぞぉ！！♡」

「おぉぉおおおぉっ♡妊娠しろっ♡
妊娠しろぉゼシカぁあ♡！おぉおお♡」
「んあぁあぁああ♡はあ♡妊娠するぅう♡
妊娠するっ♡あぁ♡精子入ってきてる♡嬉しいぃ♡」
「孕んでくれっ！ゼシカ…！
次の子を…♡！
卵子で受け止めろっ♡♡」
ああ〜〜っ♡
妊娠するぅぅぅ♡
妊娠してるぅぅぅ♡
ビュルルル！
ゴボボ！！
ドビュビュ!!
「あうぅう♡受精するっ♡
今から受精するよぉお♡おまんこっ♡
精子欲しくて全部まんこで吸ってるからぁああ♡」

「はあ…はあ…♡…私…嘘ついてた…♡」
「はあ…はあ…気持ちよかった…
はあっ…♡…嘘…？」
大好きぃ♡
「私…あんたの事…
好きってレベルじゃないのお♡」
「本当は大好きよぉ…本当に…
大好きになっちゃったぁ…♡」
「おぉっ…♡あぁああ♡ゼシカぁあ♡
そんな…言われたら…
やっと…やっと…！！」
ギチッ♡
出したばかりのペニスにたちまち
硬さが戻り、さっきよりも硬くなる。
苦節6年、男はついに本当の意味でも
ゼシカと結ばれたのだ…！
ゴビュ♡
ゴプ♡
ポタ
ポタ
ピチャ♡
ビク♡
そして二人はその後4日間、
40回もの種付け交尾を繰り返した…。


ついに本当にラブラブになった二人は、
その後も育児の間に毎日のように種付けをして、
ゼシカは6人目を妊娠。
安定期を迎えたあとも毎日交尾しまくった。
そしてゼシカは無事に第6子を出産する。



7人目の種付け。

完全にバカップルと化した二人は、
子供の世話をしながら種付け生活。

今夜も子供の寝ているスキを見計らい…

「はぁ♡あぁあああぁ♡最初はすごく
嫌いだったけど今は大好きっ♡
あなたが好きっ♡ちゃんと子供たちの
世話もしてくれるし私と協力してくれるしっ♡
夜の相手も毎晩してくれるしっ♡」
ちゅ♡
んちゅ♡
ちゅう♡
だからまたあなたの子供が欲しいのっ
本気で思ってるよぉ♡あなたの子供を
産ませてぇ♡一緒に育てたいのっ♡」
ぐぷっ♡
ぐぷっ♡
プルン
プルン
「ゼシカっ…！絶対また妊娠
させるからなっ！好きだぞっ！」
思えば長かった。だが、今ようやくこうして、
ゼシカと本気で愛し合っている。
「妊娠させてっ！大好きっ！
あなたの子供が欲しいのっ！！」

「妊娠する準備はずっとしてるから♡
ダーリンの為に卵子出してるからっ♡
あなたの精子受け入れたいからっ♡」
「こっちも…ゼシカの為に精子っ♡
ゼシカを受精させるための精子沢山出すからな！
いくらでも出せるから！ゼシカが妊娠するまで！」
「もうダーリン専用の子宮になってるからっ♡
精子出されたらすぐ妊娠するように
出来てるから♡すぐに妊娠できるよぉお♡」
「ゼシカっ♡好きだぞぉゼシカっ♡
もう出すよぉ♡ゼシカのまんこに
種付けするうっ♡」
レロ
ベチョ♡
ベチョ♡
ぐぷっ
ぐぷっ♡
ぢゅるっ♡
ぴゅ
ピュッ♡
ズブッ♡

「はあぁああっ出るっ！出る出る！ゼシカの子宮に！
何度も孕んで馴染んでる子宮に！
また孕ませ汁いっぱい出すよぉ！
いっぱい！俺の妊娠精液送るよぉ！」
「はああぁあああはあああぁあう♡
あぁ♡いっぱい出してぇ♡妊娠したいっ♡孕ませてぇ♡
受精したいのっ♡あなたの赤ちゃんっ♡
絶対今妊娠したいのぉおおお♡」
「ゼシカっ♡あぁあああ！気持ちよすぎるっ！
出る！ゼシカのまんこで気持ちよくなって出るっ！
妊娠してっゼシカ！赤ちゃん産んでくれっ！」
「いっぱい子宮に精子出してぇ♡赤ちゃん産ませてぇ♡
私とあなたの赤ちゃんつくらせてぇ♡
受精するからっ♡絶対妊娠するからぁあああ♡
あぁああーっ！♡」
孕ませてぇ♡
妊娠させんぇ♡
赤ちゃん
産ませてぇん♡
ドッ！
ドッ！
ドッ！
ドッ！

「あぁあっ！あああぁあ！ゼシカぁぁあああ！
気持ちいいっ！気持ちよすぎるっ！種付けしてる！
中出ししてる！ゼシカを受精させてるぅうう！」
「はあぁああうぅうう♡ダーリンの精子いいいいい♡
いっぱい子宮にきてるよぉおお♡
あぁあああ♡気持ちいいぃいい♡」
「ゼシカ！ゼシカ！妊娠させてる！
ゼシカを孕ませてる！ゼシカ！あぁあああ！」
「もっと♡もっと出してぇ♡あぁああったかいっ♡
卵子まで♡卵子までいっぱい精子運んでぇえっ♡」
あまりの気持ちよさと、幸せで意識が飛ぶかと思った。
今までで一番気持ちいい。あのゼシカに…本物のゼシカに
受け入れられながら堂々と本当に種付けしてるなんて。
あっ♡精子きてるっ♡
いっぱいだすぞんっ♡
ドビュッ♡
ドビュッ♡
ドビュッ♡

「おうぅぅぅぅぅっ♡まだっ♡まだ出るぅぅう♡
ゼシカが好きすぎてっ…！
止まらないっ…！♡おぉおお！」
「はあぁああぁあっ♡いっぱい精子
入ってくるぅぅうう♡あぁっ♡嬉しいっ♡
私の事好きなのが伝わって…あぁあんっ♡」
「好きだよぉゼシカっ♡だからまた
妊娠してくれぇえ♡
おおおぉっ…！お…！おぉお♡」
「んっ♡あぁああ♡妊娠するよぉ♡
私も大好きだよぉ♡あなたの赤ちゃんっ♡
今っ♡妊娠してるからぁ♡」
ビクッ
ビクッ♡
ドプ♡
ボプ♡
ビュビュ♡
ポタ
ポタ♡
ピュ♡

「はあ…はあ…まだ出てるよぉ…ゼシカ…
ほんとに…本当に好きなんだ…」
「んっ♡あぁ♡気持ちいいよぉお……♡
あなたの気持ち…伝わってるよぉ…♡」
「あ…あ…ゼシカ…
孕んで…妊娠して…」
「受精するよぉ…あなたの赤ちゃん♡
大好きな…あなたの…」
「ゼシカっ…♡あ…あぁあ…♡
好きだ…大好き…」
ちゅっ♡
ちゅっ♡
ちゅっ♡
大好きだよぉ…♡
ゴプ…♡
ビク♡
ビュプ♡
ぴゅっ♡
ぴゅっ♡
ポタ
ポタ

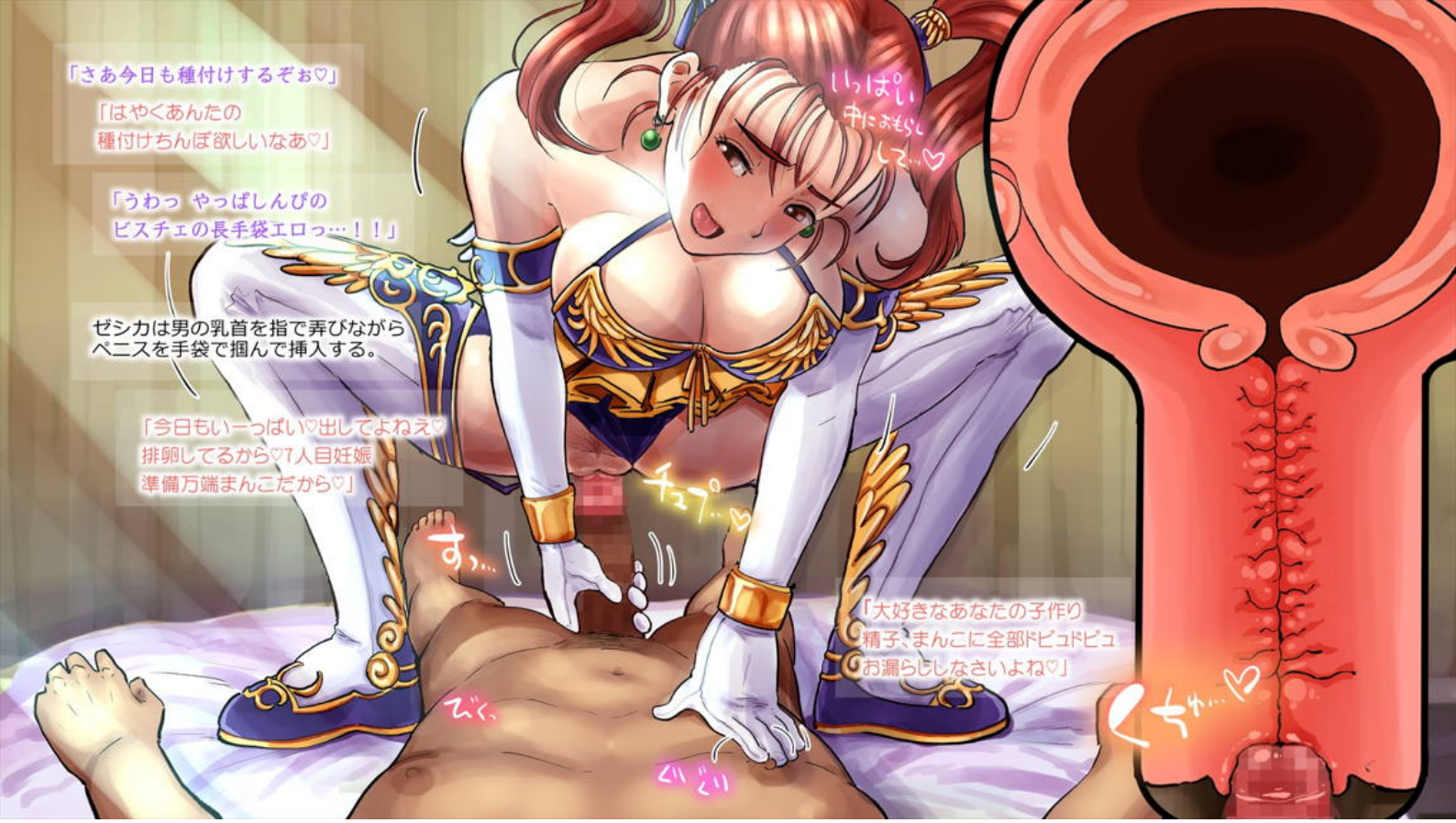
子育てももちろんしているが、
今になってラブラブになった二人。
二人きりになると生活は子作りのことばかり。

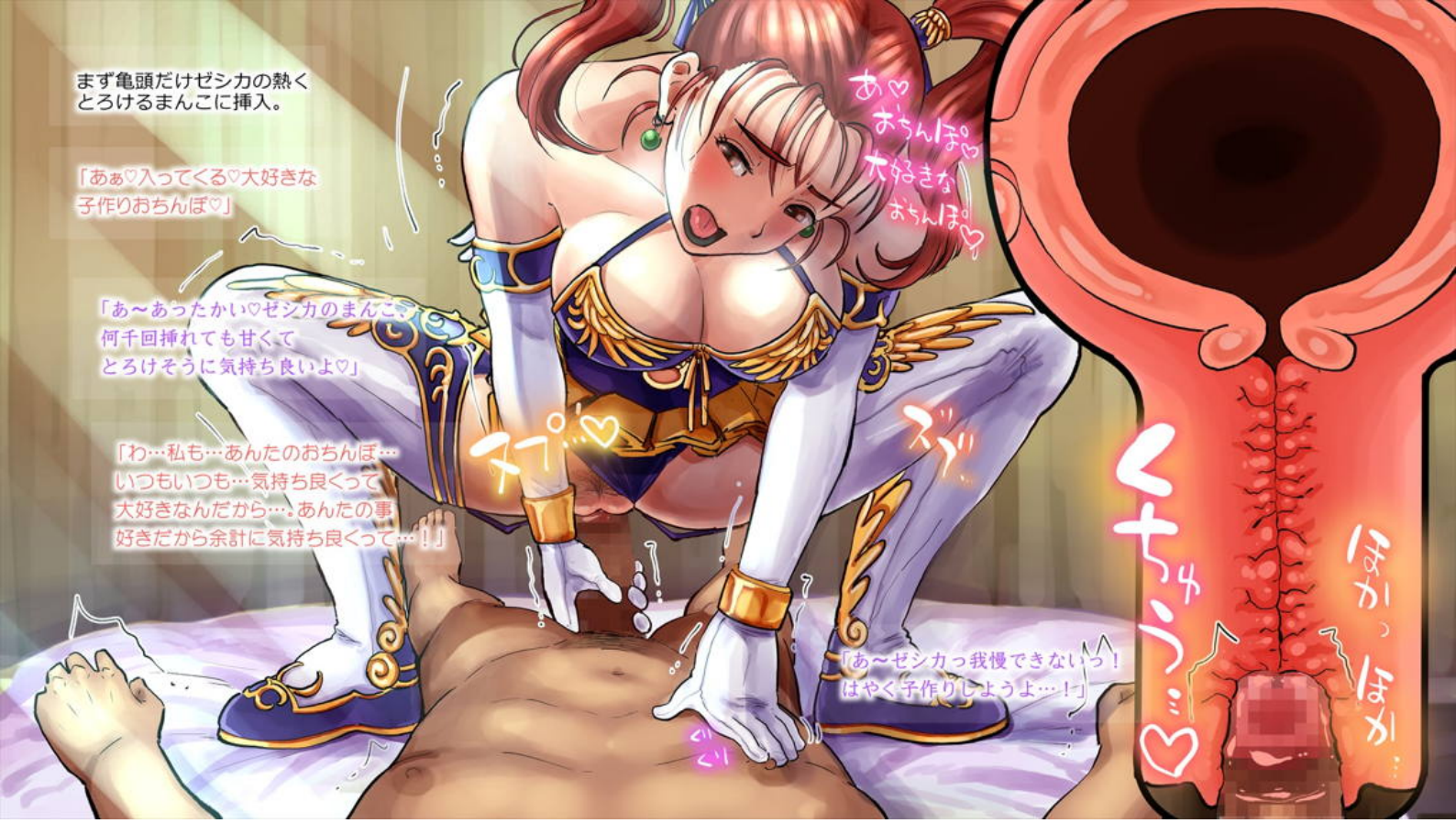
今までの分を取り戻すように、
空いている時間が少しでもあると
二人は体を重ね合わせた。

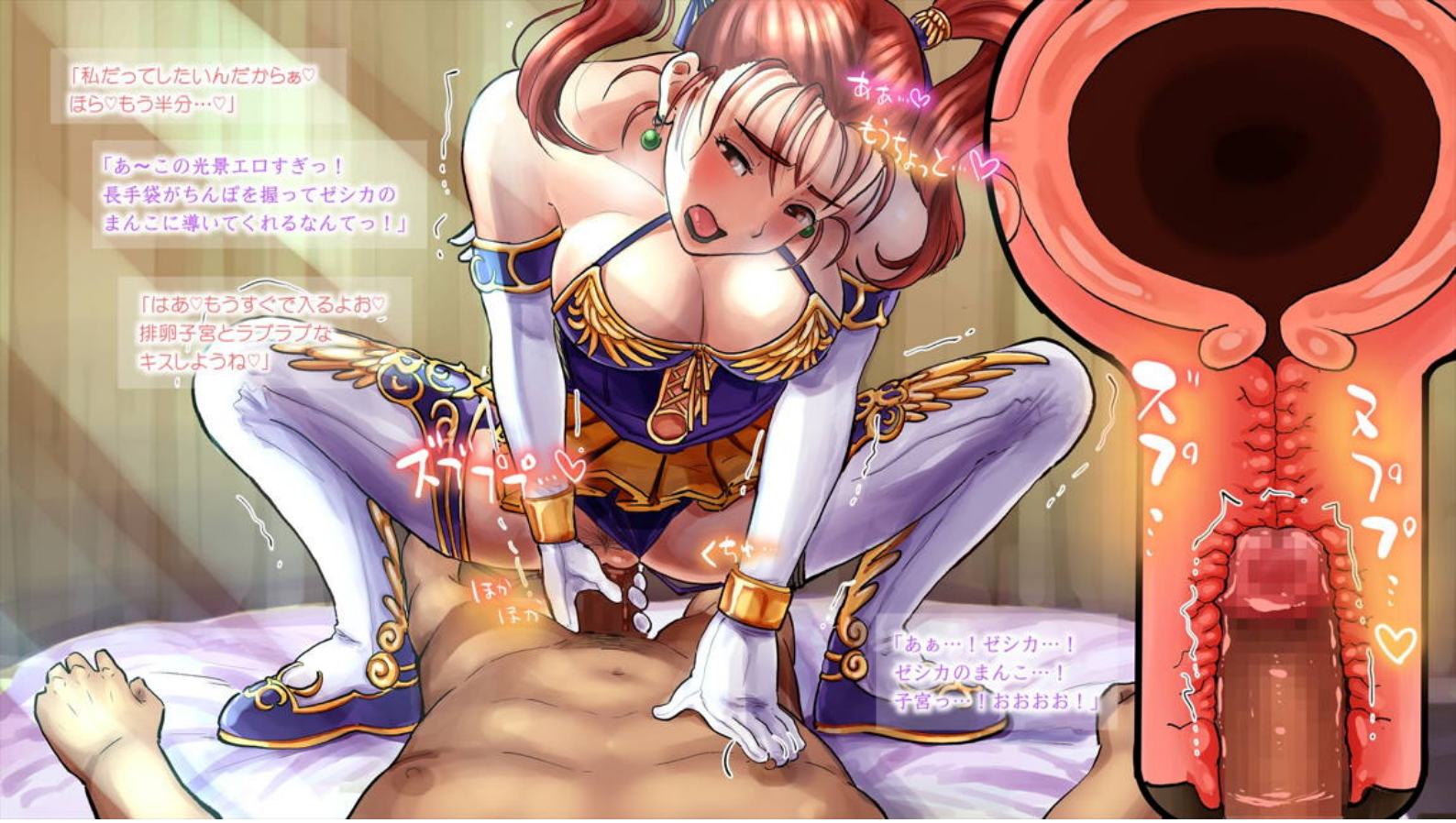
排卵日の期間は子ども達を
使用人に見てもらい、
二人きりで思う存分種付する。

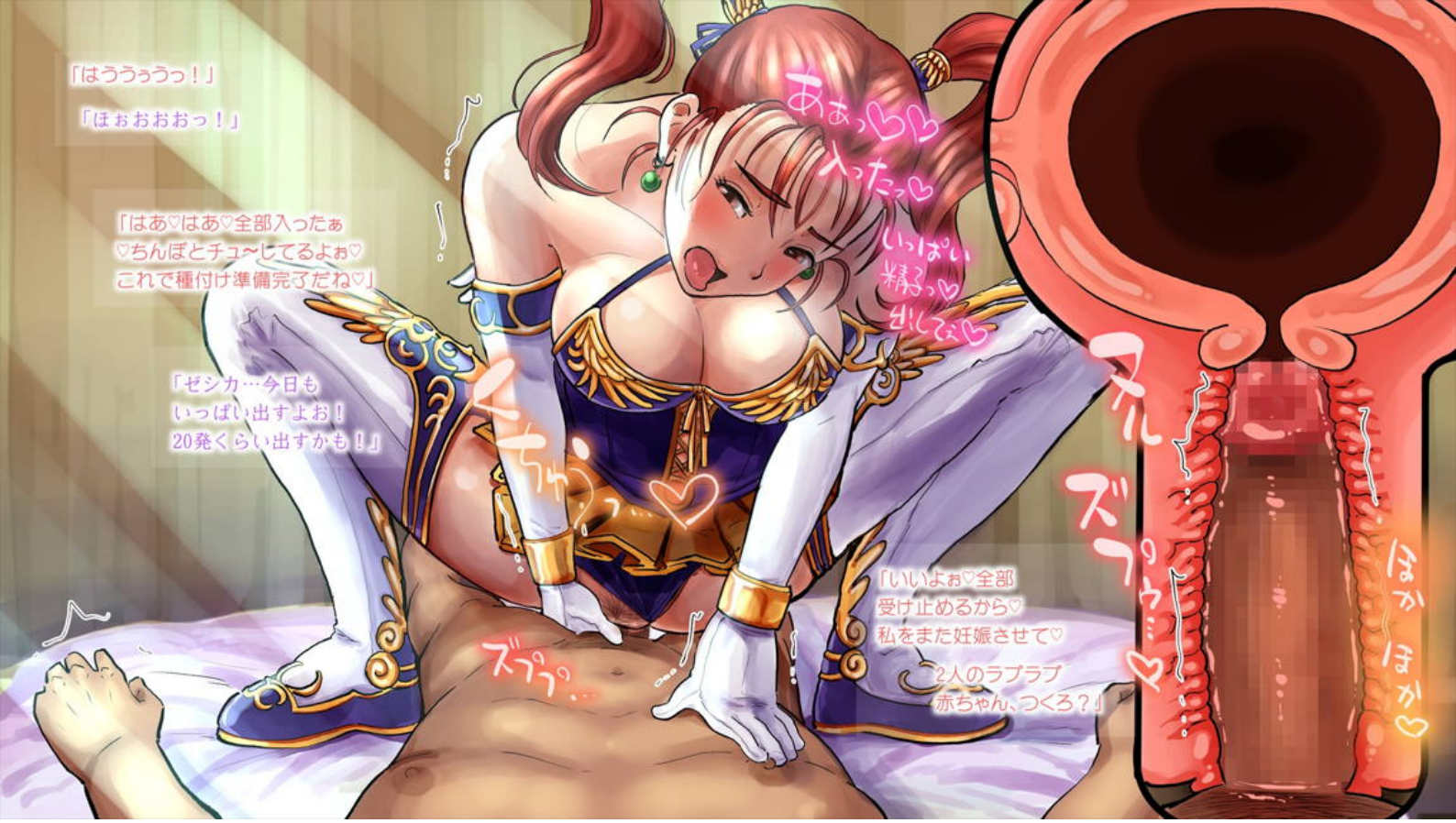
今日も朝から二人だけの種付け交尾…。

今日はまた神秘のビスチェを着てもらい…。


「さあ今日も種付けするぞぉ♡」
「はやくあんたの
種付けちんぽ欲しいなあ♡」
「うわっ やっぱしんぴの
ビスチェの長手袋エロっ…！！」
ゼシカは男の乳首を指で弄びながら
ペニスを手袋で掴んで挿入する。
「今日もいーっぱい♡出してよねえ♡
排卵してるから♡7人目妊娠
準備万端まんこだから♡」
いっぱい
中におもらし
して…♡
チュプ…♡
す…
「大好きなあなたの子作り
精子、まんこに全部ドピュドピュ
お漏らししなさいよね♡」
ぐちゃ…♡
ぐいぐい


まず亀頭だけゼシカの熱く
とろけるまんこに挿入。
「あぁ♡入ってくる♡大好きな
子作りおちんぽ♡」
「あ～あったかい♡ゼシカのまんこ♡
何千回挿れても甘くて
とろけそうに気持ち良いよ♡」
「わ…私も…あんたのおちんぽ…
いつもいつも…気持ち良くって
大好きなんだから…。あんたの事
好きだから余計に気持ち良くって…！」
「あ～ゼシカっ我慢できないっ！
はやく子作りしようよ…！」
あ♡
おちんぽ♡
大好きな
おちんぽ♡
ぬぷ♡
ズブ
ぐい
ほっ ほっ…
くちゅう♡

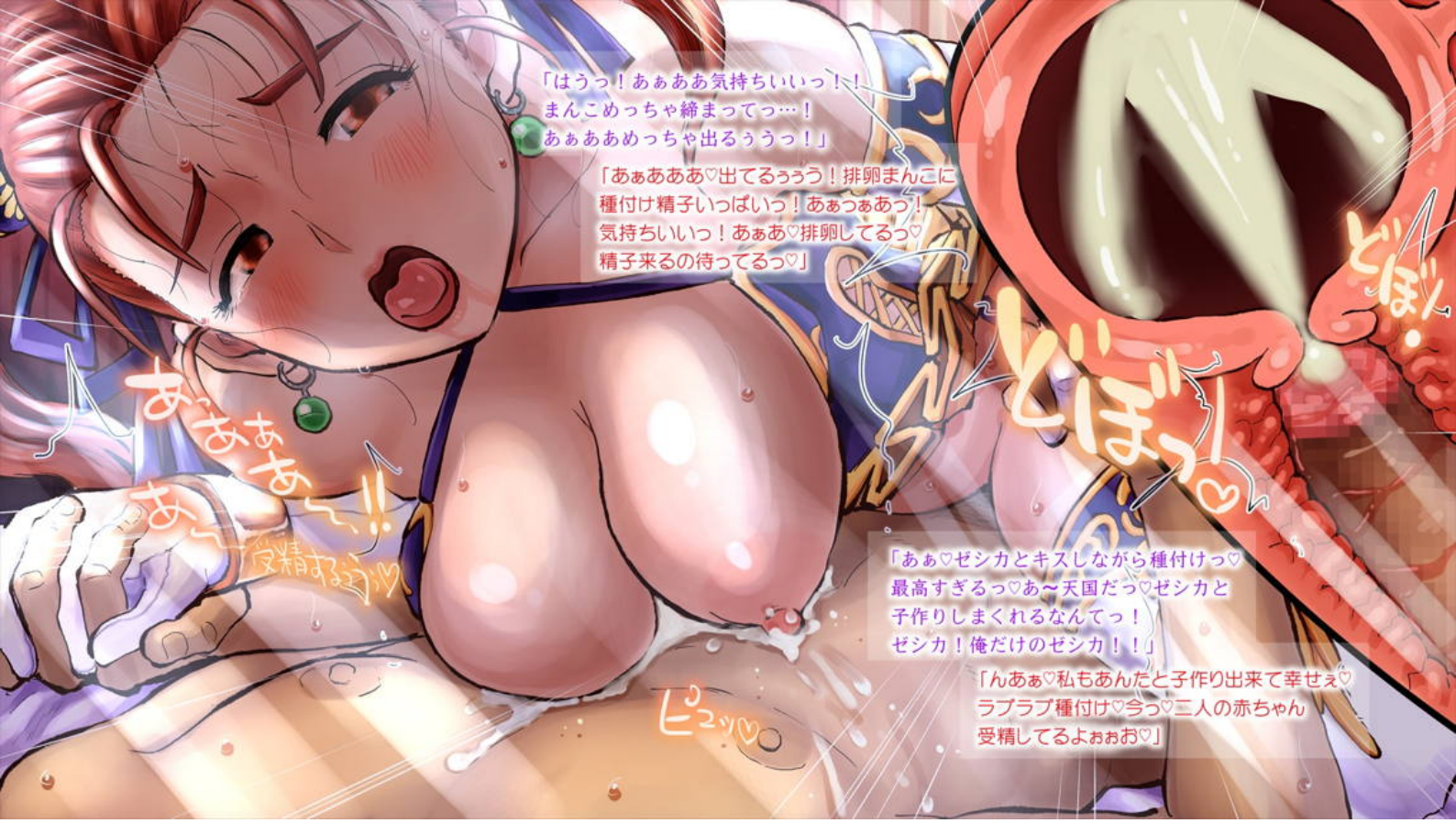

「私だってしたいんだからぁ♡
ほら♡もう半分…♡」
「あ〜この光景エロすぎっ！
長手袋がちんぽを握ってゼシカの
まんこに導いてくれるなんてっ！」
「はあ♡もうすぐで入るよお♡
排卵子宮とラブラブな
キスしようね♡」
あぁ…♡
もうちょっと…♡
ズププ…♡
くちゅ…
ほか
ほか
「あぁ…！ゼシカ…！
ゼシカのまんこ…！
子宮っ…！おおおお！」
ズプ…
ズプ…♡


「はうううっ！」
「ほぉおおおっ！」
「はあ♡はあ♡全部入ったぁ♡ちんぽとチュ～してるよぉ♡これで種付け準備完了だね♡」
「ゼシカ…今日もいっぱい出すよお！20発くらい出すかも！」
あぁっ♡と入ったっ♡
いっぱい精子っ♡出してぇ♡
くちゅっ…♡
ズププ…
ズププ…♡
ほか～ほか♡
「いいよぉ♡全部受け止めるから♡私をまた妊娠させて♡
2人のラブラブ赤ちゃん、つくろ？」

「あぁ〜♡ゼシカ〜♡最高の光景だよっ♡
ゼシカと交尾してる光景っ♡
愛してるよゼシカ！」
ちゅっ♡ ちゅっ♡
ちゅっ ちゅっ♡
んちゅっ♡
ゆしっ♡
ずちゅっ♡
ぬちゅっ♡
「んあっ♡んあ♡私も大好きぃ♡
もっとおちんぽ動かしなさいよっ♡
ポルチオ責めてぇ♡そうそこぉ♡
気持ち良くって排卵しちゃうから♡」
ぬぢゅっ♡
「いっぱい出すよっ！絶対妊娠させるから！
全部出すから！あ　おっぱい気持ちいいっ！
あーゼシカ好きだっ！」
「ちゅっ♡ちゅ♡もっとキスしよ♡
キスしながら赤ちゃんつくるのっ♡ちゅー♡
あぁあそこぉもっと突いてぇ♡」
ムニッ
フニ

30分後。
「べろぉ♡べろぉ♡れろぉ♡
ぁあ♡大好きぃ♡
もっとベロチューしよ♡
あは♡もっと硬くなってきた♡」
れろ♡
れろ♡
「ゼシカのおっぱいと母乳と！
カラダのふかふかの感触最高♡
しかもディープキスしながら！
生であったかまんこ交尾しながらっ！」
べろ♡
れちょぉ♡
ふにっ♡
ふにっ
ドギュ！
ドス！
ドチュ！
「いまっ♡排卵してるよ♡
あなたの精子待ってるから♡
はやくおちんぽドピュドピュしてぇ♡
私のまんこにお漏らししていいから♡」
「あぁああ！ゼシカ！たまらんっ！出すよ！
絶対孕ませるから！絶対命中させるから！
大好きなゼシカの卵子っ受精させるからな！」

さらに40分後。
「もう出すっ！ゼシカっ！妊娠させるっ！
ゼシカのまんこで生射精するからっ！
ゼシカのこの気持ちよすぎるエロまんこで！
精子出しちゃうからっ！」
「あぁあ大好きぃ♡あなたの精子っ♡熱いの
はやく出して♡全部私のまんこにちょうだい♡
子宮で飲み干して受精してあげるから♡
赤ちゃん作りたいのぉお♡」
ベチョ♡
レロ♡
レロ♡
ドッ！ドッ！
ゴッ ゴッ
くちゅっ！
「ゼシカっ！出るよっ！妊娠させるよ！
種付けするよ！子供っ産んでくれっ！
二人の子供受精してくれっ！あぁっぁぁあっ！」
「出してっ！妊娠させてぇ！あなたの赤ちゃん産みたいっ！
あなたの赤ちゃん作りたいのぉ！出してぇ孕ませてぇ！
おちんぽドピュドピュまんこで精子お漏らししてぇええ！」


「はうっ！あぁああ気持ちいいっ！！
まんこめっちゃ締まってっ…！
あぁああめっちゃ出るぅうっ！」
「あぁああああ♡出てるぅぅう！排卵まんこに
種付け精子いっぱいっ！あぁっぁあっ！
気持ちいいっ！あぁあ♡排卵してるっ♡
精子来るの待ってるっ♡」
どぼっ
どぼっ♡
あぁあぁあ〜〜!!
受精するぅぅ♡
「あぁ♡ゼシカとキスしながら種付けっ♡
最高すぎるっ♡あ〜天国だっ♡ゼシカと
子作りしまくれるなんてっ！
ゼシカ！俺だけのゼシカ！！」
「んあぁ♡私もあんたと子作り出来て幸せぇ♡
ラブラブ種付け♡今っ♡三人の赤ちゃん
受精してるよぉぉお♡」
ビュッ♡

「はあっはあっはあ…最高だった…
今でも信じられない…ゼシカと
子作りしてるなんて…♡」
「ちゅっ♡ちゅ♡ちゅ♡何言ってんの
愛し合ってるんだから当たり前じゃない♡
まだまだ出来るよね♡もっと裸であなたと
愛し合いたいな♡あなたとの子供…
愛の結晶作りたい♡ちゅ♡」
ちゅっ♡
ちゅっ♡
んちゅっ♡
好き♡
好きっ♡
ぎゅっ♡
どぷっ♡
どぷっ♡
どぽ…♡
「あぁああ〜♡ゼシカ…♡もう一生抱き続ける…！
一生愛するよぉ♡ずっとゼシカとセックスして…！
もっと子供作るから…！」
「へへ♡嬉しいな♡ちゅっ♡私ももっと
妊娠したいな♡大好きなあんたの赤ちゃん♡♡
もっと作って産みたいから♡
ちゅ〜っ♡もっと種付けしよ♡」

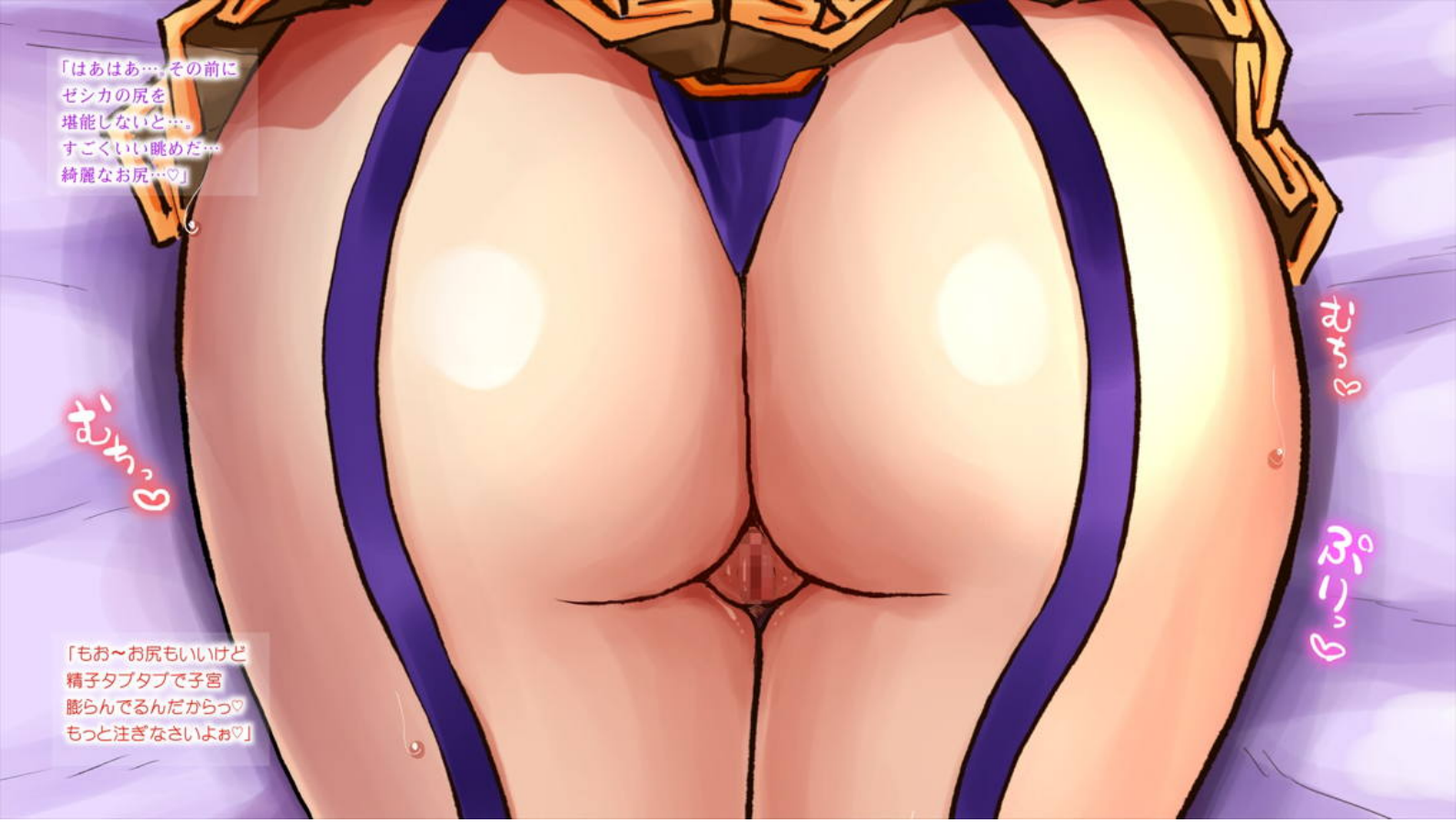
その後も5発も種付け射精し、
すっかり夕方に…。

（ゼシカの甘い吐息が至近距離で感じる。
俺は世界一の幸せ者だ…！）

勃起は硬さが衰える事がない。
今度は寝バックで種付けする。

ゼシカをうつ伏せに寝かせて…。

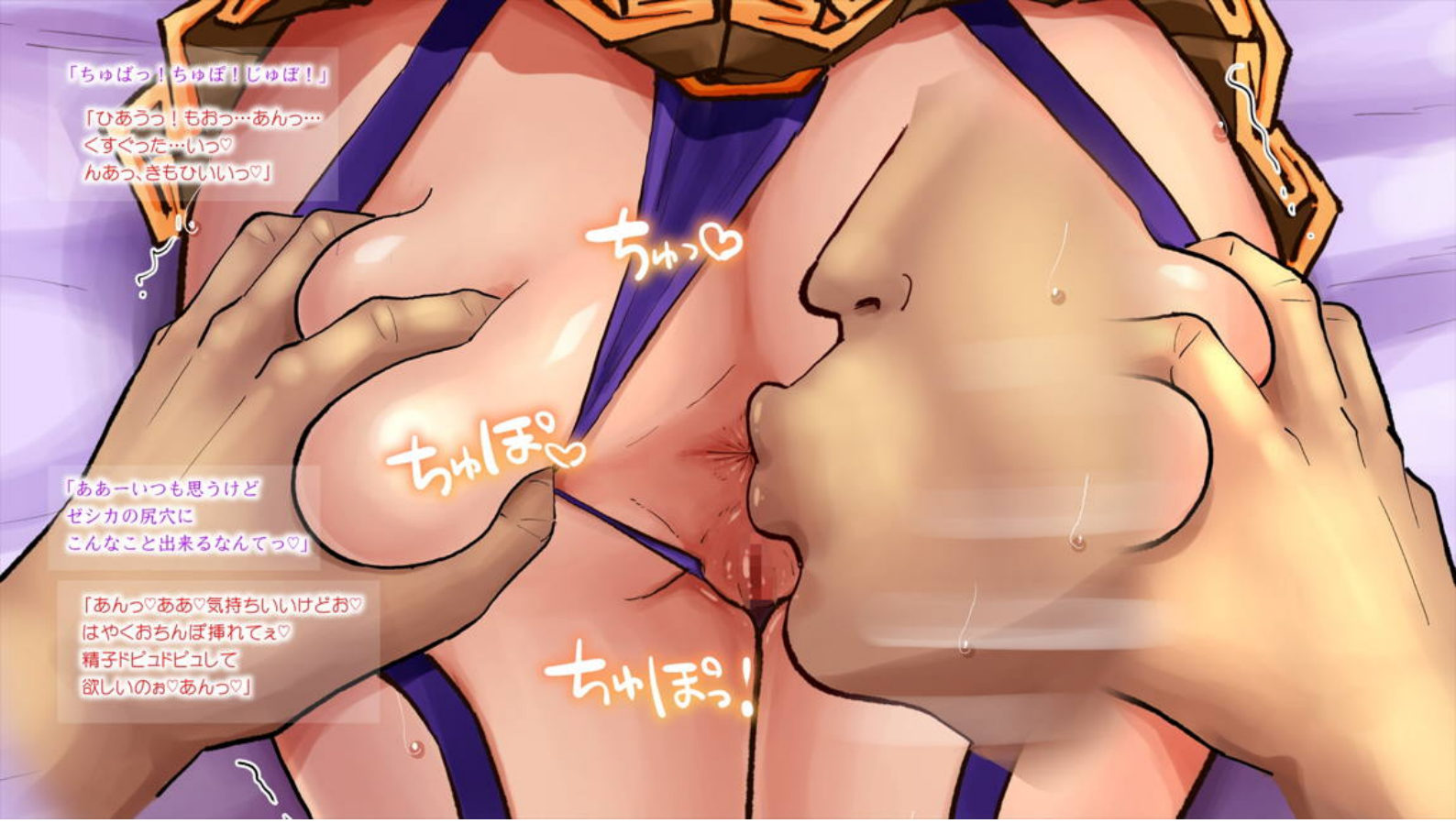
「あ〜やっぱり神秘のビスチェ
後ろもエロ過ぎるっ！
この尻のガーター紐が
エロすぎて堪らん！」
「はやくぅ♡まんこっ
妊娠したくて待ってるから♡
5、6発じゃ全然足りないっ♡」
ぷりっ♡

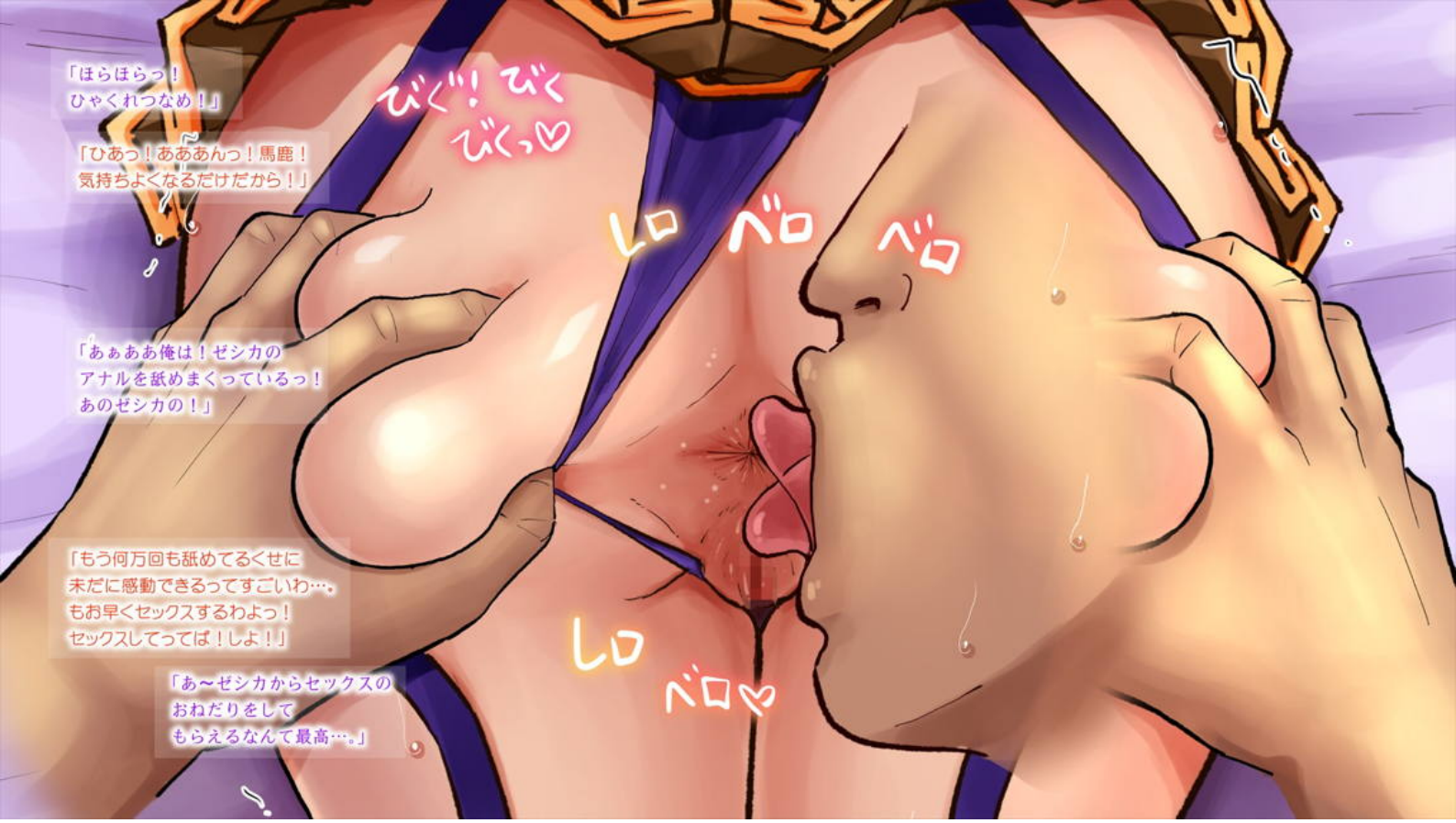

「はあはあ…その前に
ゼシカの尻を
堪能しないと…。
すごくいい眺めだ…
綺麗なお尻…♡」
むちっ♡
ぷにっ♡
むちっ♡
「もお～お尻もいいけど
精子タプタプで子宮
膨らんでるんだからっ♡
もっと注ぎなさいよぉ♡」

男は尻肉を開帳する。
むにっ♡
「あ～このムチムチの
弾力っ♡うほ♡
可愛いアナルと
まんこが丸見えっ♡」
「やっ♡開いて
見るなっつーの！」
「あ～ゼシカのアナルっ！
いつ見ても綺麗だ…
まさかゼシカのアナルを
この目で拝めるとは…」
「ジロジロ見ないでってば！♡」
ぴらっ♡
ぶにゅ♡

「ちょっとぉ！もっと
拡げて見るなっつーの！」
ムニィ〜〜…♡
「シワの一本一本まで
綺麗だよね…
色も綺麗なままだし…♡」
「ちょっと…いつも
恥ずかしいのよ？
こんなにジロジロ見るの…」
キュッ…♡

「れろっ！」
「ひゃうんっ！」
「れろっ！じゅぶっ！
べろれろ！」
「もおっ ほんと
舐めるの好きよねえ…♡
あんっ！」
びくんっ♡
れろ…♡


「ちゅぱっ！ちゅぽ！じゅぽ！」
「ひあうっ！もおっ…あんっ…
くすぐった…いっ♡
んあっ、きもひいいっ♡」
ちゅっ♡
ちゅぽ♡
「ああーいつも思うけど
ゼシカの尻穴に
こんなこと出来るなんてっ♡」
「あんっ♡ああ♡気持ちいいけどお♡
はやくおちんぽ挿れてぇ♡
精子ドピュドピュして
欲しいのぉ♡あんっ♡」
ちゅぽっ！


「ほらほらっ！
ひゃくれつなめ！」
「ひあっ！あああんっ！馬鹿！
気持ちよくなるだけだから！」
びくび！びく
びくっ♡
レロ ベロ ベロ
「あぁああ俺は！ゼシカの
アナルを舐めまくっているっ！
あのゼシカの！」
「もう何万回も舐めてるくせに
未だに感動できるってすごいわ…。
もお早くセックスするわよっ！
セックスしてってば！しよ！」
レロ
ベロ♡
「あ～ゼシカからセックスの
おねだりをして
もらえるなんて最高…。」

「はあっ…行くよお…
あぁ気持ちいいっ！！」
「あぅうう♡入ったぁ♡大好きな
あなたのおちんぽぉ♡」
はぁ♡ おちんぽぉ♡ いっぱい精子出してぇ♡
「あ～ゼシカのお尻の感触
たまらないっ♡気持ち良過ぎるよ
寝バック…！この羽も
またエロくて最高だね♡」
「いっぱい突いてぇ♡気持ちよくなったら
ドピュドピュしてぇ♡子宮
膨らませて待ってるからぁ♡」
ズプッ…♡

1時間後。
「あぁあ〜もう気持ちよ過ぎるっ！
ゼシカの尻の感触を味わいながら寝バックで
排卵中のゼシカに全力で
種付け出来るなんてっ！天国過ぎるっ！」
ズムッ！
ズプ！
ぬちっ！♡
ぬっぬ〜〜♡ 妊娠させてぇ〜〜♡
いっぱい出して〜〜♡
フニッ♡
フニ♡
「私もぉ♡寝バックすきぃい♡良い所に当たるのっ♡
ずっと気持ちいいっ♡こんなに気持ち良く
なりながら子作りしてたら子作り
やめられないっ♡ずっと孕んじゃうぅうう♡」
「あぁぁあ〜ゼシカっ♡出すよっ♡
ゼシカのまんこっ
もっと満たしちゃうよっ♡」
ドス！
ぬちっ！
「出して出してぇ♡妊娠させて！
絶対に赤ちゃん産ませてぇ！あなたと
私の赤ちゃん欲しいっ♡いっぱい私の
まんこにお漏らししてぇ！！」
「あああゼシカ！出るっ！！」
ムチッ♡
〜ムチ♡

「あぁあ♡あ〜♡気持ちよくって
死にそうっ！！寝バック射精で
種付けっ！ゼシカに種付けっ！！」
はぁっあぁあ〜〜♡
あはぁ〜〜♡
どぶぶ！
どぼっ！
どぼっ！
タプン♡
「ひいいぃあっぁああっ！すごっ♡
すごいいいい♡ドバドバ精子
入ってくるぅうう♡子宮どんどん
あったかくなってくっ♡」
「でっかい尻に密着して中出しするだけでも
すごい快感！ゼシカの２つの尻肉が
ちんこを挟んで、ふかふかの大陰唇も
竿を絞りまくって快楽で昇天しそうだっ！」
「はあぁあ♡種付けされてるぅう♡
ダーリンに子宮満たされてる感覚っ♡
幸せすぎて最高っ♡」
ビュプ!!
タポン♡

「はあ♡はあ♡はあ♡」
はぁはぁ♡
もっといっぱい
中に出してぇ♡
「んん〜♡寝バック
気持ちいい〜♡もっとやってぇ♡」
「いくらでもやるよ…♡」
「いっぱい私のまんこにシーシー
お精子出してね♡絶対妊娠したいから…。」
ドピュ♡
ぎち♡
むち♡
キュン
フニ♡
ビュルル♡
ビュルル♡

3時間後。

体位を変えながら4発の射精をキメて、
まだまだ種付け交尾は続く…。

「はあっはあっはあ！れろれろべろっ！
あ〜キスしながら寝バックで
ハメられるなんて最高っ！」
ぐぱんっ！ ぐぱんっ♡
あぁ♡ 精子注いでぇ〜♡
ぷちゅ♡
ぺろ♡
「れろれろっ♡もっとチューしよっ♡
あなたの唾液もっと飲ませてっ♡
精子も飲ませてっ♡」
「おしりのふわふわっ！包まれる盛りマンの
柔らかさ！ゼシカのエロ顔！
ベロチューしながら種付けするっ！」
「精子出してぇ♡赤ちゃん汁っ♡
子宮にジョボジョボ注いで欲しいの♡
あなたのおちんぽで私を妊娠させて欲しいのっ！」
ムニッ
フニッ
くちゃ
ぐちゃっ♡

はぁあ～♡
「ゼシカの可愛い顔っ！大きなおっぱい！
エロい体！見てキスしながら！妊娠させるよ！
俺の子！孕ませるよ！精子ゼシカに
中出ししちゃうよっ！！」
ぐぽっ！ぐぽん！
種付けしてぇ～♡
孕ませてぇ～♡
ヌプ♡ヌプヌプッ♡
「いっぱい出してぇ♡全部出してぇ♡あなたの
赤ちゃん欲しいっ♡受精させて欲しいっ♡卵子に
あなたの精子命中させてぇ♡全部受け入れるからっ♡」
「ゼシカっ出すよぉっ！妊娠してっ！
受精して着床してっ！俺とゼシカの子供っ！
産んでくれっ！♡ゼシカと子供つくるっ！」
「大好きぃ♡大好きなあなたのっ♡子供育てるからっ♡
愛しいおちんぽでビュービューして♡私のおまんこで
気持ちよくなって！いっぱい種付けして！孕ませてぇ！」
たぷ たぷ
たぷっ♡

あっ♡あ〜〜〜♡
もっと出してぇぇぇぇ!!♡
「うおっ！うおおお！出てるっ！
出る！気持ちいいっ！ゼシカとキス
しながら種付け射精っ！あ〜ゼシカの
まんこ気持ちよすぎぃぃぃ！」
どびゅっ!!
どびゅ!!
「んんあぁああ♡熱いのいっぱいっ♡
はあぁあああ♡気持ちいいよぉぉおおぉ♡
もっと、もっと出してぇぇぇぇ♡」
「全部出すよっ！ゼシカの子宮に
全部出す！あ〜ゼシカと子作り
してるなんて！種付けしてる
なんて幸せ過ぎる！」
プシャアアッ♡
どぼぼっ!♡
「あぁあ♡精子っ♡お漏らしみたいに
いっぱい出てるぅ♡絶対妊娠しちゃうっ！
排卵してる卵子っ♡あなたの精子
欲しくて待ってるの♡はやく受精させに来てぇ！♡」

「あぁ〜ゼシカ可愛い…
大好きだ…愛してる…♡」
「私も愛してるわ…♡だから二人の
愛情の証の赤ちゃん、いっぱい欲しいのぉ♡
ちゅっちゅ♡まだまだ出して欲しいよぉ♡
あなたの精子、まだ足りないの♡」
ちゅっ♡ ちゅ♡
ちゅっ♡
ん♡ もっと出してぇ♡
妊娠させてぇ♡
むちっ♡
ドプッ♡
ドプ…♡
ドプ…♡
ぬちっ♡
「いくらでも出せるよ♡ゼシカと
種付け交尾なんてまだ夢みたいなんだから…
死ぬまでゼシカに射精しつづけるよ♡」
「嬉しい♡大好きぃ♡これからも
いくらでも妊娠させてぇ♡あなたの赤ちゃん
産みたいからぁ♡もっとラブラブ交尾しよっ♡
繁殖活動するのっ♡」
「ゼシカ…♡ゼシカっ…！！」

その後も夜通し交尾を続け、
19回分の精子が子宮を膨らませていた。

1日ぶっ続けの種付けも、
いよいよ終わろうとしている。

「あ〜母乳も美味すぎる！唇も！
まんこも！ゼシカ全部美味しいよお！
ゼシカのミルクっ！♡」
「おちんぽミルク出して！おっぱい
飲ませてあげてるから私にも
赤ちゃんミルクもっと子宮で飲ませてぇ！」
たゆんっ
たゆんっ♡
ちゅっ♡
ちゅっ♡
いっぱい
精子
ちょうだい♡
ちゅっ♡
ちゅ〜♡
「あ〜大好きだよおゼシカっ♡
愛情精液、最後にすっごいの飲ませるよぉ！
全身全霊でゼシカに種付けするよぉ！」
「いっぱい、い〜っぱい飲ませてぇ！
赤ちゃんつくるから！大好きなあなたの
赤ちゃん、受精して産むからぁ♡
いっぱい出してぇ♡あぁ愛してるぅ♡」
ぬちっ
ぬちっ
ぐぷっ
ぐぷっ♡

「俺も愛してるよぉお…ずっと
好きだったんだよぉ…ずっとずっと…！！
あ～ゼシカとセックスしてるっ！
子作りしてるっ！！」
「ん～好き好き大好きっ♡早く精子出してぇ♡
私のおまんこにあなたの精子いっぱい
注いでぇ♡2人の赤ちゃんつくろっ♡」
たぷん
レロ
ベロ♡
赤ちゃん
つくろぉ♡
ベチョ
レロォ♡
ヌプッ
ヌプッ♡
たぷん
「ゼシカの体っ！まんこっ気持ち良過ぎる！
キスっ 唾液っ甘過ぎるっ！♡体臭っ♡
甘過ぎるっ♡ゼシカとのセックス天国過ぎるっ！」
「ダーリンっ♡もっと突いてぇ♡
もっと動いてぇ♡もっとおちんぽ動かしてぇ♡
いっぱいおまんこ締めて気持ちよくするからぁ♡」
ヌプッ♡

30分後。「あ〜やばい出る出るっ！大好きなゼシカにいっぱい精子出るっ！妊娠っ！妊娠してくれ！ゼシカっ！俺の子を産んでくれっ！」
「出してぇ♡大好きなダーリンの精子っ♡いっぱい中に♡思いっきり全部♡最後まで沢山出していいからっ♡あなたの精子でっ絶対妊娠させてっ♡」
ぶるん
ドチュ！
ズプ
ズプッ
ドチュ！
妊娠させてぇーっ！♡
赤ちゃん産ませてぇーっ♡
ぺろ
ぺロッ♡
あぁ〜〜♡
「うぉおっゼシカっ！出るっ！出る！孕んでっ！受精してっ！妊娠してくれーっ！あぁぁぁ！出るぅうっ！」
「いっぱい！いっぱい出して！まんこにっ！気持ちいい精子っ！いっぱいかけてぇ♡受精するからっ♡あなたの赤ちゃんつくらせてぇーっ！」
ぶるん♡

「うっ！ああっ！射精してるっ！ゼシカの子宮に
生で思いっきりっ！排卵中のゼシカに
今全力で種付けしてるっ！！」
「はぁあ♡気持ちいいっ♡おちんちん
ビクンビクンっ♡気持ちよさそうに
精子お漏らししてるっ♡もっと
ドバドバだしてぇ♡卵子に命中させて♡」
ピュッ♡
どぼっ!!
ごぼっ!!
どぴゅ!
ぷしゃ♡
あぁあ〜〜♡
こぷこぷ〜〜♡
「全部出すからっ♡全部受け止めてくれゼシカっ♡
ゼシカとセックスするのっ、子作りするの
気持ち良過ぎる！ゼシカの体、
何回抱いても最高すぎるよっ！！」
「気持ちいいでしょっ私のまんこっ♡
私と交尾するの気持ちいいでしょっ♡
妊娠させてくれるの待ってるから♡あなたの
赤ちゃんの素、もっとまんこに吐き出してぇ♡」

「はー♡はあっ♡今日も最高だったぁ♡
絶対子供出来てるっ♡こんなに射精して…
大好きなゼシカに…♡」
「私も…こんなにダーリンの精子もらって…
絶対妊娠してると思う…♡すっごく
気持ち良かったし♡愛情いっぱい感じたし♡
卵子も子宮もすっごく喜んでるもん♡」
ぴゅっ♡
ちゅっ♡
大好き…♡
ちゅっ♡
ちゅ♡
ドプ♡
ドプ
「まだまだ妊娠するまで
交尾しようなっ♡ゼシカ！
何回も種付けするから♡」
「嬉しい♡私も妊娠したい♡もっともっと
赤ちゃんの素、子宮に送ってぇ♡
精子、私のまんこに出してね…♡大好きよ…♡」
ぴゅ♡
ドプ…♡

１日に渡る種付けを終えた二人だが、
このあとも時間を見て種付けを
繰り返す日々は続く…。

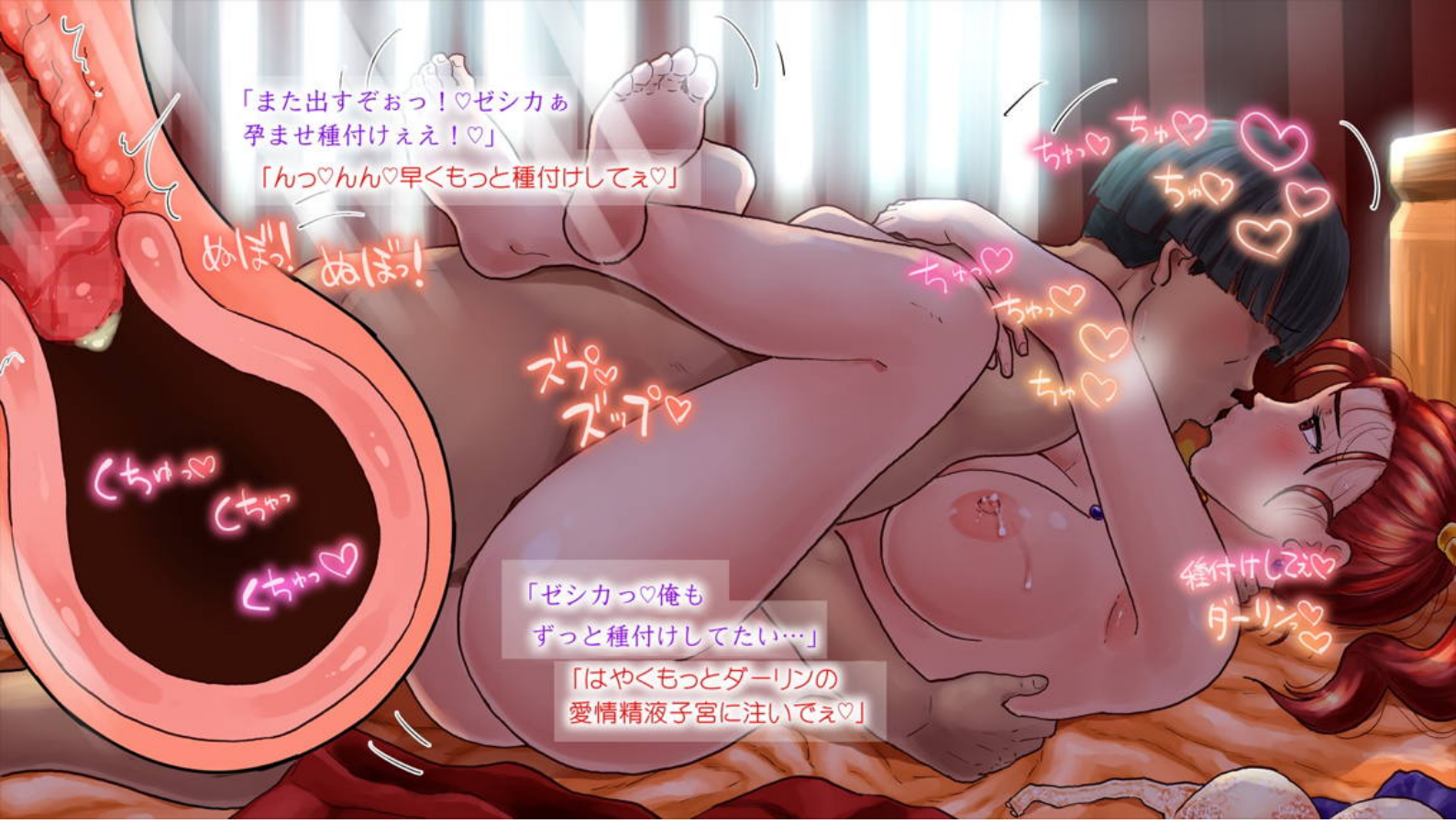
そしてゼシカはすぐに妊娠し、
後日無事第７子を出産するのであった。

もちろんラブラブになった二人の
種付け交尾はまだまだ終わらない…。

8人目の種付け。

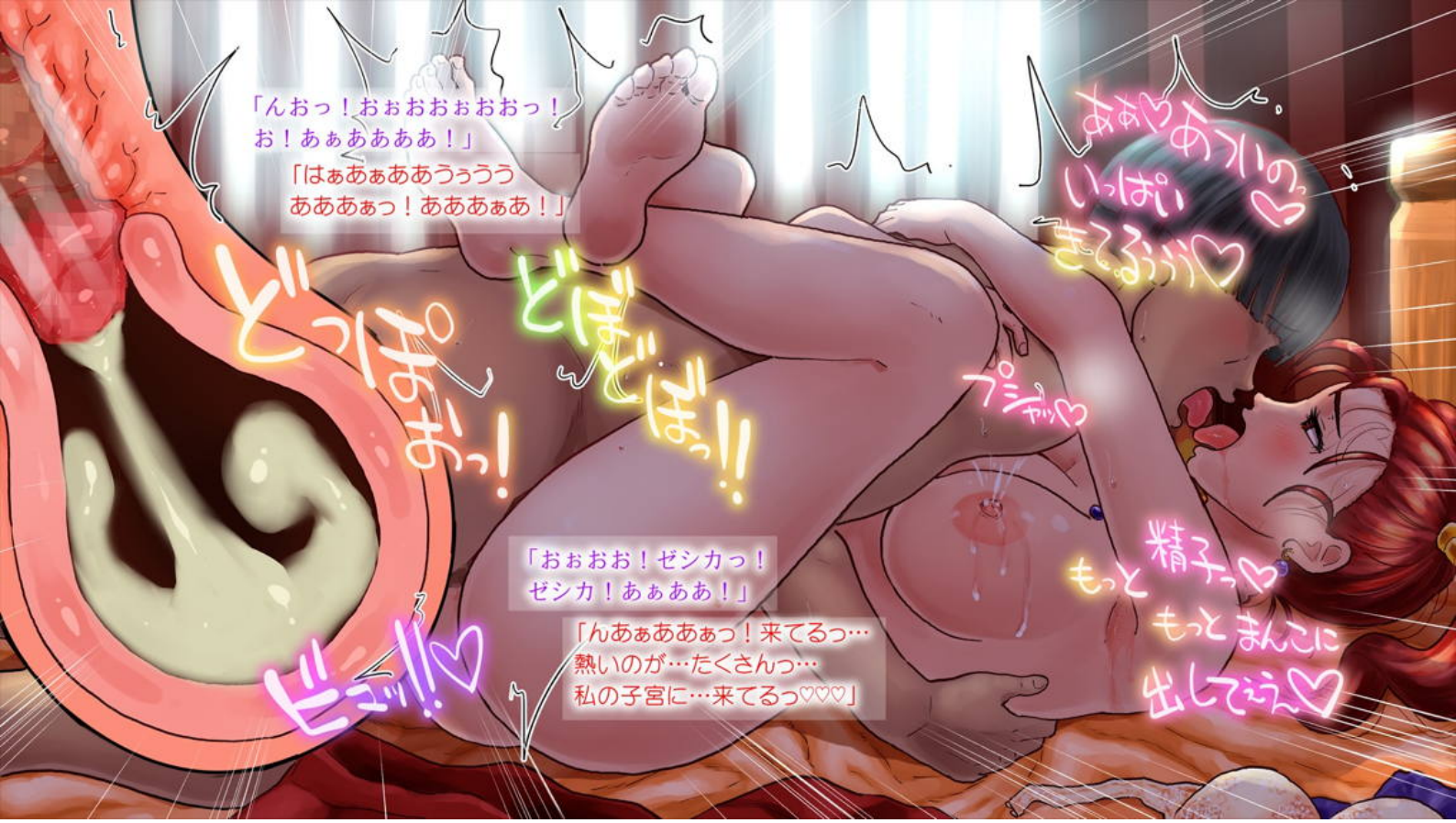
親としては失格かも知れないが、
もう子どもたちを預けて、
１ヶ月も交尾しかしていない二人…！

いよいよバカップル化は止まらず、
交尾のことでいっぱいになってしまった。

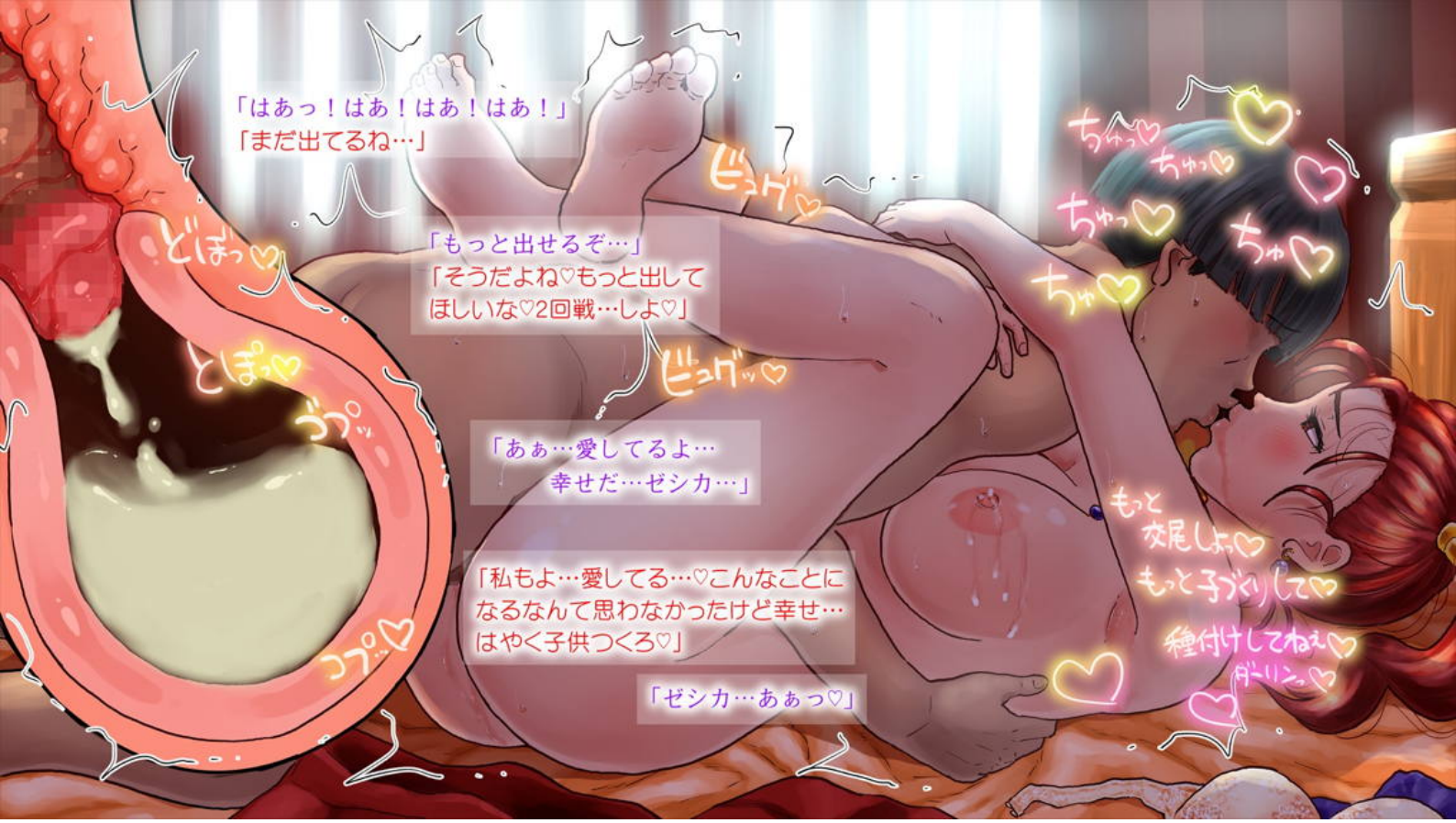

「また出すぞぉっ！♡ゼシカぁ
孕ませ種付けぇえ！♡」
「んっ♡んん♡早くもっと種付けしてぇ♡」
ぬぼっ！ぬぼっ！
ちゅっ♡ちゅ♡
ちゅ♡
ちゅっ♡
ちゅっ♡
ちゅ♡
ズプ♡
ズップ♡
くちゅっ♡
くちゅっ
くちゅっ♡
「ゼシカっ♡俺も
ずっと種付けしてたい…」
「はやくもっとダーリンの
愛情精液子宮に注いでぇ♡」
種付けしてぇ♡
ダーリン♡

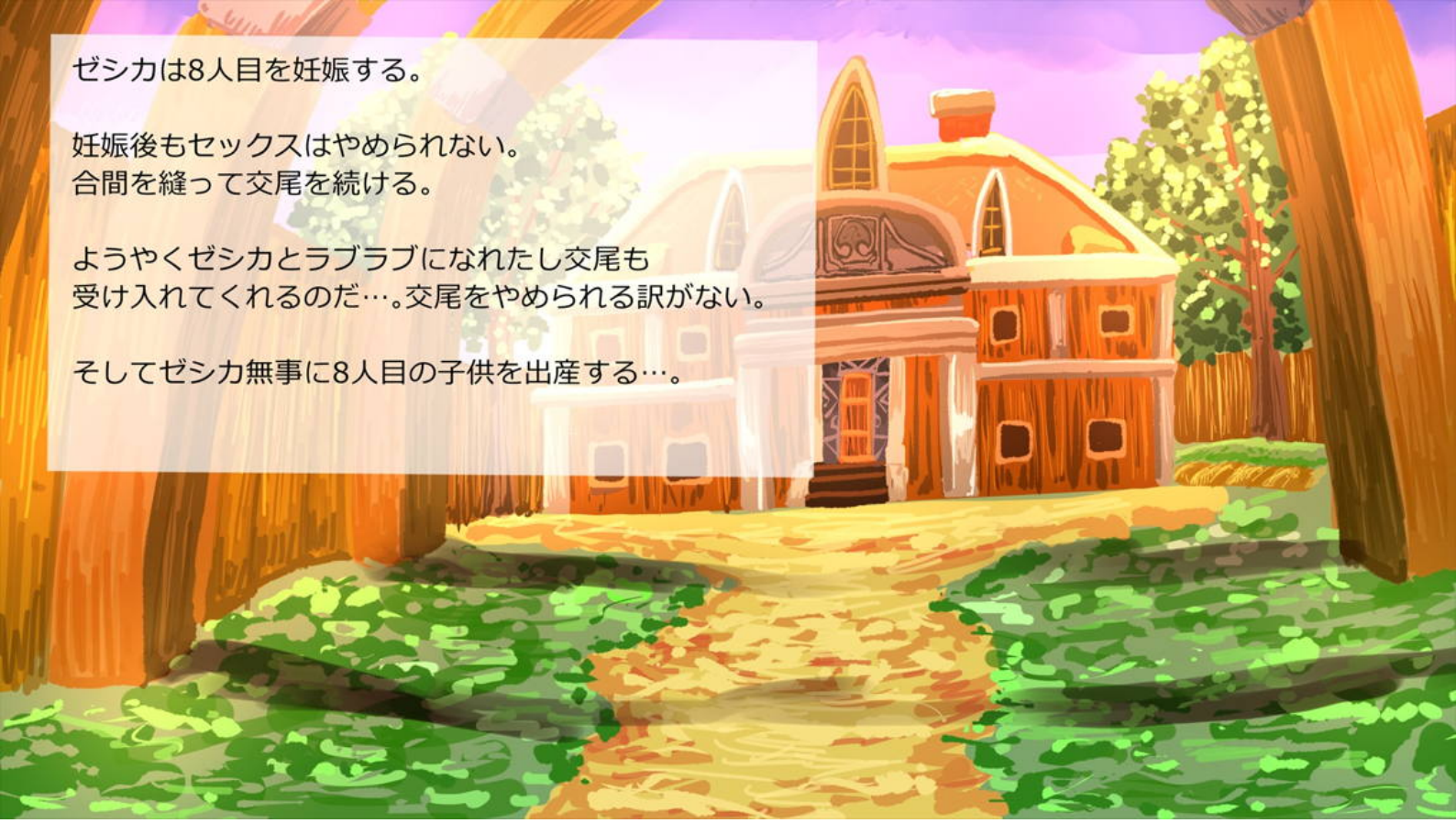
「んうぅぅ♡んぅ♡好きだよぉ♡
いっぱい精子ちょうだぁい♡」
「ゼシカっ♡出すよぉ♡
今日もいっぱい♡」
「今日も準備出来てるよぉ♡
また卵子が待ってるから♡
ダーリンの精子おねだりしてるから♡」
「あぁ♡ゼシカ♡俺の精子も今すぐ
ゼシカの卵子と一つになりたくて
ウズウズしてるよぉ♡
今から沢山出すからなっ♡」
ヌポッ♡
ズブッ♡
ジュボッ♡
ヌプ…♡
ヌボッ!♡
ペロ
レロ♡
ベチャ
ベチャ♡
ベチャ
精子いっぱい♡
子宮にちょうだい♡

「はあうっ♡あぁああ♡ゼシカぁ♡
出るよぉ８人目っ！孕ませるよぉ♡」
「はやくっ♡はやくぅ♡赤ちゃんほしいっ♡
精子送ってっ♡大好きなダーリンの精子っ♡」
「ゼシカぁ♡いっぱい出すからな♡
愛してるぞゼシカっ！♡
俺の精子でまた妊娠するんだぞ！
おっ！おっおっ！お！あぁあ！」
「はあぁあ♡ダーリン愛してるっ♡
私の卵子に精子ちょうだい♡
また妊娠する♡妊娠させてぇ♡
お腹膨らまさせてぇ♡はあぁ♡
あっ！あっ！あ！あぁああ♡」
ドチュ!
ドチュ!!
ドチュ!!
ド!
ドッ!
ドッ!
ドッ!!
あぁ♡
妊娠したい♡
赤ちゃん産むっ♡
精子いっぱい
出してぇ♡
まんこに ドピュドピュ
してぇ♡


「んおっ！おぉおおぉおおっ！
お！あぁあああ！」
「はぁあぁああうぅううう
あああぁっ！あああぁあ！」
どぷっ
どぷどぷっ!!
おおっ！
ビュッ!!♡
「おぉおお！ゼシカっ！
ゼシカ！あぁあ！」
「んあぁああぁっ！来てるっ…
熱いのが…たくさんっ…
私の子宮に…来てるっ♡♡♡」
プシャッ♡
あぁ♡あついの
いっぱい
きてるぅぅ♡
もっと精子っ♡
もっとまんこに
出してぇぇ♡

「うぐっ…！おぉおおお…
妊娠っ…妊娠しろっ…ゼシカ…！」
「あっ♡はあぁあっ♡妊娠するっ♡
妊娠してるっ♡8人目妊娠してるっ♡
今受精してるよぉおお♡」
あっ♡あぁ♡
妊娠してるっ♡
びゅぢゅっ！どぽぽっ！
「まだ出るぞ！いっぱい出してるぞ！
ゼシカの子宮に…孕ませてるぞ！」
「うんっ♡受精してる♡
あなたの子供また妊娠してるっ♡
大好きなあなたの…♡」
「ゼシカっ…あぁあああ…
好きだっ…あぁあああ！」
どぶどぷっ♡
受精してるよぉ♡
赤ちゃんできてるぅ♡


「はあっ！はあ！はあ！はあ！」
「まだ出てるね…」
どぼっ♡
とぽっ♡
ごプッ
コプッ♡
ビュグッ♡
「もっと出せるぞ…」
「そうだよね♡もっと出して
ほしいな♡2回戦…しよ♡」
ビュグッ♡
「あぁ…愛してるよ…
幸せだ…ゼシカ…」
「私もよ…愛してる…♡こんなことに
なるなんて思わなかったけど幸せ…
はやく子供つくろ♡」
「ゼシカ…あぁっ♡」
ちゅっ♡
ちゅっ♡
ちゅっ♡
ちゅ♡
ちゅ♡
もっと
交尾しよ♡
もっと子づくりして♡
種付けしてねえ♡
ガーリンっ♡

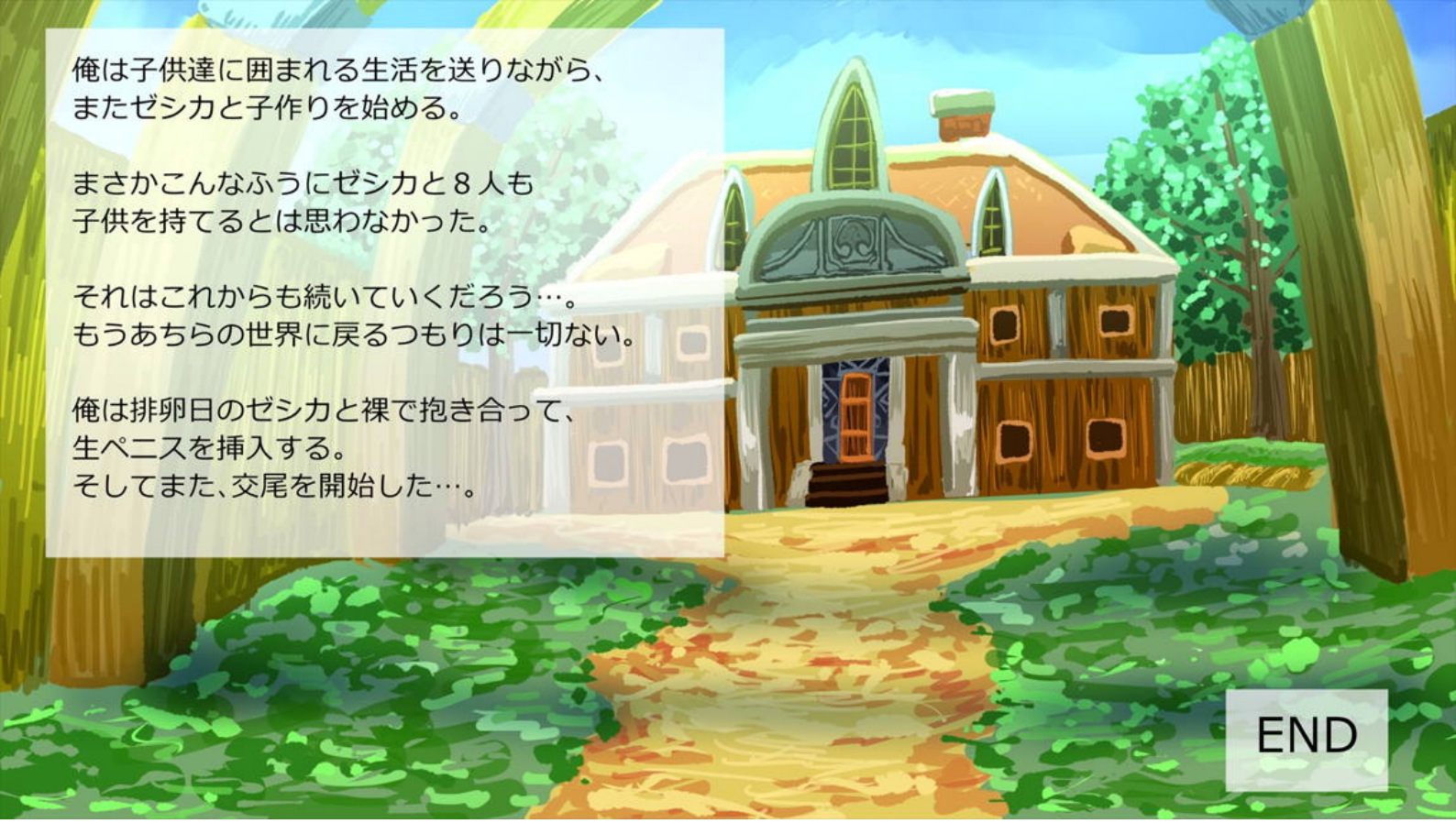


ゼシカは8人目を妊娠する。

妊娠後もセックスはやめられない。
合間を縫って交尾を続ける。

ようやくゼシカとラブラブになれたし交尾も
受け入れてくれるのだ…。交尾をやめられる訳がない。

そしてゼシカ無事に8人目の子供を出産する…。


俺は子供達に囲まれる生活を送りながら、
またゼシカと子作りを始める。
まさかこんなふうにゼシカと８人も
子供を持てるとは思わなかった。
それはこれからも続いていくだろう…。
もうあちらの世界に戻るつもりは一切ない。
俺は排卵日のゼシカと裸で抱き合って、
生ペニスを挿入する。
そしてまた、交尾を開始した…。
END